

者カ一戸ヲ構ヘズ他人ノ家ニ下宿シ或ハ何人カノ下ニ雇傭セラレアルニ拘ラス單ニ何町何番地ト記載シ何某方ヲ遺脱セルタメ檢事ニ於テ送致書記載ノ住所ニ基キ被疑者ヲ葉書ヲ以テ召喚シ或ハ電話ヲ以テ所在捜査ノ指揮ヲナシタルニ該當者ナキ爲其ノ儘事件中止ニナリ起訴シ得ル事件カ起訴不可能トナルコトアリ住居ハ最モ明確ニセサルヘカラス

(2) 被疑者ノ氏名ノ表示法

(イ) 被疑者ノ氏名ハ正確且明白ニ記載スルヲ要ス又送致書欄ニ記載シアル氏名ト實際ノ氏名ト異ルコトナキヲ要ス(第二編第四章ノ(1)同編第十二章第三(二)ノ(1)参照)各書類一貫シテ同一氏名ナラサルヘカラス是カ爲ニハ犯人檢擧後直ニ戶籍調ヲ行ヒ戶籍ニ依ル氏名ヲ記載スルヲ要ス本人ハ川村秀三ト稱スルモ戶籍面ニハ川村秀造ナルコト屢々アリ又戶籍面ニハ小山つねトアルニ自己ハ鈴木つねト稱シアル等ノ事件アリ

(ロ) 多數ノ被疑者アル場合送致書被疑者欄狹少ノ爲其ノ全部ノ氏名住所ヲ記載シ得サルコトアリ此ノ際往々一、二名ノ主タル被疑者ノ氏名ノミヲ表示シ其ノ他何名ト漠然記載スルモノアレトモ斯クノ如キハ被疑者ヲ特定シ得サルヲ以テ此ノ際ハ其ノ欄ニ「別紙記載ノ如シ」トナシ氏名ハ別紙ニ正確ニ記載(住居ト共ニ)シ之ヲ送致書ニ添付シ別紙トノ間ニ契印ヲ

附セハ可ナリ無理ニ細字ヲ以テ不明瞭ニ記載セハ反ツテ誤記誤讀ヲナスコトアリ

(ハ) 指名告訴事件ニ於テハ被告訴人數名アルトキハ送致書被疑者欄ニ其ノ中一、二名ヲ記載シ他ヲ省略スルコトアリ是等ハ取調ノ結果犯罪成立ヲ認メ得サルトキ或ハ省略セラレタル者カ餘リ事件ニ關係ナキ時等ニ於テ起リ得ヘキコトナルカスル記載ハ事實上不起訴處分ヲ爲シタルト同様ナル結果トナリ又一面ニ於テハ告訴事實ニ付司法警察官カ判斷ヲ爲サザリシ批難ヲ受ケ適正妥當ナル取扱ト稱スルヲ得サルヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ被告訴人全部ヲ立件シ然ル後各被告訴人ニ對スル告訴事實ニ付キ適正ナル意見ヲ付スレハ可ナリ

(3) 罪名ノ表示法

(イ) 送致書ニ記載スヘキ罪名ハ當該事件ノ内容タル犯罪事實抄言スレハ當該事件ノ爲作成シタル意見書ニ摘示シタル犯罪事實ト照應シ之ト合致スル罪名ヲ記載スルコト必要ナリ

(ロ) 被疑者數名アル時事件送致書ノ罪名ハ各被疑者トノ關係ニ於テ明確ニ記載スルヲ要ス殊ニ同一事件ノ被疑者數名アリテ夫々相異ル罪名ヲ付スル場合ニ於テ然リ是ノ如キ時ハ各被疑者ト其ノ罪名トノ關係ヲ表示スル爲ニ通常同一符號ヲ以テ表示スルヲ可トス例之

同一事件ニ於テ甲ハ窃盜乙ハ窃盜詐欺トシテ事件送致スル場合ニハ被疑者ノ符合ト罪名ト

憲兵捜査書製作成要領



ヲ合致セシメテ表示スル爲(イ)ヲ(窃盜)(ロ)ヲ(詐欺)ト爲シ件名欄ニ(イ)甲(イ)  
(ロ)乙トシテ示スカ如シ此ノ場合使用セル符號ハ備考欄ニ註記スヘシ

(ハ) 送致書ニ記載スヘキ罪名ニ付キ動モスレハ自己流ノ罪名ヲ付スルモノアリ又適用法條ト罪  
名ト一致セサルモノアリ例ヘハ業務上横領ノ場合法條ノミ刑法第二百五十三條ヲ適用シ送  
致書ニハ單ニ横領トセルモノアリ刑法各條ニ該當スル犯罪ニ付テノ罪名ハ今日ニ於テハ殆  
ント統一セラレ一定ノ罪名ヲ用ヒアリ即チ大正十四年五月四日刑事局第二五三一號司法大  
臣訓令「刑事統計表記載規程」ニ定メラレタル刑法犯罪名附録第五十二ノ如シ  
特別法犯ノ場合ニ在リテハ何々法違反トシテ違反法令ヲ其ノ儘援用スレハ可ナリ只取締條  
項カ施行規則又ハ施行細則ニ在リテ罰條カ本法(母法)ニ在ルカ如キ場合ハ違反法規ハ結  
局本ニ還元セラルヘキヲ以テ本法(母法)ノ違反トシテ表示スルヲ妥當トス

(4) 職、官、氏名ノ表示法

(イ) 事件送致ハ送致憲兵分隊、分遣隊ヲ代表スル司法警察官ノ職、官、氏名ヲ以テ爲スヘキモ  
ノナリ然ルニ往々ニシテ當該事件ノ捜査擔任者タル司法主任ノ職、官、氏名ヲ以テスルモ  
ノアルカ事件送致ハ事件ノ送致憲兵分隊、分遣隊ヨリ其ノ所轄ノ裁判所檢察局(地方裁判

所檢察正又ハ區裁判所上席檢察)ニ當該事件ヲ送致スルモノナルヲ以テ發受各機關其ノ代  
表機關タル長ノ職、官、氏名ヲ以テスルカ當然ナリ

(ロ) 右ノ場合送致憲兵分隊、分遣隊ノ代表機關タル者ノ氏名ハ署名ナリ蓋シ送致書モ刑訴第七  
十一條ニヨル官吏ノ作成スヘキ書類ナルヲ以テナリ

(ハ) 送致書モ前述ノ如ク刑訴第七十一條ニ所謂官吏ノ作成スヘキ書類ナルヲ以テ所屬官署表示  
方法トシテ廳印ヲ押捺シ當該書類作成ノ確實性ヲ示ス事ヲ要求セラレアルモノニ付キテハ  
廳印押捺ヲ遺忘セサルヲ要ス例ヘハ東京刑事地方裁判所ノ如シ

(ニ) 送致スヘキ所轄裁判所檢察局代表者ノ職、官、氏名ニ誤記アル場合往々アリスノ如キ誤ハ  
長官ノ轉任直後等ニ發生シ易シ自己ノ指揮ヲ受クヘキ長官ノ異動ヲ知ラサルカ如キハ迂遠  
千萬ナルノミナラス新長官ノ存在ヲ認メサルカ如ク感セシメ不快ノ感ヲ與フルヲ以テ注意  
ヲ要ス

(ホ) 送致書ト次綴書類トノ間ニ契印ヲ付スルヲ一般トス

(5) 非現行犯事件、現行犯ノ事件ノ表示法

送致書ノ表題ノ上ニハ非現行犯事件又ハ現行犯事件ト表示スル如ク示サレアルモノアルカ此ノ非現



行犯事件若クハ現行犯事件トハ如何ナル事件ヲ意味スルカ是ニ付キテハ二説アリ必スシモ歸一シアラサルカ如シ

### 第一説

本説ニ於テハ現行犯事件トハ現行犯ニ係ル事件ヲ意味ス而シテ現行犯トハ刑訴第三百十條ニ示ス「現ニ罪ヲ行ヒ又ハ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル犯罪」即チ發覺ノ態様ヲ示スモノナリ果シテ然ラハ其ノ犯罪發覺ノ状態タル事實ハ將來如何ナルコトアルモ未來永劫ニ變化スルモノニアラスシテ一度現行犯トシテ發覺セル以上飽ク迄現行犯ナリ從テ現行犯トシテ發覺シ現行犯事件トシテ強制捜査ニ依リ身柄ト共ニ事件送致ヲ爲スモノ即チ現行犯事件タルコト言テ俟タサル所ナルノミナラス更ニ又某所ニ於テ物盜ヲナシ其ノ現場ニ於テ逮捕セラレ現行犯トシテ捜査セルニ其ノ者ノ住居モ定リ氏名モ分明シ犯罪事實モ自白シ逃走ノ虞ナシト認メ之ヲ釋放シ在宅セシメ後日一件書類作成ノ上所轄裁判所檢事ニ事件送致スル場合ノ如キモ非現行犯事件ニアラスシテ現行犯事件ク又更ニ現行犯人ヲ逮捕シ現行犯事件トシテ捜査セルニ他ニ多數ノ犯罪アルコト發覺セルモ刑訴第二百二十七條ニ規定スル「司法警察官ニアリテハ遅クモ四十八時間ニ書類及證據物ト共ニ之ヲ所轄裁判所檢事ニ送致」シ得サルヲ以テ現行犯處分ヲ中止シ一定期間任意留置シ全捜査完了後事

件ヲ送致スル場合ニ在リテモ尙當該事件ハ依然トシテ現行犯事件ニシテ單ニ現行犯處分ヲ中止シタルニ過キストナスモノナリ

### 判例

#### 現行犯事件ト通常ノ捜査手續

現行犯事件ト雖モ通常ノ捜査手續ニ關スル規定ニ從ヒ取調ヲ爲スコトヲ得(昭、七、四、一一大審院)

#### 現行犯事件ヲ非現行犯事件トシテ爲ス取調ハ有効

非現行犯事件ヲ現行犯トシテ處理スルハ違法ナレトモ現行犯事件ニ付非現行犯ニ關スル規定ニ從ヒ取調ヲ爲スハ違法ニ非ス

現行犯ニ付テハ法律ハ強制力ヲ用フル特別ノ捜査處分ヲ認メ司法警察官ニ被疑者訊問ノ權ヲ與ヘタリト雖モ通常ノ捜査手續ニ依ルハ固ヨリ何等妨ケアルモノニ非ス加之通常ノ捜査手續ニ依リテ捜査ノ目的ヲ達スルコトヲ得ル場合ハ特別ノ捜査處分ヲ避クヘキコト寧ろ法ノ本旨トスル所ナリ從テ現行犯事件ニ付被疑者ノ訊問ヲ爲サスシテ任意ノ供述ヲ聽キ聽取書ヲ作成スルハ違法ニ非サルコト勿論ナリ(昭、七、四、一一大審院)



第二說

本說ノ趣旨ハ事件送致書ニ記載スル非現行犯事件、現行犯事件ノ區別ハ送致時ノ手續ヲ標準トシテ決定スヘキモノニシテ現行犯事件トハ當該事件ヲ送致スル際現行犯ノ手續ヲ執リ非現行犯事件トハ同シク送致ノ際非現行犯ノ手續ヲ執リアリシモノニシテ現行犯事件若クハ非現行犯事件トシテ送致ニ及フト解スヘキナリト云フニアリ從テ事件送致ノ時現行犯トシテ捜査シ引續キ現行犯手續ヲ履行シアルニ非サレハ假令犯罪カ現行犯トシテ發覺スルモ玆ニ所謂現行犯事件ニ非スシテ非現行犯事件トシテ送致スヘキモノナリト爲スモノナリ故ニ事件送致ノ時現行犯手續ヲ中止シ非現行犯トシテ捜査シ事件ヲ送致スル場合ハ此事件ハ最早現行犯事件ニ非スシテ非現行犯事件ナリト謂フニ在リ

通説

以上兩說共ニ解釋上ノ一見解タルヲ失ハス然レトモ理論的ニ考フル時ハ現行犯トハ犯罪發覺ノ態様ヲ以テ稱スヘキモノナルヲ以テ現行ノ犯罪ノ發覺セルモノカ非現行犯ニ變ルコトハ首肯シ得サル所ナルヲ以テ現行犯トシテ發覺シタル事件ハ依然トシテ現行犯ナリトスル第一說ヲ首尾一貫シアルモノト思料セラルルモ實際的取扱ハ送致ノ時手續ヲ基礎トシ第二說ニ據ルモノ多シ

(6) 發覺原因(由)ノ表示法

發覺原因ノ欄ニ於テ「司法警察吏何某ノ逮捕手續書」又ハ「逮捕手續書ニ依ル現行犯」等記載シア  
ルモノアルモ首肯シ得ス是ハ司法警察官吏ノ犯罪發覺ノ努力ヲ表示スル意味ニ於テ記載セラレタルモノナランモ發覺原因ノ記載ハ特ニ所謂「有リノ儘」ニ記載スルニ於テ信憑力ヲ増スモノナルヲ以テ投書ニ端緒ヲ得タルナレハ「投書」、聞込ミナレハ「聞込ミ」、届出ニ端緒ヲ得タルナレハ「何某ノ届出」、現行犯逮捕ニ端緒ヲ得タルナレハ「現行犯逮捕」、ト率直ニ記載スルヲ要ス

(7) 被疑者ノ身柄ニ關スル表示法

事件送致書ニハ身柄ノ處置ヲ明確ニスルヲ要ス身柄ヲ拘束スヘキ現行犯事件並令狀ヲ請求スヘキ事件ノ場合ニ於テ殊ニ然リ而シテ此ノ表示法ニ就キテハ各「司法警察執務細則」ニ明示セラレアルヲ以テ是ニヨリ適確ナル記載ヲ爲スヲ要ス

(8) 備考欄ニ記載スヘキ事項

備考欄ニ記載スヘキ事項ニ付テハ何等ノ制限ナク所謂參考トシテ當該送致事件ニ關聯スル各欄記載以外ニ必要トスル事項ヲ記載スルヲ普通トスルモ  
1、記録ト共ニ送付シ得サル證據物件アルトキ

憲兵捜査書類作成要領



- 2、併合罪、共犯其ノ他牽連シタル犯罪事件ニシテ同時ニ送付スルコト能ハサル事情アル場合ニ於テ別件トシテ發送スルトキ
  - 3、當該送致事件カ以前送致セル事件ト牽連スルトキ
  - 4、假出獄、刑ノ執行猶豫、刑ノ執行停止、又ハ拘留ノ執行停止、保釋、責付中若クハ恩赦ニ因リ赦免セラレタル者ノ被疑事件ヲ送致スルトキ
  - 5、十四歳未満ノ刑事責任無能力者ノ刑事事件等
- ヲ記載スルコトヲ要求セラレアルモノ多シ

(9) 朱書又ハ附箋ニテ表示スヘキ事項

地方裁判所ニヨリ特ニ朱書事項、附箋事項ヲ指示スル所アリ即チ左ノ如キハ其ノ一例ナリ

- 1、思想犯事件ニ在リテハ送致書適宜見易場所ニ<sup>㊦</sup>ノ朱印ヲ押捺ス
- 2、假出獄、刑ノ執行猶豫、刑ノ執行停止又ハ保釋、責付其ノ他拘留停止中ノ被疑者ニ對スル事件ヲ送致スルトキ被疑者氏名肩書ニ其ノ旨朱書ス
- 3、被疑者在郷軍人、有位帶動者又ハ現職官公吏ナルトキ豫備役陸軍歩兵少佐等ト朱書ス
- 4、被疑者ノ身柄ヲ記録ト共ニ送致スルトキハ送致書ニ赤色ノ附箋ヲ付ス

### 第十四章 事件送付書

#### 第一、事件送付ノ特異性

刑事訴訟法上事件送付ノ手續ヲ採ルヘキ事件ハ告訴、告發及自首ノ場合ニ限定セラレアリテ事件送致ニ在リテハ事件ハ送致官署ヨリ離レ所轄裁判所檢事局ニ移管セラルルニ反シ事件送付ハ檢事ヨリ何分ノ指揮アル迄ハ事件ハ依然送付官署トノ關係ヲ離レサルモノナリ

#### 第二、送付事件ノ取扱要領

刑訴第二百七十四條ニ依レハ「司法警察官告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ」又同第二百七十六條ニハ「……第二百七十四條ノ規定ハ自首ニ付キ之ヲ準用ス」トアルヲ以テ本條ノミヲ見ルトキハ司法警察官カ告訴、告發又ハ自首ノ事件ヲ受理シタル場合ニ在リテハ之ニ關シ何等ノ搜查ヲナサシテ直チニ之ニ關スル書類即チ告訴狀、告發狀又ハ自首狀（口頭ノ場合ハ告訴調書、告發調書、自首調書）ヲ證據物ト共ニ管轄裁判所檢事ニ送付スルヲ要スル如ク解セラルルモ本條ノ趣旨ハ然ラス蓋シ告訴、告發ノ如キハ其ノ反面誣告罪ノ制裁アリ誣罔ニ互ルモノナキヲ保シ難ク又自首ニ於テモ其ノ眞犯人ナルヤ否ヤヲ取調フルノ必要アリテ何レモ捜



査上注意ヲ要スルモノ少ナカラサルヲ以テ斯ノ如キ事件ヲ受理セルトキニ於テハ必要ナル捜査ヲ遂ケ其ノ程度ニ於テ將來如何ニスヘキヤニ付檢事ノ指揮ヲ受クル爲書類(事件送付書、告訴、告發、自首調書、同補充調書、證據金品總目錄、記錄目錄、被告訴人ニ對スル調書等)及證據物ヲ檢事ニ送付スルニ在リ而シテ此ノ場合ニ於テハ或ハ送致書ニ於ケルカ如キ正確ナル意見書ハ作成スルヲ得ストスルモ(京都地方裁判所檢事局ニ於テハ意見書ヲ附スルカ如ク示サレアリ)送付當時ニ於ケル捜査材料ニ依リ一應ノ意見ヲ付シテ送付スルヲ至當トス此ノ場合意見ハ備考欄ニ其ノ旨ヲ附記スルヲ普通トス以上ノ如ク事件送付スル際檢事ヨリ書類及證據物ヲ捜査指揮書(例参照)ト共ニ返還アリタル時ハ司法警察官ハ更ニ之ニ基キ取調ヲ爲スヲ要シ其ノ取調ノ結果、被害者ニ對スル或ル犯罪ノ成否並ニ其ノ情狀又ハ真相ニ關シ相當ノ程度迄明白トナリタル際ハ「司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付捜査ヲ終ヘタルトキハ捜査ノ端緒如何ヲ問ハス速ニ檢事ヲ送致」(司職一一一ノ一)スヘク同時ニ「意見ヲ付シ且參考トナルヘキ事項ヲ報告ス」(司職一一一ノ二)ルヲ要シ「捜査書類及差押又ハ領置シタル物ハ(證據物)ハ意見書ト共ニ檢事ニ送付」(司職一一一ノ二)セサルヘカラス然レトモ實際上ノ取扱ニ於テハ事務簡捷ノ見地ヨリ檢事ヨリ更ニ捜査ノ指揮ヲ爲スカ如キ場合ハ比較的僅少ニシテ送付手續ヲ便宜上送致手續トシテ取扱ヒ其ノ旨送付官署ニ通知シ來ル場合多シ

送付書並捜査指揮書例

告訴(告發又ハ自首)事件送付書

被疑者 氏 名

右被疑者ニ對スル何々(罪名記載)告訴(告發又ハ自首)事件ニ付必要ノ捜査ヲ遂ケ候條別紙記錄目錄ノ通り及送付候也

昭和 年 月 日  


某 官 署  
 司法警察官 官 氏 名 印

何裁判所檢事正(檢事) 殿

告發受理年月日	昭和 年 月 日
備考	受理



### 捜査指揮書

昭和 年 月 日送付

被疑者 何 某

右被疑者ニ對スル何々事件ニ付捜査指揮ノ求有之候處左記ノ取調完了ノ上意見書ヲ附シ記録送致ノ取計可有之候也

昭和 年 月 日

何裁判所檢事局

檢事 氏 名 〇

何 官 署

司法警察官 何 某殿

一、何 々

一、何 々

## 第十五章 捜査書類ノ編綴

### 第一、捜査書類編綴ノ意義

捜査書類ノ編綴トハ司法警察官カ當該被疑事件ノ捜査完了シタル際所轄裁判所檢事局ニ事件ヲ送致スル爲捜査書類ヲ一定ノ順序ノ下ニ一括編組スルヲ謂フ

### 第二、捜査書類編綴ノ順序

捜査書類ハ概ネ左ノ順序ニ依リ編綴スルモノトス

- 1、事件送致書
- 2、證據金品總目錄
- 3、書類目錄（記録目錄）
- 4、意見書
- 5、其ノ他ノ書類

前項其ノ他ノ書類ハ受付又ハ作成ノ順序ニ依リ編綴スルモノトス但シ犯罪事件複雑ナルトキハ適宜分類シ事實毎ニ關係書類ヲ合綴スルヲ妨ケス

憲兵捜査書類作成要領



### 第三、捜査書類編綴上ノ注意

一八六

- (1) 意見書以下ノ書類ハ順ヲ追ヒ毎葉左上欄外ニ丁數一、二、三……十一、十二ヲ附シ目錄丁數欄ニハ各書類ノ初葉ニ記シタル丁數ヲ掲クルヲ一般トスルモ事件送致書ヨリ又ハ第5項ノ文書ヨリ丁數ヲ附スル如ク要求セラレアルモノアリ各執務細則ニ據ルヘシト雖モ送致書一丁トシ以下順次丁數ヲ附スルモノ多シ
- (2) 書類目錄中ニ於ケル文書ノ種類(文書ノ標目)欄ニ單ニ聽取書或ハ被疑者又ハ關係人聽取書、被疑者關係人始末書等ノ記載アリテ果シテ何人ノ分ニ屬スルヤヲ明記セサルモノ往々アリ備考欄ニ必ス該當者ノ氏名ヲ明記スルヲ要ス
- (3) 一件記録ノ餘白ニ斜線ヲ施スモノアルモ順次附加シタル書類ノ目錄ヲ記入スル爲空欄ノ儘ニ爲シ置クヲ可トス
- (4) 丁數ノ記載ヲ遺忘セサルヲ要ス

## 第三編 憲兵カ軍司法警察官吏トシテ作成

### スヘキ捜査書類

吾人憲兵ハ司法警察官吏トシテ又軍司法警察官吏トシテ捜査書類作成ニ任セサルヘカラサルモ研究ノ便宜上先ツ司法警察官吏トシテ作成スヘキ書類ノ作成要領ニ付キ講述スヘキコトニ關シテハ第二編憲兵カ司法警察官吏トシテ作成スヘキ捜査書類モ軍司法警察官吏トシテ作成スヘキ捜査書類モ齊シク捜査書類ナルヲ以テ其ノ内容ニ於テ大ナル差異アルニ非ス唯其ノ形式、名稱等ニ於テ多少ノ相違アルニ過キサルヲ以テ本編ニ於テハ專ラ軍司法警察官吏トシテ作成スヘキ捜査書類ノ司法警察官吏トシテ作成スルモノトノ相違點ニ就テ説述セントス

### 第一章 捜査報告書、送致書(附錄第五十四、第五十五)

#### 第一、捜査報告書、送致書ノ意義

茲ニ所謂捜査報告書トハ軍司法警察官カ捜査ヲ完了シタル際其ノ捜査ノ結果ヲ整理シ一ノ下ヲ取纏メ捜査書類ヲ編綴シ一件記録トナシ軍法會議ノ長官ニ報告スルニ際シ最先ニ綴付スヘキ概ネ一定ノ事

憲兵捜査書類作成要領

一八七



項ヲ記載シタル捜査書類ヲ謂フ

送致書トハ右ノ場合主トシテ豫審官ノ處分ヲ要スルトキ所管軍法會議ノ檢察官ニ對シ送致スル場合一件記録ノ最先ニ綴付スヘキ書類ナリ

## 第二、捜査報告書、送致書作成上ノ注意

(1) 本籍ノ表示法

第二編第十二章第四項記載要領下同様ナルカ被告人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルヲ可トス例之  
戸主甲一郎長男、戸主甲一郎從弟等ノ如シ

(2) 出生地、住所ノ表示法

出生地ハ特ニ要求セラレアル事項ナルカ本項ノ記載ニ付キテハ第二編第十二章第四項ニ記載セルモノト同様ナル注意ヲ以テ記載スルヲ要ス

(3) 職業ノ表示法

軍人中下士官將校ニ就キテハ職業ノ記載ヲ必要トセサルモ兵ニ就キテハ入隊前ノ職業ヲ記載スルヲ要ス軍屬其ノ他ニ付キテハ犯行當時ノ職業(身分タルコトアリ)ヲ記載スルヲ要ス  
尙軍司法警察官ノ捜査開始後其ノ身分ヲ喪失シタル時ハ元ノ字ヲ冠スルヲ要ス例之

元〇〇〇特務機關雇員等ノ如シ

(4) 隊號ノ表示法

隊號ハ所屬中隊迄表示スルヲ可トス例之

歩兵第一聯隊第二中隊、歩兵第四十三聯隊留守隊第九中隊、第六國境守備隊歩兵第五中隊、獨立守備歩兵第二十七大隊第二中隊ノ如シ特設部隊ナレハ第九師團歩兵第一百十九聯隊大行李、留守第四師團通信隊ノ如シ

軍屬ナレハ其ノ所屬官衙、學校、部隊、機關名ヲ記載スルヲ要ス例之

〇〇特務機關ノ如シ

(5) 件名ノ表示法

第二編第十二章第四項ノ罪名ノ表示法ニ同シ

(6) 官等級ノ表示法

現役以外ハ役種例之

豫備役ヲ附記スルヲ要ス軍屬ニ於テハ職業ト關聯シ陸軍工員、雇員トスルヲ一般トス

(7) 年齢ノ表示法

憲兵捜査書類作成要領



年齢ハ生年月日ヲ以テ示スヘシ

(8) 隊印

隊印ハ押捺スルノ規定ナキモ證據力ヲ増ス意味ニ於テ押捺スルヲ例トス

(9) 犯罪事實、犯罪ノ原因、動機、犯罪發覺ノ原因、證據、前科犯罪ノ情狀及處分上ノ意見等

本項ハ意見書作成要領ト同シ

(10) 捜査報告書ノ宛名ハ軍法會議長官殿トスルコトナク第何師團長何某殿又ハ何軍司令官何某殿トシ

送致書ニ在リテハ第何師團軍法會議檢察官何某殿トスルヲ要ス

(11) 報告又ハ送致官署名又ハ何憲兵分隊長陸軍司法警察官何某トスルヲ可トス

(12) 封筒上ノ宛名ハ事務取扱ノ便宜上捜査報告又ハ送致ノ別ナク第何師團軍法會議檢察官何某殿トスルモノトス

## 第二章 其ノ他ノ捜査書類

(1) 軍法會議管轄事件ニツキテハ軍司法警察官吏トシテ書類ヲ作成スルモノナリ

(2) 右管轄事件ノ犯人ハ被告人ト稱ス事案ハ何被告事件ト稱ス

(3) 他部隊長ヨリ捜査ノ委囑ヲ受ケ捜査ヲ行ヒタルトキハ其ノ旨記載ノ書面ヲ受理シ捜査ノ端緒トナスヲ要ス (附錄第五十六)

(4) 軍所用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ在ル者又ハ軍法第一條記載ノ者ニシテ右以外ノ場所ニ在ル者ニ任意出頭ヲ求ムルニハ其ノ部隊ノ長ニ對シ附錄第十六様式ノ出頭照會狀ヲ發シテ出頭方囑託スルヲ適當トス

(5) 軍法會議ニ於テハ聽取書ハ裁判官ニ於テ自由ニ之ヲ證據トシテ採擇スルコトヲ得ルヲ以テ刑訴第三百四十三條ノ如キ制限ナシ

(6) 被告人ニツキ經歷、境遇等ヲ明ニスヘキ規定ナキモノハ素行ノ項ニ於テ明ニスルヲ要ス

(7) 聽取書ノ前書附錄第五十八ノ如シ但シ本籍地出生地ハ被告人ニ就テノミ記載ス  
第二回目以下ノ聽取書訊問調書ニハ「第何回訊問調書」ノ如クシ所屬、官等級、氏名ノミニテ可ナリ (附錄第二十三)

(8) 任意領置ハ軍司法警察ニ於テハ之ヲ假領置ト稱シ任意領置シタルトキハ假領置品目錄ヲ作成ス (附錄第六十三)

(9) 軍司法警察ニ在リテハ軍司法警察吏ノ立會ヲ要セサルヲ以テ其ノ署名捺印ヲ必要トセス

憲兵捜査書類作成要領



- (10) 陸軍司法警察官常人ヨリ其ノ逮捕シタル現行犯人ヲ受取リタル時並ニ陸軍司法警察吏ノ引致シタル現行犯人ヲ受取リタル時ハ逮捕事由聽取書ヲ作成スヘシ
- (11) 婦女ノ身體検査ヲ爲ス際ハ通常ノ場合ニハ醫師又ハ成年ノ婦女ヲ立會ハシメ其ノ旨調書ノ前書ニ記載スルヲ可トス
- (12) 診斷書ヲ添付スヘキ事件ニアリテハ病名、創傷等ヲ明記スルノミナラス治療日數並ニ要治療推察日數ヲモ記載スルヲ可トス
- (13) 記録目錄丁數欄中ニ於テ書類初葉ノ丁數ニアラスシテ其ノ書類ノ丁數ヲ記載スル如ク示サレタルモノアリ
- (14) 證據金品總目錄ハ作成セス當該記録中ニ二回以上ニ互リ證據金品ヲ押收領置シタルト一回トヲ問ハス證據物目錄ヲ作成ス(附錄第四十八)
- (15) 一件記録ニハ被告人ノ利益トナルヘキ事項トシテ功績名簿寫ヲ添付スルヲ忘ルヘカラス(附錄第六十)
- (16) 軍司法警察ニ在リテハ送付事件ナシ
- (17) 意見書作成セス意見書内容ト同一事項ハ捜査報告書、送致書中ニ記載ス

- (18) 不在逃亡被告事件ニ於テ逃亡罪成立シタルトキハ軍司法警察官ハ被告人不在ノ儘捜査報告ヲ爲スヘシ此ノ際所屬部隊ヨリ不在證明書(附錄第五十八)人相書(附錄第六十一)着帶品目錄(附錄第五十七)ヲ作成交付ヲ受ケ添付スルヲ要ス  
而シテ逃走ノ際着帶セル官給品カ後日發見セラレ之ヲ受取リタルトキハ其ノ都度品目、員數ヲ檢察官ニ通報スルヲ要ス
- (19) 司法警察ニ於ケル素行調書ノ代替ニ身體明細書(附錄第五十九)ヲ送付ス既成ノモノナキトキ或ハ既成ノモノアルモ不備ノ時ハ憲兵ニテ作成スルヲ要ス
- (20) 陸(海)軍軍人軍屬等犯罪即決法ニヨリ處分シタル際ノ言渡書、科料金額假納命令書、科料收納書、執行囑託書(附錄第六十五、六十六、六十七、六十八)ノ如シ



附

錄



附 錄

第一、搜查報告書、搜查復命書

其ノ一、犯罪事實探知報告書

犯罪探知報告書

昭和十二年五月二十四日

海軍司法警察官陸軍憲兵曹長

南海 三郎

㊦

橫須賀憲兵分隊長海軍司法警察官陸軍憲兵少佐 何 某殿

住所 橫須賀市稻岡町七番地

電氣工業請負業

甲 野 一 郎

住所 東京市本所區東兩國二ノ五番地

電氣工業請負業

乙 田 二 郎

住所 橫須賀市長浦一〇五四番地

所屬 橫須賀海軍建築部

海軍技生

丙 山 三 郎

憲兵搜查書類作成要領附錄



住所 三浦郡逗子町一二二番地  
所屬 橫須賀海軍建築部

海軍技生 丁川 四郎

海軍建築部電氣關係監督者ト同工事請負者等トカ出張工事現場ニ於テ響應金品授受ノ風評アルヲ探知シ爾來秘密裡ニ解傭店員並ニ反感ヲ有スル同業者及橫須賀、橫濱方面料亭等ニ連絡鋭意内査ヲ續行セリニ左記事實判明セリ

### 犯罪事實

- 一、丙山技生ハ昭和八年三月厚木町半原間ノ電話線張替直營工事實施並ニ之カ監督ノ爲厚木町ニ出張中電工人夫ノ供給ヲ請負ヒアリシ甲野一郎ヨリ同町料亭大和ニ於テ響應ヲ受ケ且同人ハ常ニ現場ニ於テ監督スヘキヲ殆ト現場ニ居ルコトナク甲野一郎ヨリ現金ヲ收受シ東京方面ニ出向シ居タリ
  - 二、昭和十一年橫濱航空隊工事ノ際監督者丁川技生ハ請負者乙田二郎ヨリ橫濱市磯子區待合梅本旅館ニ於テ響應ヲ受ケタル事實判明セリ
  - 三、尙兩名共同様請負者ヨリ相當響應ヲ受ケ居ル旨探知セリ
- 以上ノ狀況ナルヲ以テ一應取調ノ要アルモノト思料セラレ報告候也

### 其ノ二、被疑者同行報告書

### 被疑者同行報告書

昭和十三年十一月十九日 板橋憲兵分隊

司法警察官陸軍憲兵曹長 東山 太郎  
司法警察官陸軍憲兵伍長 西山 次郎

板橋憲兵分隊長代理司法警察官陸軍憲兵少佐何 某殿

昭和十三年十一月十九日午前零時三十分頃東京市王子區堀船町一ノ六八二番地地先ニ於テ師團秋季演習ヨリ歸途中ノ憲兵伍長田山三郎ノ乘馬セル軍馬花川號ニ後方ヨリ強度ニ追突爲ニ田山伍長ハ軍馬ト共ニ横倒シトナリ花川號右臀部ニ長サ三十糎、幅二十五糎、深サ二糎、創面剝皮全治三週間受傷セシメタル儘逃走セル自動車轢逃犯人ニ關シ依命捜査シタルニ追突當時強打セル爲落失セル「ドー」把手ニヨリ該自動車ハ

東京市王子區豊島町六三五

石井自動車商會 右野 五郎

憲兵捜査書類作成要領附録



ノ所有ニ係リ傭人王子區豊島町八六五山川松藏(當三十三年)ノ專屬運轉自動車ナルコト判明シタルニ付同人ニ付事實ノ有無取調タルニ前記標逃犯人ナル旨自供セルニヨリ該自動車ト共ニ任意同行セルニ付報告候也

其ノ三、被疑者同行復命書

被疑者同行復命書

本籍 東京市淀橋區東大久保三番地  
住居 東京市中野區園町二番地

土工 甲野 一郎

當三十年

右ノ者窃盜事件被疑者トシテ依命所在捜査中同人ハ本月上旬頃ヨリ東京市豊島區方面ニ出稼中ナルヲ聞知シ同地ニ出張ノ上捜査シタル處同人ハ同區長崎兩町一〇二五番地丙山三郎方ニ就寢中ナルヲ本日午前一時十分發見セルヲ以テ同人ノ承諾ヲ得同行致シ候條此段及報告候也

昭和十四年十一月二十八日

牛込憲兵分隊

司法警察吏陸軍憲兵上等兵 乙田 二郎

何 某殿

牛込憲兵分隊長司法警察官陸軍憲兵大尉

其ノ四、所在未發見報告書

所在未發見搜查報告書

本籍 埼玉縣北埼玉郡加須町上町一番地  
住居 東京市中野區園町二番地

米穀商 甲野 一郎

當二十一年

右ハ近ク徴兵検査ヲ受クヘキ者ナルカ昭和十四年四月十四、五日頃ヨリ所在不明トナリ或ハ何人カニ殺害サレタルニアラスヤト容疑ノ節アル趣同人母甲野冬子ヨリ搜索方願出アリタルニ依リ依命捜査スルモ同人ノ所在發見スルニ至ラス引續キ捜査中ニ有之候此段及復命候也

昭和十四年四月二十六日

牛込憲兵分隊

憲兵捜査書類作成要領附録



牛込憲兵分隊長司法警察官陸軍憲兵大尉 何 某殿  
司法警察吏陸軍憲兵上等兵 乙 田 二 郎

其ノ五、被告人ノ自供ニ關スル件報告書

被告人ノ自供ニ關スル件報告書

本籍 東京市澁橋區東大久保三四二番地  
所屬 歩兵第何聯隊第一中隊

陸軍歩兵一等兵 甲 野 一 郎

昭和十四年十月六日午前十時三十分小職右ノ者ヲ黨與上官暴行被告事件ノ被告人トシテ依命所屬部隊ヨリ當隊ニ同行中乃木坂ニ差シ掛リシ時此時迄如何ニモ打萎レ下向キ勝ニ歩行中ナリシ被告ハ遽ニ頭ヲ擡ケ小職ニ對シ「上等兵殿今度私ハ酒ノ上トハ謂ヘ誠ニ馬鹿ナコトヲ致シマシタ憲兵隊デ御調ノ上ハ一切ヲ申上ケテ罪ヲ願フツモリデアリマスカ班長殿モモウ少シ平素部下ヲ可愛カツテ呉レタナラアソナコトハ起ラナカツタト思ヒマス  
御承知ダト思ヒマスカ成程私モ班長殿ヲ手デツツ突キマシタガアノ時一番ヒドク班長殿ヲ殿ツタノハ

高田ト佐藤デアリマシテ其ノ外私ノ後方ニハ未タ山田一等兵モ居リヤレトケシカケテ居リマシタト語リタルモノナリ

當時ノ被告人ノ態度ヨリ考ヘ其ノ陳述ハ事實ナリト思料セラルルヲ以テ是等ニ對シテモ取調ノ要アルモノト思料ス

昭和十四年十月六日

赤坂憲兵分隊

陸軍司法警察吏陸軍憲兵兵長 乙 田 二 郎

赤坂憲兵分隊長陸軍司法警察官陸軍憲兵少佐何 某殿

其ノ六、實況見分書ニ該當セサル實況見分ノ結果復命書

證據物見分復命書

昭和十三年十一月十九日 板橋憲兵分隊

司法警察吏陸軍憲兵兵長 甲 野 一 郎

板橋憲兵分隊長代理司法警察官陸軍憲兵少佐何

某殿

憲兵搜查書類作成要領附錄



被疑者山川松藏ニ對スル自動車取締令違反被疑事件ニ關シ軍馬花川號ヲ傷害シタル當時本人ノ運轉セ  
ル自動車ニ付キ依命本日午後二時三十分東京市王子區豊島町六三五番地石野五郎方ニ於テ該自動車ヲ  
檢シタルニ

一、車輛様式

「ナツシュ」三十七年型七人乗、乘用自動車警視廳番號一六三六一號

運轉臺 左側

車長 五米

車幅 一、八五米

高さ 一、八〇米

車重量 一五八〇𦨭

氣筒 四程式六箇

馬力 二七馬力

現在走行杆數 三五、〇九〇杆

二、車輛破損狀況

1、左前「フエンダー」彎曲

2、左前「ウインドガラス」破損

3、左側方向指示器破損

4、左側運轉臺扉彎曲

5、左側運轉臺扉把手破損（把手落失）（證第一號）

6、左後「フエンダー」彎曲

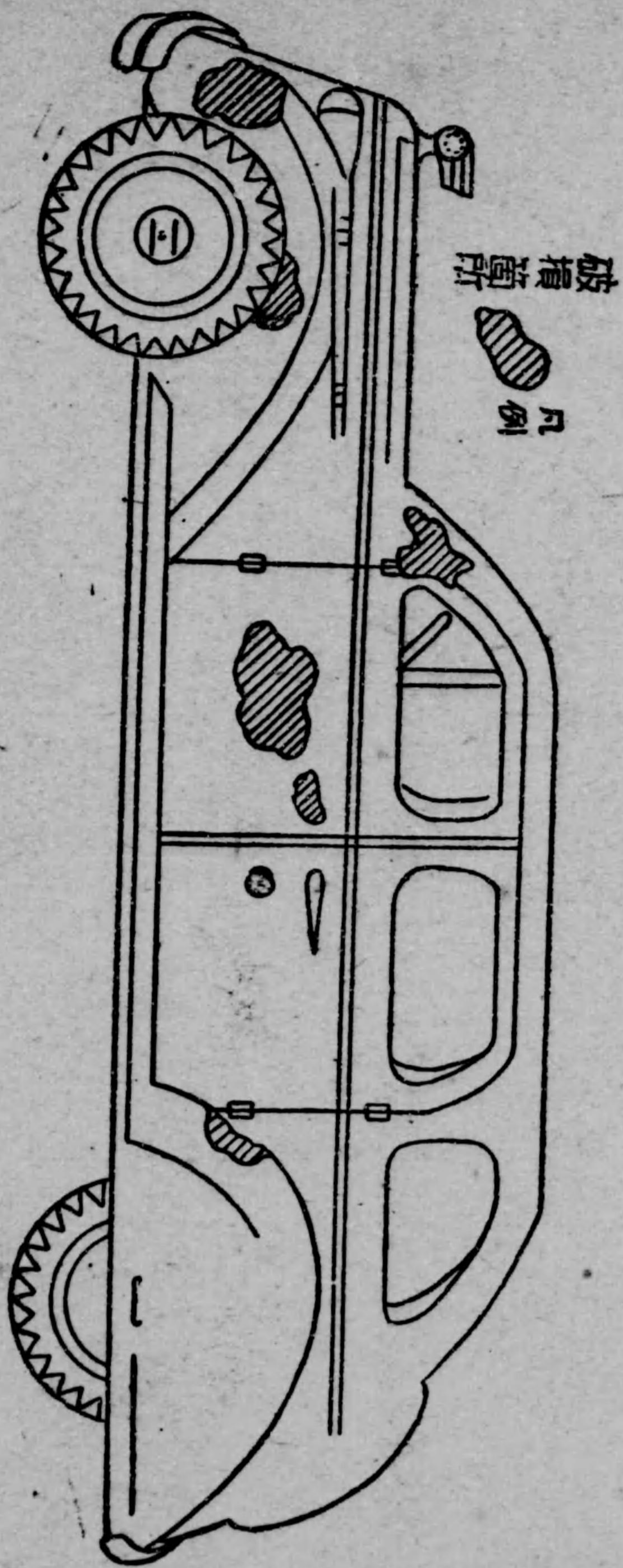
以上ノ通りニシテ之ヲ詳細ニ檢スルニ左側運轉臺扉把手ノ折損箇所ニ長サ約二繩茶色ノ馬匹ノ毛  
數本ノ附着シアアルヲ認ム

三、次ニ被疑者山川松藏ヲシテ前記自動車ヲ運轉セシメ前進停止ノ操作ヲ爲サシメタルガ機關ニハ異  
狀ヲ認メズ

以上ノ状態ヲ明カナラシムル爲要圖一葉ヲ添付ス



加害自動車六一六三一號圖



其ノ七、證據物見分復命書

### 證據物見分復命書

昭和十三年十一月十九日

板橋憲兵分隊

司法警察吏陸軍憲兵兵長 甲 田 一 郎

板橋憲兵分隊長代理司法警察官陸軍憲兵少佐何

某殿

依命被疑者氏名不詳ノ自動車取締令違反被疑事件捜査ニ關シ本日午前二時十分被害馬匹タル板橋憲兵分隊隊馬花川號ノ被害狀況ヲ同隊既舎ニ於テ檢シタルニ別紙見取圖ノ如ク右臀部ニ長サ約三十糎、幅約二十糎、深サ約二糎ノ鈍器ニ依ル裂創及兩飛端下部ニ擦傷アリ而シテ該裂傷部ノ茶色毛ハ全部剝奪セラレ且該部ヨリ多量ノ出血ヲ認メ創面ノ接觸ヲ極度ニ嫌壓シアリ然レトモ歩行並ニ食慾ニハ異狀ヲ認メサル狀況ナリ

右報告ス



花川號創傷見取圖



1106

其ノ八、證據物發見報告書

### 證據物發見報告書

本籍 東京市淀橋區東大久保三番地  
住居 不定

土工 甲 田 一郎

右ノ者昭和十四年十月二十一日夜東京市杉並區馬橋一〇五五番地丙山三郎方ニ押入り所携ノ出刃庖丁ヲ以テ家人ヲ脅迫シ金品ヲ強取シ其ノ際脅迫ノ爲使用セル出刃庖丁ヲ同人ハ近隣ノ大キナル松樹ノアル邸宅方ノ「コンクリート」溝板下ニ隠匿セル旨自供セルヲ以テ依命出張捜査セル二十一月三十日午前十時十五分同區一〇六一番地丁田四郎方表通「コンクリート」溝板下ヨリ發見セルヲ以テ假領置ス而シテ該出刃庖丁ハ刃部ノ長サ一尺柄部ノ長サ五寸全長一尺五寸ニシテ切先部ノ刃部ニ双コボレアリ

昭十四年十二月一日

牛込憲兵分隊

司法警察吏陸軍憲兵兵長 乙 田 二郎

牛込憲兵分隊長司法警察官陸軍憲兵大尉何

某殿

憲兵捜査書類作成要領附錄

二〇七



自首調書

所屬 野砲兵何聯隊第何中隊

陸軍砲兵二等兵 春野山吉

大正八年五月二日生

右者昭和十四年二月十日午前七時當分隊ニ出頭シ自殺補助事件ニ付本職ニ對シ口頭ヲ以テ自首シタルニ由リ取調ヲ爲スコト左ノ如シ

一、問 位記、勳章、記章、褒章、年金、恩給ヲ有セサルヤ

答 アリマセヌ

二、問 是迄刑事處分ヲ受ケタルコトナキヤ

答 昭和十二年五月十日東京區裁判所ニ於テ傷害罪ニ依リ罰金十圓ニ處セラレ完納シマシタ

三、問 被害ト親族、雇傭、同居關係ナキヤ

答 アリマセヌ

四、問 自首ノ事實ヲ詳述セヨ

答 私ハ昭和十二年春頃カラ千葉市寒川町一丁目「カフェー」鈴蘭ノ女給君子事今川よね子ト馴染ヲ重ネル様ニナリ最初ノ程ハ互ニ將來ノ事ナド口ニモシマセンデシタガ昨年三月二十日頃君子ノ母ガ死ンダ爲非常ニ悲觀シテ居マシタノデ私モ十九歳ノ時母ヲ亡クシ淋シサノ經驗ガアルコトトテ之ニ同情ヲシテヤル中二人ノ間ハ次第ニ深間トナリ遂ニ五月二十五日ノ徴兵検査ガ終ツテ間モナク夫婦約束ヲ致シタノデアリマス

ソコデ私ガ昨年十二月一日入營シテ以來ハ大低日曜日毎ニ君子ガ面會ニ來テ吳レマシタガ夫ガ爲君子ハ主人ヨリソナニ我儘ヲセラレルト他ノ女給ニ對シテモ惡イカラトテ本月十九日解雇セラレタノデアリマス

君子ニハ二月十九日鈴蘭ヲ解雇セラレルト身寄先モアマリナイノデ早速其ノ日午前十時頃私ニ面會ヲ求メテ約一時間位將來ノ勤メロニ付相談シマシタガ怎ウモ思ハシイ考ヘモ浮バズ話ガ鬱ギ込ンデ來ルト軍隊生活モ厭ニナツテ了ヒ私ガコンナ淋シイ世ノ中ガ厭ニナツタト洩スト君子ハ私ト一緒ニ死ンダ方ガ本望ダト申シマスノデ將來何日迄モ生活難ニ苦シムヨリハ互ニ愛シ合フ現在ニ於テ死ヲ擇ブノガ二人ノ爲幸福デアルト云フ氣ニナリ愈々心中スルコトニ憲兵搜查書類作成要領附錄



話合ヒ早速日曜外出ヲ願ツテ晝食後間モナク君子ト共ニ衛門ヲ出タノデアリマス  
ソレカラ私ハ行軍ノ際一寸立寄ツタコトノアル東京市世田谷區玉川遊園地デ最後ノ食事デモ  
シタイト思ヒ幸ヒ二人ノ所持金ハ四圓二十錢バカリアリマシタノデ玉川電車ニ乗り午後一時  
頃右遊園地ニ在ル高田屋ト云フ旅館ニ行ツテ食事ヲ爲シ其處デ君子ハ名モ居所モ知リマセヌ  
ガ伯母ト稱スル者ト鈴蘭ノ同僚誰ダカニ宛テタ手紙ニ通ヲ書キ私モ自分ノ中隊長殿ト郷里ノ  
父宛御別レノ手紙ヲ書イテ君子カ自殺用ノ「猫いらす」ヲ買ヒニ出ル際投函ヲ託シマシタ  
君子ハ間モナク「猫いらす」ヲ何處カデ買ツテ來マシタノデ食費三圓六十錢ノ支拂ヲ済マシ  
午後四時頃旅館ヲ出テ二人デ死場所ヲ求メ乍ラ玉川堤防ヲ散歩シテ居ルト大分暗クナリ場所  
モ玉川電車鐵橋下ノ東詰ニ芝生ヲ見付ケタノデ此處ニ腰ヲ据ヘ暫ク休ム中君子ハ氣遅レガス  
ルカラトテ早速「猫いらす」ヲ取出シマシタ私ハ其ノ時今少シ暗クナラヌト人ニ見付ケラレ  
ハシナイカト氣ニシ乍ラ四圍ヲ見廻ハシ時計ヲ見マスト午後六時頃デアリマシタ此時君子ハ  
「猫いらす」デ苦シムヨリ樂ニ死ニ度イト申シマスノデ私ハ其ノ締メテ居タ腰紐ヲ取り之ヲ君  
子ノ首ニ一卷キスルト君子モ合掌シテ目ヲ閉ヂタノデ背後カラ紐ノ兩端ヲ一思ヒニ強く引絞  
メマシタ處間モナク呼吸ガ絶エマシタ

ソコデ私ハ君子ノ買ツタ「猫いらす」ヲ呑ミカケマシタガ臭イ爲喉元カラ込ミ上ゲテ來テ怎  
ウシテモ呑ミ込メヌ故首ヲ縊ルベク君子ノ首ニ卷イタ腰紐ヲ取り其處カラ堤防ニ登ルト夕闇  
ヲ中ニ君子ノ姿ガ浮ブ様ナ氣ガシテ急ニ死ヌノガ恐ロシクナリマシタノデ約二百米北ニ離レ  
タ玉川電車車庫裏ニ行キ座リ込ンデ午前二時頃迄思案シテ居リマシタガ考ヘレバ考ヘル程死  
ガ恐ロシクナリ又君子ヲ殺シテ申譯ナイト云フ氣ガ致シマシタノデ潔クオ上ノ裁キヲ受ケヤ  
ウト考ヘ徒歩デ引返シ只今自首シタ次第デアリマス  
私ガ君子ノ首ヲ絞メタ腰紐ハ之デアリマス

此ノ時證第一號腰紐壹筋ヲ提出シタルニ付證據品トシテ假領置ス

⑤

五、問

其許ガ殺シタト云フ今井よねノ本籍ヲ知ルヤ

答 千葉縣千葉市柳町一丁目ノ番地ハ忘レマシタガ父ヲ安吉ト申シマシテ「うどん」屋ヲヤツテ  
居ルトノ事デアリマス

春野 山 吉 ⑥

右讀ミ聞ケタル處相違ナキ旨申立ツルニ付署名捺印セシム



昭和十四年



二月十日

滋谷憲兵分隊

陸軍司法警察官陸軍憲兵軍曹 西村 西吉

二二二

第三、告訴調書

告訴調書

東京市世田ヶ谷區三軒茶屋五十番地

告訴人 自轉車商 乙野 春造

當三十八年

右者昭和十四年二月十日午前十時當分隊へ出頭シ本職ニ對シ口頭ヲ以テ左ノ告訴ヲ爲シタリ

一、昭和十四年二月七日午前八時頃日曜外出シタ自稱歩兵第何聯隊第何中隊歩兵一等兵山田金造ナル軍服着用ノ軍人カ私方ニ來テ「今カラ郷里東京市世田ヶ谷區調布町ニ歸ツテ來ル故自轉車ヲ五時間許リ貸シテ呉レ」トノコトデアリマシタカラ一時間十五錢ノ割テ中古ノ山口自轉車一臺ヲ貸シマシタ

然ルニ今日ニナツテモ未ダ返シテ呉レマセヌカラ何卒御調へノ上相當御處分ヲ願ヒマス

二、問 何カ本件ニ就テノ證據ハナイカ

答 何モアリマセヌ

三、問 自轉車ヲ貸シタ軍人ニ何カ心覺エハアルカ

答 他ノ軍人ハ度々自轉車ヲ借りニ來マスガ只今申上ゲマシタ人ハ始テデアリ當時居合ハセタ者

モ別ニ顔ニ覺エモアリマセヌガ唯左眼ノ下ニ二、三分ノ傷痕ガアツタコトヲ覺エテ居リマス

四、問 貸シタ自轉車ノ特徴如何

答 貸シタ自轉車ハ時價貳拾五圓位ノモノデアツテ鑑札ノ番號ハ一七八號警察番號ハ(世)一七三號デアリマス其ノ他ニ特別ノ目印モアリマセヌ

乙野 春造

右讀ミ聞ケタル處相違ナキ旨申立ツルニ付署名捺印セシム

昭和十四年



二月十日

滋谷憲兵分隊

陸軍司法警察官陸軍憲兵伍長 今山 金助

憲兵捜査書類作成要領附錄

二二三



第四、告訴變更調書

告訴變更調書

東京市世田ヶ谷區三軒茶屋五十番地

告訴人 自轉車商 乙 野 春 造

當三十八年

右ノ者昭和十四年二月十七日當分隊ニ出頭シ本職ニ對シ自稱步兵第何聯隊第何中隊陸軍歩兵一等兵山田金造ニ對スル詐疑被告事件ニ付口頭ヲ以テ告訴ノ變更ヲ申立ツルニ由リ取調ヘタル處左ノ如シ  
一、私ハ去ル昭和十四年二月十日自稱步兵第何聯隊第何中隊山田金造ナル軍人カ私方ノ自轉車ヲ持ツテ行キ返シテ吳レマセヌノデ告訴シマシタガ其ノ後此ノ山田金造ナルモノハ偽名デアリマシテ本名ハ山本銀二ナルモノデアルコトガ判明シマシタカラ前ノ山田金造ニ對スル告訴ハ山本銀二ニ變更致シマス

問、山田金造ハ山本銀二ナルコトハ如何ニシテ判明シタルヤ

答、去ル昭和十四年二月十一日度々私方ニ來テ自轉車ヲ御貸シスル同聯隊第何中隊ノ丙山三郎サンニ山田金造サンガ自轉車ヲ持ツテ行ツタ儘未ダニ返還シテ吳レナイコトヲ話シ同人ノ左眼ノ下ニ二

三分ノ傷痕ガアツタコトヲ話シマシタ處ソレハ第何中隊ノ山本銀二デアツテ同人ハ中隊内デモ素行ガ悪イノデ評判ノ良クナイ奴ダト聞キマシテ判ツタノデアリマス

乙 野 春 吉

右讀ミ聞カセタル處相違ナキ旨申立ツルニ付署名捺印セシム

澁谷 憲兵 分隊

陸軍司法警察官陸軍憲兵伍長 今 山 金 助

昭和十四年



二月十七日

第五、告訴取消調書

告訴取消調書

東京市中野區園町二番地

米穀商 丙 山 三 郎

當四十五年

右ノ者昭和十四年十二月十日當憲兵分隊ニ出頭シ甲野一郎横領事件ニ關シ口頭ヲ以テ告訴ノ取消ヲ申

憲兵捜査書類作成要領附錄

二一五



立テタルニ依リ其ノ陳述ヲ錄取スルコト左ノ如シ

一、私ハ今般歩兵第何聯隊ニ入營シマシタ甲野一郎ニ對シ去ル二日横領罪ノ告訴ヲ致シテ置キマシタガ其ノ後同人ノ父甲野勤助ガ私方ニ謝罪ニ參リ一郎ノ横領金全部ヲ辨償致シマシタシ一郎本人モ昨日聯隊カラ謝罪ノ手紙ヲ寄越シ將來立派ナ軍人トナリ申譯ヲスルト申シテ來マシタ此ノ非常時有爲ノ帝國軍人ヲ僅カ許リノ金ノコトデ罪人トスルコトハ忍ビマセヌシ私自身モ稍々輕舉ニ失シタト考ヘテ居リマスルカラ茲ニ更メテ告訴ノ取消ヲ致シマス

二、本人ハ將來戰線ニ立ツコトト思ヒマスガ武運目出度歸還スルコトガ出來タナラ本人ノ希望次第デ復使備シタイト思ツテ居リマス

丙 田 三 郎 ㊦

右讀聞ケタル處相違ナキ旨申立テタルヲ以テ署名捺印セシム

昭和十四年



五月三日 牛 込 憲 兵 分 隊

陸軍司法警察官陸軍憲兵曹長 乙 田 二 郎 ㊦

第六、逮捕手續書

逮 捕 手 續 書

昭和十四年十二月一日午後零時三十分東京市神田區御茶ノ水橋附近ヲ巡察中東京市神田區神保町二番地丁田四郎ヨリ「只今甲田一郎方殺人犯人ヲ發見シマシタ」トノ届出ニヨリ同橋北端附近ニ馳セ付ケタル處舉動不審ノ男佇立シ居リ血痕多量ニ附着セル「オーバー」ヲ着用シ本職ノ姿ヲ見ルヤ無言ノ儘身體ヲ打震ハセツツ逃走セントスル氣配アリタルヲ以テ刑事訴訟法第三百三十條該當準現行犯人ト思料シ逮捕ノ上取調ヘタルニ

自稱本籍 東京市淀橋區東大久保五丁目四百七十四番地

住居 不定

乙 田 二 郎

當二十年

ナル者ニシテ同人ハ十二月一日東京市神田區神保町一番地甲田一郎方ニ於テ同人及其ノ家族ヲ出刃庖丁ヲ以テ刺切シ殺害シタル旨自供シタルヲ以テ右「オーバー」ヲ證據品トシテ相添ヘ及引致報告候也

憲兵搜查書類作成要領附錄



昭和十四年十二月一日

麹町憲兵分隊

二一八

麹町憲兵分隊長司法警察官陸軍憲兵少佐 何 某殿

司法警察吏陸軍憲兵上等兵 戊 田 五 郎 ㊦

第七、逮捕顛末書

逮捕顛末書

住居 何市何町何番地

職業 自動車運轉者

被疑者 乙 野 一 郎

當二十三年

昭和十三年十二月二十三日午後五時四十分所屬何某聯隊何兵上等兵甲田一郎ハ右業務上過失致傷現行犯人ヲ引致シ逮捕ノ事由ヲ申立ツルコト左ノ如シ

一、逮捕ノ日時、場所及其ノ事由

昭和十三年十二月二十三日午後五時二十分頃

東京市世田ヶ谷區何町何番地先

被疑者ハ玉川方向ヨリ澁谷方面ニ向ヒ自家用貨物三輪自動車(空車前照燈故障ノ爲自轉車用「ナシ」ヨナルランプ)ヲ充用ス)ヲ運轉左側車道上ヲ時速約三十軒ニテ進行シ現場(車道、幅員二十二米)ニ差蒐リタル際進路ヲ南方ニ徒歩横斷中ノ被害者何某並是ト同行中ノ逮捕者甲田一郎ヲ三、四米ノ前方ニ發見シタルニヨリ直ニ把手ヲ右方ニ切り且急停車ノ措置ヲ講ジタルモ既ニ遅ク過リテ前車輛前面ヲ被害者ニ衝突之ヲ轉倒セシメ依テ同人ヲ傷害セシメタルモノナリ  
依テ直ニ其ノ場ニ於テ被疑者ヲ業務上過失致傷現行犯人トシテ逮捕セリ

二、證據物件

「ナシヨナルランプ」ヲ附着セル被疑者運轉ノ第一一七四號貨物三輪自動車壹輛

昭和十三年



十二月二十三日 澁谷 憲兵分隊

司法警察官陸軍憲兵曹長 何 某 ㊦

逮捕者 東部第四部隊第一中隊 甲 田 一 郎 ㊦



逮捕調書

昭和十一年八月十七日午前六時三十分司法警察吏陸軍憲兵上等兵甲田一郎ハ殺人未遂事件被疑者乙田二郎ヲ當隊ニ引致シ逮捕ノ事由ヲ申立ツルコト左ノ如シ

一、被疑者

本籍 何縣何市何町何番地  
住居 同右

農業 乙田 二郎

當二十八年

二、犯罪事實ノ概要

被疑者ハ豫テ實兄乙一郎ト不仲ノ間柄トナリ相反目シ居リタル折柄本年七月三十一日實父乙太郎死亡シタルニ因リ乙一郎家督ヲ相續シタルヲ奇貨トシ遺產ヲ獨占シタルヲ憤慨シ同人ヲ殺害センコトヲ企テ本日午前五時頃同市何町何番地實兄乙田一郎居宅ニ至リ其ノ奥六疊間ニ熟睡セル際ヲ

窺ヒ所携ノ出刃庖丁ヲ振ヒ同人目菟ケテ斬付ケタルモ同人ヨリ銳意抵抗セラレタル爲其ノ胸部ニ切創ヲ加ヘタルニ止マリ所期ノ目的ヲ遂ケズシテ逃走シタルモノナリ

三、昭和十一年八月十七日午前五時三十分巡察勤務中丙田四郎ノ届出ニヨリ乙田一郎カ其ノ居宅ニテ實弟乙田二郎ノ爲出刃庖丁ヲ以テ斬付ケラレ重傷シタル旨聞知シ直チニ何町何番地乙田二郎居宅ニ急行シタル處被疑者ハ表側井戸端ニテ其ノ身體ニ顯著ナル血痕ヲ附着センメタル儘洗面シ居リタルニ付取調ヘタルニ第二號記載ノ犯罪事實ヲ自供シ逃亡證據湮滅ノ虞アル準現行犯人ト認メ同五時四十八分同所ニ於テ之ヲ逮捕シタリ

四、證據並參考資料

(イ) 血痕附着セル被疑者所有浴衣壹枚

(ロ) 兇行用出刃庖丁壹挺ハ被疑者逃走途中遺失シタル旨供述シ通過経路附近一帶ヲ嚴探シタルモ發見セス

(ハ) 被害者ハ胸部左側ニ長サ四纏、幅一纏ノ切創一個ヲ負ヒタルノミニシテ現ニ同所何番地福住醫院ニ在リテ加療ヲ受ケ居リ生命ニ別條ナキ趣

調書ヲ讀聞カセタル處相違ナキ旨申立ツルニ付共ニ署名捺印セリ

憲兵捜査書類作成要領附録



昭和十一年



八月十七日 何憲兵分隊

司法警察官陸軍憲兵曹長 何

逮捕者 司法警察吏陸軍憲兵上等兵 何

某 某  
某 某

二二三

第九、呼出狀

甲野一郎ノ事件ニ付相尋ネ度キ儀有之候條來ル十二月二日午前十時當隊へ出頭可有之候

注意

- 一、印章ヲ携帯セラレタシ
- 一、出頭ノ際此ノ書面持參アリタシ
- 一、代人ノ出頭ヲ認メス

昭和十四年十二月一日

東京市中野區團町二番地

牛込憲兵分隊



乙 田 二 郎 殿

備考 ①ハ責任者ノ印トス

用紙ハはがきヲ使用スルコト多シ

憲兵捜査書類作成要領附録

二二三



第十、身上調査書

身上調査書

本籍 京都府久世郡宇治町川東

井口一郎 當三十八年

右ノ者ニ對スル左記事項調査ノ上至急各欄へ記入當隊へ廻送相成度及照會候也  
但シ本籍氏名等多少ノ相違アルモ之ニ該當スベシト思料セラルル場合ハ本文ニ準シ調査相成度若  
シ轉籍又ハ寄留者ニ係ルトキハ在籍地區役所或ハ(役場)へ轉送相成度候  
追テ本人不在籍者ノ場合ハ其ノ旨備考欄内ニ記入ノ上本紙返戻相成度候

昭和十三年一月七日

京都憲兵分隊



宇治町役場御中

本籍	(京都府久世郡宇治町大字宇治郷小字東内五番地)	氏本名	(井口一郎)
出生地	/	名假名	(キグチイチロウ)
住居	/	生年月日	(明治二十四年一月十四日)
官吏、公吏、議員	/	身分職業	(平民)
位記、勳章、記章	/	資産有無	/
兵籍	(彌重兵特務兵)	特徴	/
年金、恩給、扶助	/	戸主及父母兄弟姉妹名	本人戸主
料及遺族料	/		

前科	裁判ノ日及廳名	犯數	罪名	刑名刑規金額
(昭和五年四月十六日京都區裁判所)	一犯	(窃盜住居侵入)	(懲役六月)	
(昭和八年十一月廿五日京都區裁判所)	二犯	(兵役法施行規則違反)	(科料十五圓)	
(昭和十年二月十六日京都區裁判所)	三犯	(窃盜)	(懲役十月)	

右回答候也

昭和十三年一月十日

京都府久世郡宇治町役場

京都憲兵分隊御中

註、( )内ハ役場ニ於テ記載スルモノトス

第十一、被疑者聴取書(司法警察官トシテ作成スルモノ)

聴取書

本籍 京都府久世郡宇治町大字宇治郷小字東内五番地  
住居 不定

無職 井口一郎

憲兵捜査書類作成要領附錄

當三十八年



右者昭和十三年三月九日京都憲兵分隊ニ於テ本職ニ對シ左ノ通り陳述ヲ爲シタリ

- 一、私ノ本籍、住居、職業、氏名、年齢、前述ノ通りデ間違アリマセヌ
- 二、私ハ前科三犯アリマシテ第一犯ハ昭和五年四月十六日京都區裁判所デ窃盜住居侵入罪ニ依リ懲役六月、之ハ宇治デ茶店ニ入ツテオ菓子ヲ盜ミ食ベタ件デアリマス第二犯ハ昭和八年十一月二十五日京都區裁判所デ兵役法施行規則違反デ科料十五圓之ハ納メズニ居リマス内時効ガ完成シマシタ第三犯ハ昭和十年二月十九日京都區裁判所デ窃盜罪ニ依リ懲役十月ニ處セラレマシタ此ノ窃盜ハ稻利神社デ賽錢ヲ窃シタ事デ伏見署ニ捕マリマシタ前科ハ以上デアリマスガ此ノ外ニ起訴猶豫ガ一回アリ昭和十一年十一月二十五日京都區裁判所檢事局デ窃盜罪ニ依リ起訴猶豫ニナツタノデアリマス此ノ窃盜ハ矢張り賽錢デスガ清水寺附近ノオ寺ノ賽錢ヲ盜ツタノデアリマス
- 三、位階、勳功、記章、褒章、恩給、年金、扶助料等ハアリマセヌ公職ニ就イタ事モアリマセヌ
- 四、軍籍ハ後備役陸軍輜重兵特務兵デ教育ハ小學校尋常卒業致シマシタ
- 五、私ハ本籍地デ生レ私ノ父ト同名ノ一郎デシタ私ガ襲名シタ譯デハアリマセヌガ大體私ノ生ミノ父トハ違フ様子デシタガ怎ウイフ關係カ調べタ事モナイシ存ジマセヌ小學校ヲ卒業スルト宇治川電氣ニ電氣工トシテ就職シ廿五歳マデヤリ其ノ後大阪市内ノ電氣商會へ被雇廿九歳迄勤メ之モヤメ

テ本籍地ニ歸リ日本レィオン會社ノ電工ニ就職シテ働イテ居ル内悪イコトヲシテ捕ヘラレ初犯ノ懲役ニ行ツタノデ其後之ト云フ職ニモ就カズブラ／＼シテ前科モ重ナリ最終刑懲役十月ヲ昭和十年十二月二十七日終ヘテ京都刑務所ヲ出所後ハ食フニモ宿ニ泊ル金モナイノデルンペントシテズツト東山ノ麓一帯ノ墓地ヤオ寺ノ境内ヲ廻リ歩キ夜ハ寺ノ軒下ヤ山門ニ寢食物ハオ墓ノ供物ヲ喰ヒ眞ニ慘メナモノデアリマシタ

六、家族ハ只今誰モアリマセヌ妻帯シタコトハ是迄ニアリマセヌ資産ハナク生活ハ先程申上ゲタ様ニ賽錢ヲ盜マヌ時ハ墓場ヲウロツイテ供物ヲ食ツテ居タノデアリマス

七、私ハ今回稻荷神社境内ニ在リマス權太夫(田中社ノコト)サンノ賽錢箱カラ信者カ奉納致シマシタ賽錢ヲ盜シタ事ニ相違アリマセヌ私ガ賽錢泥棒ヲ初メテヤツタノハ昭和十年ノ事デ當時ルンベシノ悲シサニ食フニ困リ稻荷神社ノ參道ヤ清水寺ノ裏道等ヲウロツイテ居テトウ／＼稻荷神社ノ本社附近デ賽錢ヲ盜ミ生活费ニ致シテ居リマシタ之ガ伏見署ニ露見シテ捕ヘラレ懲役十月ニ處セラレタノデアリマス此ノ時ハ數回ニ金二圓位ヲ盜シタノデ賽錢ヲ盜シタノハ之ガ最初デス刑ヲ終ヘテ京都刑務所ヲ出ルト早速行ク處モナク其後二日ト同ジ場所ニ寢泊リシタ事ガナク稻荷山カラ清水寺等ヲ移動シテ暮シテ居リマシタ此ノ界限ニハ御墓ガ澤山アリマス爲ニ食物ハ其ノ供物ヲ取



ツテ満足シタノデアリマスガ一番困ルノハ病氣シタ時デシタ夜露モ凌ゲヌ身デスカラ感冒ヲ患ツタリオ腹ヲ痛メタリシテ弱ツタコトハ再三アツタノデアリマス斯ウシタ畜生ト同ジ様ナ暮シヲ致シテ居リマス内ニ恰度昭和十二年七月カ八月頃ノ暑イ頃ヲ迎ヘマシタ餘リ慘メナ生活ニ飽ガ來テ一層稻荷山デ賽錢泥棒ヲヤツテヤラウト又悪イ氣持ニナリ私ガ度々行ツテ居ル稻荷山ノ神社デハ權太夫様ト申シテ參道ノ中程ニアリマス小サイ御社ガ一番淋シイ所デ人通りモナイシ大キナ賽錢箱ガアリマス爲ニ此ノ賽錢箱ニ限ルト思ヒ付イタ譯デアリマス此權太夫サント云フノハ「田中社」ト呼フノガ本當ノ名前デ裏道ヲ上ルト直グ其ノ社ニ行ケルシ行キ戻リ茶屋ヤ其ノ他參詣人ノ顔ヲ見ズトモヨイシ誠ニ盜ミヲスルニ適當ナ場所ナノデアリマス處ガ此ノ田中社ノ賽錢箱ハ實ニ大キナモノデ行ツテ調べルト上カラ底マデ絶對手が届キマセヌシ太イ杭ニ抽手ヲ付ケ箱ノ前カラ背ヘ鐵ノ棒筒ヲ通シ更ニ前面ニ其ノ棒筒ノ穴ニ向ケ嚴重ナ錠ガ掛ケテアリマス爲ビクトモ致シマセヌ之ニハ随分困ツテ了ヒマシタ賽錢ヲ盜ムニシテモ何トカ細工ヲセヌコトニハ怎ウニモナリマセヌ其所デ私ハ色々考ヘマシタ末箱ノ奉納口ニ網ヲ張ツタラ何カ引掛ツテ來ルダラウト思ヒ付イテ早速其ノ社ノ裏山ニ風害ノ爲ニ倒レカケタ木ヲ引張ツテアリマス細イ針金ヲ取ツテ來テ判ラヌ様ニ兩方ヲ柱ニシテ此ノ針金ニ黒木綿糸ヲ俄造リノ網ニ拵ヘテ奉納口ノ一寸下側ヘ外カラ見テ發見

セラレヌ様張ツテ歸リ夜行ツテ此ノ網ヲ引上ゲル方法ヲヤツテ見ル考ヘニナツタノデアリマス先程申シタ昨年ノ夏月日ハ覺エマセヌガ午後一時頃ニ網ヲ引掛ケテ置イテ其夜午後六時頃ニ狀況ヲ見ニ行ツテ網ヲ引上ゲテ見ルト白紙包ガ引掛ツテ居リマス「シメタツ」ト思ツテ手ニ取ツテ見マスト「二〇」ト數字ガ書イテアリマス反對ノ方ニハ名前ガ書イテアリマス實ハ此ノ名前ハ當時覺エテ居リ直ク破ルト中カラ二十圓ノ現金ガ十圓札デ二枚出テ來タシ悦ンデ其ノ場ヲ立去ツタノデアリマスガ今ハ名前ヲ忘レテ居リマシタ然シ此ノ時社ノ横手祠ノ附近ヲ通り掛ルト獻燈ガ澤山建ツテ居リ其ノ中ノ一本ニ「カード」商ト書イテ大阪ノ方ノ名前ガ付イテ居リ夫レヲ見テ「此ノ獻燈ト盗ンダ賽錢ノ奉納者ト名前ガ同ジデナイカ」ト思ツタノデアリマス夫レデ今度〇〇憲兵サンニ此ノ事ヲ御話シテ「カード」商ト書イタ獻燈ノ主ガ賽錢ヲ上ゲタノニ相違ナイカラ名前ヲ見テ來テ問合セテ呉レト私ガ申シマスト憲兵サンハ其後名前ハ添付シテアツタ名札デ大阪ノ萩田ト云フ人ダツタト言ハレタノデ萩田ト云フ大阪ノ方ダツタコトヲ思ヒ出シタ譯デアリマス此ノ二十圓ノ盗ンダ金ハ其ノ後生活費ヤ其ノ他ノ小遣錢ニ費ツテ了ツタノデアリマス

八、此ノ味ヲ占メルト私ハ忘レルコトガ出來ズ現金ノ慾シイ時ニハ同ジ様ナ網ヲ俄カニ拵ヘテハ大勢ガ參詣シサウナ月ノ一日ヤ十五日晝間引掛ケテハ夜間見ニ行キマシタガ却々引掛リマセヌ慾シイ



金ヲ手ニ入レルコトガ出来マセヌデシタ其ノ内昭和十二年モ暮レテ愈々昭和十三年元旦ニナツタノ元旦コソ大勢ノ參詣者ガアルト思ヒ早速復午後三時過稻荷神社ノ田中社へ行キ判ラヌ様ニ素早ク例ノ網ヲ降シテ置イテ逃ゲ同日午後六時過頃ニ其處へ行ツテ網ヲ引上ゲテ見ルト又紙包ガ一個引掛ツテ居リマシタコレト思ツテ手ニ取ツテ見ルト表ニ「上」ト云フ字ガ墨デ書イテアリ急イデ懷中ニスルト背後ノ山道ニ這入ツテ人眼ノナイ所デ開イテ見マスト何ト百圓札ガ飛出シテ來タノデアリマス吃驚シテ開イタ紙包カラ皆札ヲ引出シテ數ヘマスト百圓札許リ十枚金壹千圓ガ御賽錢ニシテアツタノデアリマス恐ラク誰ガ聞カレテモ之ヲ信ジテ頂ケナイト思ヒマスガ事實デアリマスカラ外ノ事ヲ申ス譯ニハ參リマセヌ壹千圓ノ金ヲ手ニ入レマスト其ノ夜町中へ出ルノガ大儀ニナツテ參道横道ノ瀧ノ邊ノ脱衣場ニ一夜ヲ明シタ次第翌一月二日ノ正午頃迄其所ニ居テ夫レカラ稻荷山ヲ下リ私ガ今迄馴染ノ七條新地女郎屋第二三友樓へ行ク決心ヲ致シマシタケレドモ襦袢ヤズボンガ汚レテ居ルシ今熊野ノ赤十字病院ヨリ線路ヲ傳ツテ北へ西側ノ或ル一軒ノ雜貨店へ立寄リスボン下ヤ其ノ他ヲ四、五圓出シテ買ヒ此所デ始メテ千圓ノ内百圓一枚ヲ出シテ細カクシテ貰ヒ支拂ヒマシタ夫レデ百圓札九枚ト十圓札九枚ト其ノ他小錢ヲ持ツコトニナツタノデアリマス其ノ日買ツタ雜貨ヲ抱ヘテ七條新地へ午後三時頃ニ行キ第二三友樓デ馴染娼妓ノ都ト云

フ女ヲ揚ゲテ其ノ儘泊リ込ミマシタ其夜外出シ様ト申シマシタガ娼妓ガ承知シマセンノデ私ハ残りノ九百九十圓餘リノ金ヲ懷中カラ出シテ「之丈ケ持ツテ居ルカラ主人ニ預ケタラ外出サセテ呉レルダラウ」ト申シマシタ然シソレデモ女ハ肯キマセヌデシタコトハ事實デアリマス從ツテ其ノ女ハ私ガ本年一月二日ノ夜ニ九百九十圓餘ノ現金ヲ持ツテ居タ事實ハ知ツテ居ルト存ジマス

九、

夫レカラハ金ガ有ルノニ任セテ娼妓ト内儀ヲ連レテ伊勢詣リ琴平詣リヲシテ面白ク遊ビ約五百圓ト云フモノハ一週間許リノ間ニ色々ト費ツテ仕舞ツタノデアリマス一月二日ヨリ毎日流連ノ遊興ヲシ一月七日ノ午前一時頃ニ旅行先カラ歸リ其ノ儘床ニ就イテ一月七日午前八時頃カラ外出シ様ト思ツテ身仕度シテ居リマス處へ〇〇憲兵サンガ臨檢ニ來ラレタ譯デ此ノ時ハ吉田忠雄ト偽名デ遊ンデ居リマシタ百圓札四枚ハ女郎屋ノ内儀ニ預ケテアツタシ私モ十圓札デ百圓餘リ持ツテ居ルシ大金ヲ持ツテキル關係デ怎ウニモナラヌ破目ニナツテ御隊へ來タラ仕方ガナイノデ千圓ノ金ヲ稻荷山ノ田中社デ賽錢盜ミヲシタ事實ノ儘ヲ申上ゲマシタガ憲兵サンハ一寸モ信用シテ呉レズ實メマスケレドモ事實ハ事實トシテ曲ケル事ハ出来マセヌ私ノ答辯ハ終始一貫デアリマス其ノ中隨分日ガ經ツテカラト思ヒマスガ大阪ノ手口應ト云フ所カラ手口「カード」ヲ送ツテ來タ様子デ憲兵サンハ「此ノ中ニ在ルヤロ」ト云ツテ一生懸命「カード」ヲ繰ツテ居リマシタケレドモ私ハ



傍デ見テ居テ幾ラ線ツテモ出ル道理ハナイト可笑シイ位デシタ矢張り「カード」ニハ百圓札ノ盜難ハナカツタ趣デアリマスシ憲兵モソレデ斷念シタ模様デシタ困ツタモノダト私ハ當時思ツテ居タノデアリマス何故ナラ私ガ隠シテモナシニ本當ノコトヲ申シテ居ルノニ憲兵ガ其ノ言ツタコトヲ嘘ダト信ジ切ツテ調べルノデスカラ之位辛イコトハアリマセヌ

十、以上ノ狀況デ千圓ハ稻荷山ノ田中社デ賽錢ヲ盜ンダコトニ絶對相違アリマセヌカラ怎ウカ私ノ云フコトヲ信ジテ頂キ度イト存ジマス私ハ茲ニ十圓札十枚ト五圓札三枚ト五十錢銀貨二枚合計金壹百十六圓ヲ持ツテ居リマスカラ盜ンダ金ノ殘リトシテ提出致シマス稻荷神社ノモノニ違ヒハアリマセヌ故返シテ頂イテ十分デアリマス

此ノ時被疑者ハ現金壹百十六圓提出セルニ付領置セリ

十一、問 之ハ見覺エガアルカ

答 札ニ見覺ヘハアリマセヌガ松田トクエト云フ第二三友樓ノ内儀ガ提出シタモノデシタラ私ガ預ケタ金デ賽錢ノ費ヒ殘リニ相違アリマセヌ

十二、問 共許ハ昨年四月及十二月七、八日頃ニ第二三友樓ニ遊興シテ居ルガ其金ハ怎ウシテ得タカ

答 金ハ大體手ニ入レル業ガナイ譯デスケレドモ墓場ヤ稻荷山デ供物ヲ取ツテ來マシテ之ヲル

十三、問 昭和十年十二月刑務所ヲ出テカラ山許リニ寢起キシタト云フガ現在ノ服裝ハ如何ニシテ手ニ入レタカ

答 此ノ洋服ヤ靴ハ一、二年程前ニルンペン同志ノ交渉デ物ト物ト交換ヲヤツテ手ニ入レタモノデアリマス其ノ後私ガ手離シタ事ナク持ツテ居リマシタ

十四、問 夫レニシテハ汚レテ居ラヌ様ダガ

答 實ハ夏ハシャツ一枚デ暮シテ居ルシ冬丈ケ一寸着ルニ過ギマセヌ平素山小屋ニ置イタリ稻荷山ノ瀧ノ脱衣場ニ置イタリシテ丁寧ニシテ居リマシタ

十五、問 二年間山許リニ住ンデ大金ヲ手ニ入レズ而モ紳士風デハ居レヌト思フガ良心ニ誓ツテ眞實ヲ申セ

答 其ノ疑ハ御尤モデアリマス私ガ何所カ住居ガアルダラウトカ賽錢ヲ盜ンダコト等先程申上ゲタ以外ニハ御座イマセヌ本當ノ事ヲ申シマスガ清水邊ノ墓ノ供物ヲ取纏メテ七條邊ノ連中ニ買ヒニ來サセテ賣リマスト一日二圓平均位ノ收入ハアリマスノデ氣樂ニ小遣錢ハ御座イマス私ト同ジ様ナルンペンハ他ニモ居リマスガ友達ニナツテ名前ヲ知ツテ居ル者等ハア憲兵搜查書類作成要領附録



リマセヌ

二三四

十六、本當ニ惡イ事許リシテ申譯ガナイト思ツテ居リマス身體ハ丈夫デアリマスガ前科者ニナルト就職口モ却々御座イマセヌシ山住イヲヤリマスト氣樂デアリマスノデ遂斯様ナ事ニナツタノデス今度許リデアリマセヌ私ハ刑務所ニ居ル時ハ改心仕度イト思ツテ居リマスガ出ルト面白クナイシ惡イ道ヘ落チテ行クノガ今迄ノ行動デアリマス然シ本當ニ改メル心ハアリマスカラ何卒出來ル丈ケ御寛大ニ御願ヒ致シマス

十七、最終刑ノ放免ニナル日賞與金八十圓札デ四枚程貰ヒマシタガ此ノ金ハ其ノ後ノ生活費ニ費ツテ仕舞ヒマシタ

陳述人 井口一郎 拇印

右錄取シ讀聞カセタルニ相違ナキ旨申立テ署名拇印シタリ



即 日 京都憲兵分隊

司法警察官陸軍憲兵曹長 甲野一郎 印

第十二、被疑者第二回聽取書(同前)

第一二回聽取書

井口一郎

當三十八年

右者昭和十三年三月十日京都憲兵分隊ニ於テ本職ニ對シ左ノ通り陳述シタリ

- 一、私ガ稻荷神社境内田中社デ百圓札ノ賽錢ヲ盜ンダ日ノ翌日本年一月二日午前八時カ九時頃ニ前夜ノ宿所瀧ノ脱衣場カラ出テ五、六町山ヘ登ツタ掛茶屋ヘ行キ六十過ノ婆サンデ名前ハ知リマセヌガ顔見知リデスカラ一寸立寄ツテ金ヲ澤山持ツテ居ルト懷中ヲ示シ「之丈ケアルト一寸遊ベル」ト申シタコトハ相違アリマセヌ然シ札ハ見セナカツタト思ヒマガ判然記憶シマセヌ
- 二、此ノコトハ私ガ町ニ出ル前デアリマスノデ百圓札十枚持ツテ居ル時デシタ
- 三、夫レカラ伊勢參宮ヤ琴平詣リヲシタ事ハ昨日申シタ通りデアリマスガ之ハ第二三友樓ノ娼妓都ニ頼マレテ金ノ有ルニ任セテ二等車ノ汽車旅行ヲ致シタノデアリマス
- 四、夫レカラ賽錢ヲ盜ム爲ニ作ツタ黒糸ノ網ハ二度ト使ヘルモノデハアリマセヌカラ其儘捨テテ置キ

憲兵捜査書類作成要領附錄

二三五



マシタカラ其後如何様ニナリマシタカ存ジマセヌ前同ニモ申上ゲテ置キマシタ様ニ網ト申シテモ町寧  
ナモノデハアリマセヌ細イ針金ニ三、四丈ノ黒糸ヲ括付ケテ投入口ニ張ツテ置クニ過ギヌノデアリマ  
ス糸ハ茶店ヤ土産物店デ貰ツタノデス

陳述人 井口 一郎 拇印

右録取シ讀聞カセタルニ相違ナキ旨申立テ署名拇印シタリ



即 日 京都憲兵分隊

司法警察官陸軍憲兵曹長 甲野 一郎 印

第十三、證人聽取書 (司法警察官トシテ作成スルモノ)

聽取書

住居 大阪市住吉區山王町四丁目二十三番地

飛田遊廓大内通り貸座敷一二三樓事

飯田重太郎方娼妓二見コト

北川 カル エ

當二十三年

右ノ者昭和十三年三月八日京都憲兵分隊ニ於テ本職ニ對シ左ノ通り陳述ナシタリ

一、私ハ本年三月二日迄京都市下京區七條新地遊廓内平岡町第二三友樓松田トクエ方ニ娼妓稼ヲ致シ  
テ居リマシタガ松田様ニ別借ガ三百圓モアツテ是以上怎ウスル事モ出來マセヌ爲ニ三月二日限り  
デ現在ノ飯田重太郎方へ前借千三百圓年期五年デ住替ヘテ致シマシタ

二、私ガ未ダ松田トクエ方ニ稼イデ居リマス當時ノ本年一月二日ヨリ吉田忠雄ト名乗ル方ガ遊ビニ來  
テ吳レテ一月七日迄流連ケシ一月七日ノ夜ニ御隊ノ憲兵サンニ捕ヘラレタ事ハ事實相違御座イマ  
セヌ

一月二日ヨリ流連ケノ間ニ私ガオ客様ヨリ頂戴シタ物ハ先達ツテ始末書デ申上ゲタ通りデアリマ  
スガ其ノ外ニ一月三日カラ伊勢詣リヤ四國ノ金比羅サンニ御詣ニ連レテ行ツテ貰ツテ澤山ノ才金  
ヲ費ハセタコトモアリマス今日ハ其ノ遊行ニ就イテ詳シク申シマス

三、大體吉田忠雄ト仰言ル方ハ昨年春頃一度遊ビニ來ラレテ更ニ昨年十二月七日ニ二度目私ヲ招ンデ  
頂キ本年ニナツテカラハ一月二日ノ午後三時頃ニ遊ビニ來テ吳レタ次第デアリマス夫レカラ泊リ

憲兵捜査書類作成要領附録



花ヲ付ケテ呉レテ一月三日ノ朝迄二十圓ノ花代デシタガ一月二日ノ午後三時カラ此ノ吉田サンハ「オ前ト二人限リテ何處カヘ遊ビニ行ク様頼ンデ見ヨ」トノコトデシタケレドモ家ノ習慣トシテ客ト私共ガ二人キリテ遊ビニ出ル事ヲ許シテ呉レヌ趣ヲ申シマスト更ニ「オ金デモ預ケテ置ケバ許シテ呉レルダラウ五百ヤ六百圓ノ金ナラ今日ハ持ツテ居ルカラ」ト私ノ部屋デ午後六時頃ニ吉田忠雄サンハ洋服ノボケツトカラ財布ト状袋ノ様ナモノヲ出シテ状袋ノ方カラハ百圓札許リ九枚ト財布カラ十圓札九枚其ノ他小錢等合計シテ現金九百九十圓餘ヲ出シテ數ヘタノデアリマスソシテ尙續イテ「實ハ今日一千圓ヲ持ツテ來タガ一寸費ツテ百圓札一枚丈ケ崩シタガ之丈ケアルカラ」ト申シマシタ然シ假令オ金ヲ預ケテモ主人ガ外出ヲ許シテ呉レヌト云ヒマシタガ何ウシテモ外出シヨウト聞カヌノデ主人ニ話シテ其ノ夜家ノ小サイ女子供ヲ連レ伏見ノ稻荷神社ヘ先ヅ參詣シ其ノ附近ノ土産物ヲ賣ツテ居ル店ニ吉田サンハ入ツテ其ノ店ノ主人ト暫ク話シテ居タノデ此ノ附近ニ知人ガアルノダナト思ツテ居タノデアリマス稻荷神社ヲ出テ今度ハ新京極ヘ行キ寺町四條上ル木村スキ焼店デ御飯ヲ喰ベテ次ニレコード二枚ヲ買ツテ呉レ家ニ歸ツタノガ午後十時頃ダツタト思ヒマス木村スキ焼店デ御飯ヲ食ベテ居ルトキ吉田サンハ伊勢詣リヲ仕様ト云フノデ私モ連レテ實フ様頼ミマシタ家ニ歸テ主人松田トクエニ此話ヲシマスト主人モ一緒ニ行クト申シマスノデ三

人デ其ノ日午後十二時過ノ汽車デ出發シマシタ此時私ハ大金ヲ落サレタラ困ルト思ヒ内五百圓丈店ニ預ケル様注意シ殘金四百五、六十圓ヲ持ツテ伊勢ニ詣リマシタ伊勢神宮カラ二見浦ヘ行キ家ニ歸ツタノガ一月三日午後七時頃デ此旅費ハ大體二十圓位デナカツタカト記憶致シテ居リマス

四、一月三日ノ夜ハ家ニ寢テ翌四日カラ今度ハ四國ノ金比羅詣リヲスルコトニナツテ又松田トクエサ  
 ンガ附添ツテ四日ノ夜ハ岡山泊リ一月五日ニ四國ノ琴平ニ着キ一月六日朝金刀比羅宮ニ詣ツテ一月七日午前一時頃ニ京都ヘ歸ツテ來マシタ夫レカラ旅ノ疲レテ寢込ンデ居リマシタガ七日午前八時頃吉田サンガ「稻荷神社ノ山ノ上ニ神主様ノ知ツテ居ル人ガアルカラオ土産ヲ持ツテ行カネバナラヌ何時モ行ツテ世話ニナツテ居ルカラ」ト云ツテ支度ニ掛ツテ居リマスト憲兵サンガ見エテ吉田サンハ捕ツテ仕舞ツタノデアリマス私ハ悪イ方ダトハ思ツテ居リマセヌガ餘リ大金ヲ持ツテ居ラレルシ疑ヘバ疑ヘル所ハアリマス旅行ニ行ツタ時ハ會計ハ御本人ガサレタノデアリマスケレドモ領收證ハ私ガ皆預ツテ居リマス一纏メニシテ提出致シマスカラ御參考ニ願ヒマス

此ノ時陳述人ガ領收證拾五枚ヲ提出セルニ付聽取書末尾ニ添付ス

五、御隊ノ御調べニ依リマスト吉田忠雄ト云フノハ偽名デ井口一郎ト云フ方ダ相デ賽錢許リ盜ンデ居ラレル方ダト聞イテ驚キマシタ實ハ昨年十二月七日ノ晚ニ二度目私ヲ上ゲテ呉レ十二月八日迄四



圓デ遊ンデ吳レマシタガ此ノ時ハ金ヲ五圓位シカ持タズ金ガ無イ様ナ模様デシタガ本人ハ「オ正月ニハ屹度遊ビニ來ルカラ待ツテ居テ吳レ大阪ノ電氣會社デ働イテ居リ今ハ伏見ニ居ルガ大阪ノ方デ大部分暮シテ居ル」ト申シテ居ラレタ事ハ慥カデアリマス何ダカ狐ニツママレタ様ナ形デ捕ヘラレテ引カレテ行ク時ハ夢ノ様ナ感じデシタ

陳述人 北川 カル エ

右錄取シ讀ミ聞カセタルニ相違ナキ旨申立テ署名捺印シタリ

即 日

京 都 憲 兵 分 隊

司法警察官陸軍憲兵曹長 甲 野 一 郎



記  
一金四圓五十錢  
一金 六十錢  
合計金五圓十錢  
右ノ通り領收候也

御山飯三人様  
御酒二本

上 様  
伊勢二見浦  
清渚亭事  
海水浴  
旅 館  
二 見 館

記  
一金二圓也  
右爲御茶料雜有拜受仕候也  
一月三日

上 様  
二 見 館

以下省略

憲兵捜査書類作成要領附録



第十四、誓書

誓書

窃盜被疑事件ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ御寛大ナル御處分相受候ニ付テハ將來屹度改悛シ再ヒ不都合ノ所爲致間敷此段謹ミテ誓書差出候也

昭和十三年十一月一日

東京市神田區神保町一番地丁田四郎方

被疑者 乙 田 二 郎

東京市神田區神保町一番地

引受人 丁 田 四 郎 印

麹町憲兵分隊長陸軍憲兵少佐 何 某殿

第十五、所有權拋棄書

所有權拋棄書

一、レニズム 壹 冊

一、階級闘争論 壹 冊

右自分提出ノ物件ハ還付ヲ望ミ申サス候ニ付可然處理相成度候也

昭和十四年十二月一日

東京市中野區園町二番地

甲 野 一 郎 印

牛込憲兵分隊長陸軍憲兵少佐 何 某殿

第十六、出頭照會狀

被告人出頭方ノ件照會

昭和十四年十二月十日

添印

赤坂憲兵分隊長 乙 田 二 郎

職員

步兵第一聯隊長 丙 川 三 郎 殿

憲兵捜査書類作成要領附錄



歩兵第聯一隊第一大隊第一中隊

陸軍歩兵一等兵 甲野 一郎

右横領被告事件ニ付相尋度儀有之候條來ル十二月十一日午前十時當隊ニ出頭セシメラレ度及照會候也  
追而本人出頭ノ際ハ認印ヲ携帶セシメラレ度申添フ

第十七、被告人聽取書（陸軍司法警察官トシテ作成スルモノ）

聽取書

本籍 東京市世田谷區三軒茶屋町二百十番地

出生地 右 同

所屬 歩兵第〇聯隊第七中隊

陸軍歩兵一等兵 甲野 一郎

大正七年五月一日生

右ノ者昭和十四年二月十三日當分隊ニ於テ本職ニ對シ左ノ陳述ヲ爲シタリ

一、私ハ、位記、勳章、記章、年金、恩給ハアリマセン

二、私ハ昭和八年五月十日東京區裁判所ニ於テ横領罪ニ依リ懲役二月ニ處セラレ三年ノ執行猶豫ヲ曾  
渡サレマシタ

三、私ガ所屬中隊第一班ノ初年兵麻布好雄ノ時計壹個ヲ取りマシタ  
私ハ昭和十四年二月十二日午前三時三十分ヨリ同四時三十分迄ノ間歩兵上等兵乙田二郎、同丙川  
三郎ト共ニ中隊ノ不寢番勤務ニ服シ乙田上等兵ハ兵舎東側ノ階下石廊トニ立チ私ト丙川上等兵ハ  
舎内巡視ニ當ツタノデアリマスガ恰度午前四時頃ヨリ二回目ノ巡視中第七中隊ノ階上西端ニアル  
第一班ニ廻リマスト北側ノ窓ガ少シ開イテ居リマシタノデ丙川上等兵ハ之ヲ締メニ行キマシタソ  
コデ私モ亦南側ノ窓ハドウカト見マスト窓ハ締ツテ居リマスガ同班東南隅ノ窓際附近ニ二名バカ  
リ脱兎者ガアツタモノデスカラ毛布ヲ掛ケテヤルベク之ニ近ゾイタ時丙川上等兵ハ「モウ四時二  
十五分ニナツタカラ交代者ヲ起シテ來ルゾ」ト言ツテ階下ヘ降りテ行キマシタ

四、此ノ時私モ交代ノ定位置（階下東ノ石廊ト）ニ行カナケレバナラヌト思ヒ乍ラ窓際ヨリ二ツ目ノ  
寢臺ニ寢テ居ル初年兵麻布好雄ニ毛布ヲ掛ケテヤロウトスルト不圖其ノ左腕ニ卷イテ居ル腕巻時  
計ガ目ニ附キ而モ本人ハ非常ニヨク寢入り腕ヲ掴ンデ毛布ノ中ニ差込ンデモ一向氣付カナイ故茲

憲兵捜査書類作成要領附錄



ニ何トナク其ノ時計ニ心ヲ引寄セラレル様ナ感ジガ致シマシタ夫レハ自分ガ自宅カラノ送金モナク現在ノ給料デハ酒保ニモアマリ行ケズ常ニ金ニ困ツテ居ルコトガ頭ニコビリ附テ居タ爲ダト思ハレマス

ソコデ四邊ヲ見廻ハスト附近ノ者モ良ク寝入ツテ居ルノデ麻布ノ左腕ヲ毛布ノ奥ノ方ヘ押込ム様ナ態ヲシテ本人ノ巻イテ居タ時計ノ巻革ヲ外シ取り私ノ袴ノ右物入ニ隠シ何氣ナイ風ヲシテ交代位置ニ來マシタスルト丙川上等兵ハ「交代者ヲ起シテ來タ」トテ階下ノ第三班カラ出テ來マシタノデ間モナク交代シ私ハ取ツタ時計ノ事ガ心配ニナツタノデ一人兵舎ノ南側ニアル厠ニ行キ其入口ヨリ二ツ目ノ大便所ニ入り人目ニ觸レナイ三ツ目ノ大便所トノ仕切板壁ノ上ニ時計ヲ隠シタノデアリマス

五、斯様ナ所ヘ時計ヲ隠シタノハ孰レ不寢番等調べラレルト云フ虞ガアツタカラデ之ガウマク行ケバ日曜外出ノ際持出シテ質ニ入レル積リデアリマシタ而シ今カラ考ヘルト如何ニ小使錢ニ窮シタトハ言ヘ軍人トシテ有ル間敷行爲ヲ致シマシテ誠ニ申譯アリマセン必ズ心ヲ入レ換ヘ立派ナ軍人トナリ此ノ酬ヲ致シマス

問、其許ハ是ニ見覺エガアルカ

此ノ時領置ニ係ル證第一號ノ腕巻時計壹個ヲ示ス

答、是ハ私ガ麻布好雄カラ取ツタ腕巻時計デアリマス

右讀ミ聞ケタル處相違ナキ旨申立テ署名捺印セリ

甲野 一郎

昭和十四年 二月十三日 濫谷 憲兵 分隊



陸軍司法警察官陸軍憲兵曹長 川上 太郎

第十八、證人聽取書(同前)

聽取書

步兵第〇聯隊第七中隊

陸軍步兵二等兵 麻布 好雄

當二十二年

右ノ者昭和十四年二月十三日當分隊ニ於テ本職ニ對シ左ノ陳述ヲ爲シタリ

一、步兵一等兵甲野一郎ハ私ノ屬スル第一班ノ隣合セデアル第二班ニ居ル關係上本年一月十日入營シ

憲兵捜査書類作成要領附録



テ間モナクカラ知ツテ居リマスガ別ニ話シタ事モアリマセヌ

二、私ハ本年二月四日日曜日に外出シ父ト一緒ニ銀座四丁目ノ服部時計店へ行キ三十五圓出シテ「シ  
ーマ」ト云フ十二型「クローム」腕巻時計一個ヲ買ツテ貰ヒ之ヲ二月十一日迄ハ持ツテ居リ寢ル  
際ニモ左腕ニ巻メタ儘デ「ネヂ」ヲ掛ケタリシタノデスガ其ノ翌朝午前五時三十分ニ起床シテ見  
ルト巻メテ居タ右ノ時計ガ無イノデ或ハ寢テ居ル間ニ毛布ナドニ觸レテ腕巻車ガ外レ落チタノデ  
ハナイカト自分ノ寢具ヤ寢臺ノ下ハ勿論念ノ爲戰友ヲ分マデモ綿密ニ捜シマシタガ發見スルヲ得  
ズ依ツテ多分寢テ居ル間ニ何者ニカ盜マレタノデアラウト思ヒ早速第一班長西本軍曹殿ニ届出タ  
次第デアリマス

問、其許ハ是ニ見覺エガアルカ

此ノ時領置ニ係ル證第一號ノ腕巻時計ヲ示ス

答、オ示シノ腕巻時計ハ私ノ持ツテ居タモノデアリマス

麻布好雄

右讀ミ聞ケタル處相違ナキ旨申立テ署名捺印セリ

昭和十四年 二月十三日 澁谷憲兵分隊



陸軍司法警察官陸軍憲兵曹長 川上太郎

第十九、被疑者訊問調書（司法警察官トシテ作成スルモノ）

被疑者訊問調書

被疑者 甲野一郎

昭和六年六月十四日司法警察官陸軍憲兵曹長大阪正八殺人未遂被疑事件ニ就キ準現行犯人甲野一郎ヲ  
受取り大手前憲兵分隊ニ於テ司法警察吏陸軍憲兵上等兵乙田二郎立會ノ上右被疑者ニ對シ訊問スルコ  
ト左ノ如シ

一、問 氏名、年齢、職業、住居、本籍及出生地ハ如何

答 氏名ハ甲野一郎

年齢ハ當四十四年

職業ハ無職

住居ハ不定

本籍ハ大阪市東成區中〇通三丁目二十四番地

出生地ハ大阪府〇河内郡四條村

憲兵捜査書類作成要領附錄



二、問 爵位、勳章、記章、褒章、恩給、年金又ハ公職ヲ有セサルヤ

答 アリマセヌ

三、問 兵役關係ナキヤ

答 アリマセヌ

四、問 前科ナキヤ

答 前科一犯アリマス

大正九年十二月大阪控訴院ニ於テ殺人未遂罪ニヨリ無期懲役ニ處セラレ三池刑務所ニテ服役シ三度減刑ヲ受ケ更ニ昭和六年一月十八日ニ假出獄ノ恩典ニ浴シテ同所ヲ出タノデアリマス此ノ事件ハ……………(中略)

五、問 是カラ○野町丙一家ノ殺人事件ニ就テ取調ヲスルガ豫メ言ツテ置クコトハナイカ

答 本月十二日大阪市東成區○野町丙田三郎方ニ於テ同人其ノ妻及息子ノ五郎娘ノ美惠子ノ頭ヤ顔ヲ荷車ノ心棒ニテ無茶苦茶ニ殴リ大キナ怪我ヲサセマシタ

六、問 然ラバ其ノ狀況ヲ詳シク述ベテ見ヨ

答 私ハ刑務所ヲ出タ時參百參拾餘圓ノ賞與金ヲ戴キマシタ間モナク大阪へ來テ父ヤ姉ノ行衛ヲ

探シマシタガ皆目知レズ若イ時分ノ鑑職ノ親方丙田三郎ヲ○野町ノ家ニ頼ツテ假出獄中ノ引受人ニナツテ貰ヒタイト申シマシタラ三郎ハ才前一人位ハ何ウニデモシテヤルト親切ニ言ツテ呉レマシタノデ喜ンデ三池保護會へ歸リ手續ヲ済マシテ一月三十日カラ三郎方へ同居スルコトニナリマシタ處ガ引受人ニモナツテ呉レズ仕事ノ世話モシテ呉レズ一日四十錢ノ飯代ヲ取ラレ板ノ間ニ寢カサレ朝早ク夜闇タナル迄自分デ九條(泉尾)方面へ仕事ヲ探シニ歩キマシタガ口ガ無ク自暴自棄ニ爲ツテハ酒ヲ飲ミ賞與金ヲ減ラシ三郎ニ預ケタ貳百圓ノ内百圓ハ返シテ貰ヒマシタガ又好キナ酒ノ爲メ使ツテ仕舞ヒ其ノ内ニ病氣ニ爲ツテ熱ガ出テモ養生ヲサセテ呉レズ近所デ間借リヲセヨト迄云ハレ到頭「モウヨウ置カヌカラ出テ行ケ」ト申サレタ爲メ止ムナク預ケテアル殘リノ金ノ内飯代ヲ引カレタ八拾圓足ラズヲ探ツテ六月一日ニ三郎方ヲ出テ飛田へ行ツタリ安宿へ泊ツタリシテ嫌ナ日ヲ暮ラシマシタ此ノ様ニ冷淡ナ取扱ヲ受ケタ事ヲ思ヒ出スニツケ三郎ノ仕打ヲ恨ム様ニナリ金モナケレバ頼ル所モナク着物ヲ着替へニ歸ツテ見ルト親爺ハ言葉モ掛ケテ呉レズ女房モ五月蠅サウナ顔ヲシテ荷物ヲ皆持ツテ行ケト言ハヌ許リノ様子ヲ見セツケラレルノデ更ニ腹ガ立チマシタ十一日ハ午後六時頃雨ガ降ツタノデ練兵場ノ近所ニ居ル丁田四郎方デ雨傘ト高下駄ヲ借りソレマデ履イテ居タ表付神戸憲兵搜查書類作成要領附錄



下駄ハ貫ツタ新聞ニ包ミ今福酒屋デ十錢ノ酒ヲ呑ミウロ／＼歩イテ居リマシタガ懐中ニハ金ガナク今迄三郎ノシタ事ヤ云ウタコトヲ想ヒ出スニツケ人ヲ馬鹿ニシヤガツタモウ辛抱ガ出來ヌト云フ様ナ氣分ニ爲ツタ儘空家ヘ這入ツテ隨分思案シテ居リマシタ十二時頃ニナリ頭ガクシヤ／＼シテ一層ノ事怨ミ重ナル三郎ヲ殺シテヤロウカト云フ氣ニナリ今福市場ノ所迄來ルト軒下ニ荷車ノ心棒ガ置イテアツタノヲ見タ時ムラ／＼ト心ガ鬼ノ様ニ變リ之デ三郎ヲ殺リ殺サウト決心シタノデアリマス

## 七、問

ソレカラ怎ウシタノカ

答 此ノ荷車ノ心棒ヲ拾ツテ三郎方ノ表口ニ參リ幾度モ表戸ヲ叩キマシタガ返事ガ無イノデ何トカシテ忍込ミタイト思ヒ東ヘ一丁程學校ノ前迄行キマスト梯子ガアツタノデソレヲ三郎方ノ裏手ヘ持つテ來テ肥波道ノ上ニ置イテアル材木ノ上ヘ新聞紙包ノ下駄ヲ置キ荷車ノ心棒ヲ提ガタ儘梯子ヲ登リ塀ノ上デ梯子ヲ内側ヘ入レ之ヲ傳ツテ庭ヘ降りトタン屋根ノ下デ腰ヲ下シ一時間位ハ考ヘ込ミマシタガ來葉帽子ハ脱イテ其邊ニ置キマシタ其ノ間ニ三郎夫婦ガ便所ヘ行ツタ事ハ覺エテ居リマス腰掛ケナガラ考ヘ直シテモ見マシタガ什ウシテモ胸ガ納マラズ「チエツ」ト腹ヲ極メテ其ノ鐵棒ヲ持つタ儘足袋蹴足テ縁側ニ登リ硝子障子ヲ明ケテ座敷ノ中

ヘ這入りマシタ電燈ハ消シテアリマシタガ店ノ間カラノ明リデ人ノ寢テ居ル姿ハボンヤリ判ツテ居リマシタ皆表ノ方ヲ枕ニシテ寢所ノ方カラ娘、女房、親爺、息子ノ順序ニ寢テ居タノデアリマス私ハ先ヅ親爺ノ頭カ顔ノ邊ヲ鐵棒デ殴リ續イテ女房ヲ殴リマシタガソレカラハ譯モ判ラズ何度モ殴リマシタ夫婦ヲ殴ツタコトハ覺エテ居リマスガ子供二人ニ付テハ殴ツタ様ニモ思ヒマスガ後カラ考ヘテ見テ怎ウシタダラウカト心配シナガラ逃ゲテ行ツタ様ナ次第デアリマス私ガ親爺ヲ殴ツタ時同人ハ一言「誰」ト云フタダケデ女房、蒲團ヲ冠リマシタガ間モナク起キテ座リ私ガ庭迄出タ時ニ立ツテ電氣ヲ點ケマシタ其レ故此ノ夫婦ハ私ガ殴ツタ事ヲ知ラヌカモ知レマセヌガ或ハ女房ニ見付ケラレタノデハナイカト思ヒマス

## 八、問

三郎ノ家族全部ヲ殴リ殺ス積リデ殴打シタノデハナイカ

## 答

三郎ハ殺ス覺悟デ殴ツタノニ間違ヒアリマセヌガ外ノ三名ヲ殺ス積リハアリマセンデシタ

## 九、問

何レニ逃走シタルヤ

## 答

私ハ急イデ梯子ヲ傳ツテ塀ノ上ニ登リ塀ガ腐ツテアツタ爲カ少シ墮レ私ハ横倒レニ外ヘ落チマシタソレカラ塀ノ外ヘ脱イテアツタ高下駄ト傘ヲ持つテ五、六町一生懸命ニ走り其處デ下駄ヲ履イテ中道方面ヘ行ク途中水溜リガアツタノデ手足ヲ洗ヒ道頓堀ノ方ヘ出マシタガ其ノ

憲兵捜査書類作成要領附録



内ニ夜ガ明ケ朝日屋ノ横手ヲズツト南ヘ行ツタ時計屋デ前ニ買ツタ腕時計ヲ一圓七十錢デ賣リ此ノ金デ餅屋デ餅ヲ喰ツタリシテカラ新世界ノ方ヘ行キ飯屋デ腹ヲ拵ヘテ居酒屋デ酒ヲ飲ミ釜ヶ崎ノ宿屋デ本村大吉ト偽名シテ泊リ翌日午前十一時頃ニ起キテ天王寺公園ニ出デ、「ベシチ」ニ腰ヲ掛ケテ居ル所デ捕ヘラレマシタ

十、問 荷車ノ心棒ハ如何ニセシヤ

答 逃ゲ出ス時塀ヲ越ス前ニ何處ヘカ置イテ來タト思ヒマス

十一、問 之ニ見覺エアリヤ

此ノ時押收第一號乃至第三號ヲ示ス

答 御示シノ第一號證ハ三池デ買ウタ表付下駄デ新聞紙包ノ儘忘レタモノデアリ御示シノ第二號證ハ私が拾ツテ持ツテ行キ内田三郎夫婦等ヲ毆ツタ荷車ノ心棒デアリ御示シノ第三號證ハ三郎方ヘ忍ビ込ム時冠ツテ行ツタ私ノ麥藁帽子ヲ置キ忘レテ來タモノデス是ハ玉造ノ朝日座附近ノ帽子屋デ八十錢デ買ヒマシタ

十二、問 今如何ニ考フルヤ

答 私ハ逃ゲテ居ル間ニモエライ事ヲシタト思ヒ一番先ニ毆ツタ親爺ハ死ニハセヌカト心配シ

女房モヒヨツトシタラ死ヌノデハナイカト思ヒマシタガ二人ノ子供ニ付テハ若シモ毆ツタトスレハ可愛想ナ事ヲシタ助ケテヤリタイト思ウテ居リマシタ此ノ二人ノ子供ハ決シテ殺ス考ヘハナカッタ事ヲ申上ゲテ置キマス  
誠ニ惡イコトヲ致シマシテ申譯アリマセヌ私ハ昔カラ氣ガ短カク又コンナエライ事ヲシテ後悔シテ居リマス

被疑者 甲 野 一 郎 拇印

右錄取シ讀ミ聞カセタル處相違ナキ旨申立テタルニ付署名拇印セシム



前 同日

大手 前 憲兵 分 隊

司法警察官陸軍憲兵曹長 大 阪

正 印

司法警察吏陸軍憲兵上等兵 乙 田 二 郎

印

第二十、證人訊問調書(司法警察官トシテ作成スルモノ)

### 證人訊問調書

證人 丙 田 三 郎

昭和六年六月十二日司法警察官陸軍憲兵曹長大阪正八氏名不詳者ニ對スル殺人未遂被疑事件ニ付現行  
憲兵捜査書類作成要領附錄



犯人其ノ場所ニ在ラサルモ急速ヲ要スルヲ以テ大阪市東城區〇野町東病院ニ臨ミ司法警察吏陸軍憲兵上等兵乙田二郎立會ノ上右證人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一、問 氏名、年齢、職業及住所ハ如何

答 氏名ハ丙田三郎

年齢ハ當五十二年

職業ハ煙草小賣雜貨商

住居ハ大阪市東城區〇野町二百七番地

司法警察官ハ刑事訴訟法第百八十六條第一項ノ規定ニ該當スル者ナリヤ否ヤヲ取調フルヲ要セサルニヨリ

二、問 證人ハ昨夜何時頃ニ寢タカ

答 午後六時頃奥六疊ノ間デ妻マキ長男五郎長女美惠子ト共ニ西枕デ並ンデ寢ニ就キマシタ

三、問 寢テカラ何か變ツタ事ハ無カツタカ

答 大分寢タト思ヒマス頃何かデ毆ラレタ様ナ感じガシテ一寸目ガ醒メズ何モ判ラナクナツテシマヒマシタ此度氣ガツクト病院ニ參ツテ居リマシタ

四、問 何かデ毆ラレタト言フガ斬ラレタノデハナイカ

答 毆ラレタカ斬ラレタカ判然致シマセン私デハ多分重イモノデ毆ラレタ様ニ思ヒマス

五、問 證人ガ一寸氣ガツイタト云フガ傍ニ家族以外ニ誰カ居ラナカツタカ

答 誰モ居ツタ様ナ記憶ハ御座イマセン何分氣ガツイタト言フノハホソノ一瞬間デアリマス

六、問 證人ガ氣ガツイタ時ニ傍ニ寢テ居ツタ家族ハ怎ウシテ居ツタカ

答 注意致シマス暇ガ御座イマセンデシタ

七、問 毆ラレタト感じタ時ニ痛ミヲ覺エナカツタカ

答 痛ミヲ感じタ時ニ夫レデ目ガ醒メタト思ヒマス

八、問 證人方ハ寢ル時ニハ電氣ハ皆消スノカ

答 奥ノ間ハ消シマスガ店ノ間ハ一個丈點ジテ置キマス其ノ光デ奥ノ間ハ薄ク見エマス

九、問 證人ガ怪我シタ時ニ奥ノ間ノ電氣ハ消エテ居ツタカ

答 記憶ハ御座イマセヌ

十、問 證人ハ誰ニ傷ヲ負ハサレタカ心當リハナイカ

答 私ガ氣ガ付イタ時ニ傍ニ誰モ居ル様ニ思ヒマセナンダシ別ニ誰カラモ恨テ受ケテ居ル様ニ思

憲兵搜查書類作成要領附錄



ヒマセヌカラ心當リハアリマセン

十一、問 證人方ニ誰カ最近迄同居サセテ居ツタカ

答 私ノ家ハ二、三年前迄健職デアリマシタ甲野一郎ト云フ者ヲ十五年程以前ニ二年間程使ツテ居リマシタ一郎ハ私ノ家ヲ出テカラ何等便リヲセナカツタノデアリマスガ然本年二月二十八日ニ私方ヘ参リマシテ殺人罪ヲ犯シテ刑ヲ終ヘ出獄シテ來タ適當ナ仕事ガ見付カル迄泊メテ賈ヒ度イト云ウテ参リマシタ私ハ一日四十錢ノ飯代ノ約束デ其ノ日カラ同人ヲ泊メマシタ六月一日ニ何處カヘ出テ行ツテ仕舞ヒマシタ

十二、問 一郎ハ證人方ノ何處デ寢テ居ツタノカ

答 店ノ間ノ東側ノ陳列棚ノ前ノ板ノ間ニ寢サセテ居リマシタ

十三、問 證人ハ一郎ヲ同居サセル事ニナツタ時ニ同人カラ何カ預ツタモノハナカツタカ

答 刑務所ヲ出ル時ニ賞與金二百圓ヲ貰ツテ來タト云フコトヲ聞キマシタイヅレ何カ商賣ラセネバナラヌ金デアルカラ無駄ノコトニ使ハヌ様ニ預ツテヤルト申シマシタラ其レヲ私ニ渡シマシタ

十四、問 證人ハ其ノ金ノ始末ヲ怎ウシタカ

答 三月中旬頃ニ二十圓殘シテ預ツテ居タ三文判デ餘江郵便局ヘ私ガ参ツテ一郎名義デ貯金ヲ

シテヤリマシタ其ノ二十圓ノ餘ヲ四月初ニ飯代トシテ差引キ殘リヲ渡シマシタ夫レカラ暫クシテ同人ガ金ノ入用ガ出來タト申シマスカラ八十圓ヲ出シテ渡シマシタ殘金ハ私ノ家ヲ出マス時ニ五十錢ヲ殘シテ拂戻ヲ受ケテ來テ其ノ中カラ飯代二十圓ヲ差引キ渡シテヤリマシタ同五十錢ノ殘金ノアル通帳ハ飯代ノ中ヘ取ツテ置クト云ツテ私ノ家ニ殘シテアリマス

十五、問 一郎ガ六月一日ニ證人方ヲ出ル時ニ證人トノ間ニ何カ云ヒ争ヒヲシタ事ハ無カツタカ

答 飯代ヲ引イテ殘金ヲ渡シマスト一郎ハ取過ギデハ無イカト申シマシタノデ私ハ腹ガ立ツテ取過ギト云フ様ナコトハナイ大體自分ハ飯代等ハ當ニシテ居ルモノデ無イオ前ガ頼ムカラ置イテヤツタモノダオ前ハ私ノ家ヲ出テカラ何ノ便リモセズ突然厄介ニナリニ來ルト云フノハ不都合ナ男ダト申シマスト不平サウナ顔ヲシテ黙ツテ金ヲ持ツテ出テ行キマシタ只夫レ丈ケデ云ヒ争ヒト云フ程デハアリマセヌ

十六、問 一郎ハ其後證人方ヘ來ナカツタカ

答 六月五日カ六日頃ニ私方ヘ参リマシテ飯代ハ勘定違ヒデ無イカト申シマシタノデソナ事ガアルカト云フテ説明シテヤリマシタ又黙ツテ出テ行キマシタ

憲兵搜查書類作成要領附錄



十七、問 一郎が證人方へ二月二十八日ニ來タ時ニ就職ヲ頼マレナカッタカ

答 一緒ニ就職ヲシヨウト云フ様ナ事ヲ申シマシタ然シ不景氣ナ時節デアリマシタカラソソナモノヲシテモ駄目ダト思ヒ話丈ケデ放ツテ置キマシタ

十八、問 一郎が證人方へ同居シタノハ就職ヲ一緒ニスル爲デハ無カッタカ

答 左様ナ譯デモ御座イマセヌ泊メテ貰ヒ度イト云ツテ參ツタノデアリマス

十九、問 證人方表ノ硝子ヤ縁先ノ硝子障子ニハ施錠ガアルカ

答 表ニハ螺釘ニツト掛金一ツアリマス縁先ノ硝子障子ニハ何等戸締ガ出來テ居リマセヌ

二十、問 一郎ニハ大阪ニ知合ガアルカ

答 森之宮ニ丁田四郎ト云フ者ヤ外ニ就職ヲヤツテ居ツタ當時ノ友達ガ多少アル様デアリマス

二十一、問 之ニ見覺エガアルカ

此ノ時押収第二號證鐵棒ヲ示ス

答 見覺エアリマセン

二十二、問 之ニ見覺ガアルカ

前同第一號證表付下駄ヲ示ス

答 夫レハ留吉ノ表付下駄デ六月一日ニ私方ヲ出ル折ニ穿イテ居リマシタ  
二十三、問 外ニ何カ心當リハナイカ

答 今ノ處デハアリマセン

證人 丙 田 三 郎 拇印

右錄取シ讀聞カセタル處相違無キ旨承認シタルモ重傷ノ爲自署不能ナル旨申立テタルニ付本職代署シ拇印セシムシ

前 同 日

大手前憲兵分隊

司法警察官陸軍憲兵曹長

大 阪 正 印

司法警察吏陸軍憲兵上等兵

乙 田 二 郎 印



第二十一、勾引狀其ノ一（軍司法警察官自ラ發スルモノ）

二六二

勾引狀		執行シタル		引致ヲ受ケタル	
所屬	滿洲國濱江省哈爾濱駐屯 ○兵第○聯隊第一大隊附 陸軍衛生軍曹 甲野 一郎	場 所	濱江省哈爾濱 ○兵第○聯隊第一大隊事務室	引致ヲ受ケタル	昭和十三年二月二十五日午前九時
右殺人被告事件ニ付訊問ノ爲當隊ニ勾引ス		執行シタル年月日時	昭和十三年二月二十五日午前九時三十分	引致ヲ受ケタル年月日時	昭和十三年二月二十五日午前九時
昭和三十二年 二月二十五日	隊印	執行スルコト能ハサルトキハ其ノ理由		引致ヲ受ケタル官吏ノ認印	昭和十三年二月二十五日午前九時
哈爾濱新市街憲兵分隊 陸軍司法警察官 乙田 二郎 印		右ノ通取扱候也		送致ヲ受ケタル官吏ノ認印	昭和十三年二月二十五日午前九時
陸軍司法警察官 陸軍憲兵少佐		昭和三十二年二月二十五日			
		陸軍司法警察吏陸軍憲兵上等兵 丙川三郎 印			

勾引狀其ノ二（軍司法警察官囑託ニヨリ發スルモノ）

勾引狀		執行シタル		引致ヲ受ケタル	
所屬	濱江省哈爾濱駐屯 ○兵第○聯隊第一大隊附 陸軍衛生軍曹 甲野 一郎	場 所	濱江省哈爾濱 ○兵第○聯隊第一大隊	引致ヲ受ケタル	昭和十三年二月二十五日午前九時
右殺人被告事件ニ付訊問ノ爲仙臺憲兵隊本部ニ勾引ス		執行シタル年月日時	昭和十三年二月二十五日午前九時十分	引致ヲ受ケタル年月日時	昭和十三年二月二十五日午前九時十分
此ノ令狀ハ仙臺憲兵隊長陸軍司法警察官陸軍憲兵中佐宮城十郎 囑託ニ依リ之ヲ發ス		執行スルコト能ハサルトキハ其ノ理由		引致ヲ受ケタル官吏ノ認印	昭和十三年二月二十五日
昭和三十二年 二月二十五日	隊印	右ノ通取扱候也		送致ヲ受ケタル官吏ノ認印	昭和十三年二月二十五日
哈爾濱新市街憲兵分隊 陸軍司法警察官陸軍憲兵少佐 丁山五郎 印		昭和三十二年二月二十五日			
		陸軍司法警察官陸軍憲兵軍曹 己田六郎 印			

憲兵捜査書類作成要領附録

二六三



第二十二、被告人訊問調書（軍司法警察官トシテ作成スルモノ）

訊問調書（否認ノ調書）

被告人 甲野一郎

右ノ者ニ對スル殺人死體遺棄被告事件ニ付昭和十三年三月三日當分隊ニ於テ訊問ヲ爲スコト左ノ如シ

一、問 氏名、年齢、所屬隊、官等級、本籍地、出生地ハ如何

答 氏名ハ甲野一郎

年齢ハ當二十六年

所屬ハ〇兵第〇聯隊第一大隊附

官等ハ陸軍衛生軍曹

本籍ハ福島縣伊達郡藤田町大字石母田字〇〇二番地

出生地ハ福島縣伊達郡藤田町大字石母田字〇〇四七番地

デアリマス

二、問 位記、勳章、記章ヲ有スルヤ

答 アリマセヌ

三、問 前科ヲ有スルヤ

答 アリマス

ソレハ昭和十年十二月十三日傷害罪ニヨリ第二師團軍法會議ニ於テ罰金貳拾圓ニ處セラレタルコトガアリマス

四、問 才前ノ經歷ヲ述ベヨ

答 私ハ大正二年三月二十一日甲野十郎ノ四男ニ生レ昭和二年三月本籍藤田町尋常高等小學校卒業後家庭ニ於テ農業ニ従事十七歳ノ時私ノ近所ニ農業ヲ營ンデ居リマス甲野正太郎方ニ農業奉公トシテ働キソノ後昭和八年九月驛員ヲ志望シテ仙臺市ニ參リマシテ當時叔父ガ市内連坊小路鐵道官舎二十一號ノ一ニ居住仙臺驛ニ勤メテ居リマシタノデ此ノ叔父ヲ頼リ同家ニ寄寓鐵道ニ就職方運動ヲ致シマシタガ遂ニ此ノ就職モ出來マセンノデ前述ノ叔父竹田久次郎ノ世話デ市内小田原南公園小松島ノ養鶏場奥田眞太郎方ニ月十三圓デ雇ハレ働イテ居リマシタガ昭和九年一月三十一日補缺入營デ〇兵第〇聯隊ニ現役兵トシテ入隊致シマシタ

ソウシテ約二十日間一般初年兵教育ヲ受ケ同年二月仙臺陸軍病院ニ看護兵トシテ配屬セラレ憲兵捜査書類作成要領附録



昭和十年三月下士志願致シ同年七月二十日ヨリ下士候補教育ヲ受ケ其ノ年ノ十二月一日衛生  
長ニ任官昭和十一年八月歩兵第四聯隊第三大隊附トナリ同年ノ十二月一日衛生軍曹ニ進級  
昭和十二年四月渡滿致シ只今ハ「ハルビン」駐屯〇兵第〇聯隊第一大隊附トシテ勤務致シ今  
日ニ及ンデ居リマス

五、問 家庭ノ狀況ヲ述ベヨ

答 私ノ家族ト致シマシテ本籍地ニ母ため(六一)兄利助(三八)嫂まき(三四)兄ノ子二人姉好子  
(三〇)ハ家庭ニ在リ農業ニ従事シテ居リマス様ナ次第デ資産ト致シマシテハ家屋一棟ト畑三  
反餘リデ後ハ小作農トシテ生活ハ豊カデハアリマセン  
又妻うめ(一一)ト私ノ長女薫子(二)ハ私ガ渡滿前ヨリ生家甲野正太郎方ニ同居生活シテ居リ  
マス

六、問 才前ガうめト結婚シタル經過及ビ其後ノ狀況ヲ述ベヨ

答 私ハ前述ノ様ニ十七歳ノ時藤田町ノ農業甲野正太郎方ニ農業奉公トシテ働中同家娘うめト親  
シクナリ二人ハ相愛ノ間柄トナリ將來ノ結婚迄約束スル様ニナリ又私共二人ノ間ヲ娘ノ父正  
太郎モ認メテ吳レ常々正太郎ハ私ニ才前ガ一人デ生計ヲ立テラレル様ニナツタラバ娘ヲ吳レ

テヤルト云ツテ居ラレマシタ其ノ後私ハ此ノ二人ノ仲ヲ結婚ニ迄漕ギツケ様ト堅ク決心致シ  
前述ノ様ニ仙臺ニ赴キ鐵道員トナリ立身ヲ計ツタノデアリマス

ソノ頃私ノ母ハ此ノ結婚問題ニ強ク反對シタノデアリマスソノ理由ト致シマシテハ甲野正太  
郎方ハ血統ガ悪イト云フコトデアリマシタガ其ノ實ハ母ノ姻戚ニ當ル山下多美子ト云フ女性  
ヲ私ノ妻ニシタカツタノガ主ナル原因ダト後デ分リマシタ斯様ニシテうめト結婚スルニハ相  
當紛糾ガアリマシタケレ共私ハ相變ラズうめヲ親愛致シ又うめモ私ヲ絶對頼ツテ居タモノノ  
様デ私ト結婚ガ叶ハナケレハ家出スルトマデ致シタノデアリマス

此様ニシテ私共二人ハ堅キ結合ノ下ニ昭和十二年二月遂ニ双方ノ親元ニ於テ許シテ吳レ正式  
結婚ガ整ヒ夫婦生活ニ入ツタノデアリマス

七、問 才前ト

ソシテ昭和十二年十月長女薫子ヲ出産今日ニ至ツテ居ルモノデ御座キマス

仙臺市成田町四十五番地

戸主 永山 雄 亮 庶子

平塚 つね



トノ關係ヲ述ベヨ

二六八

答 昭和十年五月頃私が陸軍病院ニ於テ上等兵トシテ勤務中狩野勝男ト云フ青年訓練生ガ○兵第

○聯隊見學中盲腸炎ニ罹リ陸軍病院ニ入院致シマシタ丁度私ハソノ病室ノ係リデアリマシタ  
スルトソノ患者ノ親戚ダト云フ仙臺市八軒公路○番地大門貞子(當二十一年)ガ見舞ニ來ラレ  
マシタ

ソシテ此ノ貞子ト云フ女ハソノ後シバ〱病院ニ見舞ダト云ツテ來ラレ私ハソノ病室勤務ノ  
關係上ソノ女ト面識シ遂ニ雜談ヲ交ス様ニナリ又其ノ貞子モ私ニ對シ愛情ヲ持ツ様ニナリマ  
シタソシテ其後ト云フモノハ貞子ノ働キ先デアリマスニ越ニ同人ヲ訪レル様ナ關係ヲ生ジテ  
來タ矢先貞子ノ從妹ト云ツテ病院ニ來マシタノガ所謂御間ノ平塚つねデアリマス

ソシテ此ノつねト云フ女ハソノ頃盛ニ病室ニ來ラレ當時患者デアリマス佐々田勉同病室勤務  
ノ丸山看護兵ト相當近シク話シテ居ツタノヲ見受ケテ居リマシタソシテ同年ノ秋頃ト思ヒマ  
スガ丸山看護兵ノ所ニつねガ訪レ今度ノ日曜日ニ兩名ハ何處カヘ遊ビニ行ク約束ヲシタノデ  
アリマス

ソコデ私ハ好奇心ノ爲ソノ約束ノ日曜日ニ私ハ看護兵ヲ尾行致シマシタ處丸山ハつねト落合

ツテ町ヲ散歩後市内北材木町ノ屋號ハ記憶アリマセンガ一軒ノ麥蕎屋ニ入ツタノヲ見届ケマ  
シタ

ソコニ私ハ異様ナ感ニ打タレ惡イ事トハ思ヒ乍ラ續イテ其ノ麥蕎屋ニ入りマスト二人ハ顔ヲ  
見合セ私ヲ目視シタノデアリマス其ノ時三名ハ揃ツテ其所デ食事ヲ濟マセ歸リマシタ

其ノ翌日私ハ丸山ニ對シ「ウマクヤツテ居ルネ」トヒヤカシマシタ處丸山ハ私ニ對シ「實ハ  
アノ女ハ病院裏ノ○衛生課長宅ノ女中平塚つねデアアルガ君ニ是非會ヒタイト云ツテ居ルガ會  
フカ」ト言ハレマシタノデ「會フカラ其ノ旨傳ヘテ呉レ」ト云ツテ置キマシタスルト其ノ後  
屢々つねカラ電話ガ參リマシタガ氣ニモ止メマセンデシタ

其後昭和十一年十二月上旬つねカラ私ニ電話ガ參リマシタソノ用件ハ今日日曜ニ三越デ會ツ  
テ呉レナイカト云フ意味デアリマシタノデ私ハつねニ會フベク返事ヲシテ三越ニ參リマスト  
丁度途中病院ノ貝山大夫ト一緒ニナリマシテつねトハ一寸會ツテ別レ一度歸院シ再ビ外出致  
シマシテつねト示シ合セタ市内一番丁ノ幸福堂ト云フ麥蕎屋デ麥蕎ヲ喰ヒ歸リニ同日午後八  
時頃縣廳内ノ孔子廟門ノ内側デ肉體關係ヲ致シマシタ斯様ニシテ此ノ日ハ歸院シテ來マシテ  
昭和十一年三月十四日ノ經理検査ノ日デシタつねカラ電話ガ有リマシタガ其ノ時ハ全ク忙シ

憲兵搜查書類作成要領附錄

二六九



カツタノデ詳シイ話モ致シマセンデシタ

次デ此月ノ下旬頃ノ事ト思ヒマス日時ハ分リマセンガ初年兵教育デ忙シイ日ツねカラ又電話ガ來マシタソノ時ノ話ニハツねガ私ト關係シテ妊娠シタト告ゲラレタノデアリマス

ソコデ私ハ非常ニ驚イテ色々思案ヲ致シマシタガ何トモ方策ガツキマセンノデソノ儘放任シテ日時ヲ過シテ參リマシタ斯様ニシテ居ル中ニ同年五月二十日頃ト思ヒマスツねカラ電話デ「貴女ノ子供ヲ妊娠シタガドウ始末シテ呉レルカ」ト告ゲラレマシタノデ其ノ際私ハ現在營内居住デアアルカラドウニモナラヌ待ツテ居テ呉レト答ヘマシタガ私ハ如何ニコノ問題ヲ解決スベキカト云フ事ニ苦心餘ツテ實ハ當時私ノ班ノ淺山班長ニ人事ノ様ニ云ツテ話シヨイ智慧ヲ借り様ト思ヒ色々話シテ見マシタガ淺山班長ハ取上ゲテ呉レマセンデシタ

ソコデ私ハ窮餘ニ餘ツテ實ハ惡イ事トハ知り乍ラ墮胎サセ様ト考ヘ其ノ手段方法ニ付テ當時傳染病室ニ入院中ノ人ニソレトナク話ヲ聞キマシタ處鯨ノ罐詰二個ヲ一度ニ喰ベルト胎兒ガ下リルト云フ事ヲ聞キマシタノデ直グツねニ電話デ鯨ノ罐詰二個ヲ一度ニ喰ヘト命ジマシタスルトツねハ鯨ノ罐詰ヲ買ツテ來テ喰ベタケレ共トテモ喰ベ切レナイカラ駄目ダト云フ返事ガアリマシテ此ノ墮胎方法モ遂ニ水泡ニ歸シタノデアリマス

同年五月二十四、五日頃カト思ヒマス又ツねカラ電話ガ參リマシタソノ時ノ話ニハ「斯様ニ私モ身重ニナツテハ隠セナイカラ實ハ來ル二十一日弟ガ精須賀海兵團ニ入團スルノデソノ送別ノタメ實家ヘ歸リマスカラソノ時妊娠シタコトヲ母ヤ兄夫婦ニ話シマス然シ子供ハ生レテモ一時母ノ子供トシテ置キ貴方ガ一、二年後ニ營外居住ニナルマデソウシテ居ルト打開ケルガドウカ」ト云フ意味ノ電話デアリマシタソコデ私ハ然ラバソウ云ツテ置ケト返事ヲシテ置キマシタ

私トツねトノ關係ハ之デ全部デアリマシテ其ノ後ツねハ行方不明ニナツタト云フ事ヲ聞キマシタガ私ニハ分リマセン

八、問

オ前ハ前述ノ様ニツねガ妊娠シタ事ニ對シ窮餘ノ餘リツねヲ殺害シタノデハナイカ  
答 誠ニ申譯御座イマセン

實ハ私ハツねヲ殺シタノデハナクツねガ自殺シタ屍體ヲ一時隠シバラ／＼ニシテ井戸ノ中ニ捨テタノデアリマス

九、問

然ラバ其ノ狀況ヲ述ベヨ

答

私ハ昭和十一年三月以降ツねガ妊娠シタト云フコトヲ告ゲラレテ以來何時モ此ノ問題デ惱ミ

憲兵捜査書類作成要領附録



前述ノ様ニ處置方ニ付キゴタノヲ續ケテ來タノデアリマス  
 ソコデ同年ノ五月二十七日午後十一時頃つねカラ次ノ様ナ電話ガアツタノデアリマス  
 「子供ノ問題デ相談ガアルカラ私ノ方カラ病院ニ行クカラ今夜ノ午前二時頃カラ五時迄ノ間  
 ニ戦用倉庫ノ裏ニ出テ居ツテ呉レ」トノ意味デアリマシタノデ私ハ午前三時頃縣廳前ニ當ル  
 病院ノ戦用倉庫ノ裏ニ來テ見マストつねガ「エプロン」ト前掛ヲ結び合セ之ヲ木ニ掛ケ縊死  
 シテ居ルヲ發見シマシタソコデ私ハ驚イテ直グ木カラ下ロシテ死體ノ始末ヲシ様ト考ヘ先  
 ツ戦用倉庫ノ傍ニアリマシタ酒樽包用ノ菰(網目ノ細カイモノ)一枚持ツテ來マシテグル  
 壽司卷ニシテ兩手デ抱ヘ直グ表玄關東側將校病室ノ床下ニ運ビ隠シテ置キマシタ然シ五月二  
 十九日病院長ノ教育査閲ガアリマシタノデ午後十時頃其場カラ出シテ直グ當時私ノ勤務シテ  
 居リマシタ病理試験室ノ床下ニ持チ運ビ土ヲ掛ケテ隠シマシタ斯様ニシテ何知ラヌ風ヲ裝ツ  
 テ居リマシテ同年十一月下旬頃屍體ヲ箱ニ入レテ共同墓地ニ埋メ様ト考ヘマシタケレ共何シ  
 ロ腐レテボロ／＼ニナツテ其始末モ出來ズ取敢ヘズ頭及腕ノ一部ヲ門衛裏井戸内ニ投込ミソ  
 シテ他ノ部分モ其ノ井戸ニ入レタ様ニ思ヒマス着裝ノ衣類全部ハ病院内汚物焼却場ニ突込ミ  
 焼却シテシマヒマシタ

此ノ時被告甲野一郎ハ顔色蒼白トナリ身體震ヒ「つね來ルつね來ル」ト叫ビ興奮シタリ  
 十、問 他ニ申述ブルコトナキヤ  
 答 アリマセン

陳述人 甲野一郎

右錄取シ讀聞ケタル處相違ナキ旨申立ツルニ付署名捺印セシム

昭和十三年 三月三日 仙臺憲兵分隊



陸軍司法警察官陸軍憲兵准尉 乙田二郎

第二十三、被告人第二回訊問調書(同前)

第二回訊問調書

被告人 甲野一郎

右ノ者ニ對スル殺人死體遺棄事件ニ付昭和十三年三月四日當分隊ニ於テ本職ハ第二回訊問ヲ爲スコト  
 左ノ如シ



一、問 昭和十一年五月二十七日ノ夜平塚つねヨリ電話ガ掛カツテ來タ當時ノ狀況ヲ述ベヨ

答 午後十一時頃ノコトト思ヒマスつねカラ「色々話ガアルガ途中他ニ立寄ル所モアリ遅クナルカラ午前二時カラ三時頃戦用倉庫ノ裏ニ來テ會ツテ呉レ」トノ電話ガアリマシタノデ時間ハ判然記憶シテ居リマセンガソノ時刻ニ戦用倉庫ノ裏ニ行ツテ見マストつねガ溢死シテ居ルノヲ發見シタノデアリマス

二、問 溢死ノ狀況ハ怎ウカ

答 溢死ノ狀況ヲ申上ゲマスト次ノ通りデアリマス

病院ノ生籬（からたち）ノ柵ノ中ノ大キイ木ノ枝ノ丁度曲角ヨリ「エプロン」ヲ紐ニシ吊ラシテ居リマシタ私ハ此所ニ來ルノガ遅クナツタ爲ト前ニ申述べタ様ニ私ノ關係シタ女ナノデ其儘放ツテ置ク譯ニハ行キマセンノデ兩手デ其ノ紐ヲ千切りつねノ體ヲ下ニ下ロシマシタ身體ハマダ暖カデシタガ人口呼吸ヤ其ノ他ノ處置ハ致シマセンデシタ

三、問 死體ノ處置ヲ申述ベヨ

答 ソレカラ戦用倉庫前カラ菰ヲ持ツテ來テ足ヲ延バシタ儘グル／＼壽司卷ニシ其夜ノ中ニ病院將校病室ノ床ノ下ニ運ビ隠シテ置キマシタガ翌五月二十八日午後十時頃ソノ場所カラ死體ヲ

運ビ出シ病理試験室ノ内ヨリ床板ヲ持チ上ゲ中ニ入り死體ヲ寢カセテ手デ穴ヲ堀リ菰藁ト着物ヲ隠シテ見エナクナル程度ニ上カラ土ヲカブセマシタ  
其後暫ク其儘放ツテ置キマシタガ八月〇兵第〇聯隊ニ轉屬ニナツテカラ或ハ病理試験室ノ床板ヲ誰カニ開ケラレルノデハアルマイカ死體ノ隠匿場所ガ發見サレハシマイカト戦々競々トシ心配ノ餘リ色々犯罪ノ本ヲ讀ンダリ死體ハドウシタラ一番腐レ易イカ等藥物ノ研究ヲシタリ或ハ誰ニモ發見サレヌ中ニ何處カノ寺ニ運ビ無縁佛トシテ埋メ様カトモ考ヘマシタガ何レモ實行出來マセンデシタ

其ノ内十一月二十日私ハ滿洲派遣要員トナリマシタカラ早ク死體ヲ處理シナケレバナラヌト思ヒマシタノデ昭和十一年十一月下旬日曜日ノ午後十二時迄ノ外出ヲ利用シ午後九時頃前ニ隠シテ置キマシタ場所ニ參リマシテ床板ヲ持上ゲテ見マスト肉ハ全部腐爛シテ居リマシタソシテ何處カノ墓ニデモ埋メ様ト思ツテ持ツテ行ツタ箱ニ首、手、足ノ一部ヲ入レマシタ胴體ハ肉ガ固クナツテ居リマシタ爲箱ニ入レルコトモ出來マセンデシタ

着物ハ身體ヲ寢カシタ儘帯ヲ下ニズラセテ取ツタ上脱シ着物ハ着物デ別ニ丸メマシタ箱ニ入レタ首、手、足ノ一部ハ一度病理室外ニ持出シ門衛裏手ノ井戸ノ中ニ投込ミマシタ



ソシテ箱ノミ再ビ持歸リソレニ着物ヤ帶等ヲ積込ミ汚物焼却場ニ運ビ箱共釜ノ中ニ投込ミマシタ  
嗣體ハ焼却場附近ヨリ新シイ菰ト繩ヲ持ツテ參リマシテ足ヲ曲ゲ繩ヲ掛ケタ上菰ハ更ニ繩ヲ二卷シテ其ノ夜ノ中ニ病理室床下ヨリ外ニ出シ汚物焼却場附近ノ藁小屋ノ處ニ運ビ隠シテ置キマシタ

ソシテ翌日○兵第○聯隊檢便運搬ノ爲大井勉、橋本誠看護兵以下三名ガ「リヤカー」ヲ引イテ陸軍病院ニ行クノヲ利用シ私モ病院ニ參リマシテ衛生材料ヲ積ム時菰ヲ一緒ニ「リヤカー」ニ積ミ重ネ聯隊休養室ニ運ビソノ夜聯隊南側「からたち」ノ柵近クノ井戸ニ運ビ午後十時頃蓋ヲ開ケ中ニ投込ミマシタ

四、問 足ノ一部ヲ如何ニ處置セルカ

答 前ニ申述ベタ以外身體ノ一部ガナイトスレバ丸メタ着物ニ包マレ一緒ニ焼カレタノデハナイカト思ヒマス

五、問 他人ノ糞死屍體ヲ發見セル時何故其ノ儘放置セズシテ前述ノ如キ處置ヲ爲セルカ

答 前ニ申述ベタ様ニつねハ私ノ關係ヲ結ンダ女デアルシ其ノ上幾度モ「妊娠シタ子供ハ貴男ノ子デアル」ト話サレテ居リマシタノデ其ノ儘放ツテ置ク譯ニハ參リマセンデシタノデ前述ノ

様ニ始末ヲツケタノデアリマス

五、問 昭和十一年五月三十一日午前ハ○衛生課長ニ手紙ヲ出ササルカ

答 前日五月三十日マタ點呼終了後私ハ居室デ内容

「今度ハ御騷セシテ済ミマセンデシタ私ハ今日つね子ト仙臺ヲ出發致シマス皆様ニ御迷惑ヲ才掛ケ致シマシタガ何デモシテ暮スツモリデスヤガテ何年カノ後成功ノ隣ニハ御伺ヒ致シマシテオ詫ビ申上ゲマス家ノ方ニハ手紙ヲ出シマセン  
行先ハ横濱方面デスガ着イタラ直グ御知ラセ致ス積リデス私ノ名前ハ近イ中ニつね子ヨリ分ル事ト存ジマスデハ取急ギ亂筆ニテ失禮致シマス」

ノ手紙ノ原稿ヲ書キ翌五月三十一日朝之ヲ班員ノ小川看護兵ニ渡シ此ノ通り書イテ吳レト頼ミ代筆セシメ月日ハ小川ノ外出時投函スル様頼ンダノデアリマス

此ノ特別紙證第一號ノ手紙ヲ展示セルニ右代筆セシメタル手紙ニ相違ナキ旨申述ベタリ

六、問 つねハ既ニ自殺シアルニ拘ラズ何故斯ル手紙ヲ衛生課長宛發信セルカ

答 後ニナツテ前述シタ様ナコトガ發覺シタ場合手紙ヲ出シテ置ケバ調べノ手ガ私ノ身邊ニハ及ブマイト思ツテ出シマシタ



七、問 他ニ申述ブル事ナキカ

答 別ニ申述ブルコトモ御座イマセンガ私ハ憲兵ノ人ト一緒ニ「ハルビン」カラ内地ニ還送サレ  
ル時出發以來コウナツテハ自殺スル外ハナイト考ヘテ居リマシタカラ進行中ノ列車カラ飛出  
シタノモ實ハ其ノ爲デシタ

陳述人 甲野 一郎 ㊟

右錄取シ讀ミ聞ケタル處相違ナキ旨申立タルニ付署名捺印セシム

昭和十三年



三月四日 仙臺憲兵分隊

陸軍司法警察官陸軍憲兵准尉 乙田 二郎 ㊟

第二十四、對質訊問調書

訊問調書(例)

證人 丙山 三郎  
被疑者 甲野 一郎

被疑者甲野一郎ニ對スル傷害被疑事件ニ付昭和十四年一月二十四日麴町憲兵分隊ニ於テ本職ハ司法警

察吏陸軍憲兵上等兵丁田四郎立會ノ上右證人丙山三郎並被疑者甲野一郎ニ對シ對質訊問ヲ爲スコト左  
ノ如シ

一、證人ニ對シ

問 被疑者甲野一郎ノ犯行現場ヲ目撃シタル顛末如何

答 一月二十二日ノ夜九時頃デアリマス甲野一郎ト私ト被害者巴田十郎ノ三人デ一杯飲マウト云  
フコトニナリ○○區○○町○○丁目○○番地ノ某料亭ニ上リ飲ミ始メマシタ  
大分酒ガ廻ツテ來タノデ御互ニ高イ聲ヲ出シ唄等歌ツタリシテ居リマシタガ甲野一郎ト巴田  
十郎トガ仕事ノ勘定ノコトカラ口論ヲ始メマシタノデ私ガ仲裁シマシタガ二人ガ怎ウシテモ  
言ヒ募リマシテ私ノ言フコトヲ聞キマセンデシタ其ノ内甲野一郎ハ自分ノ前ニ在ツタ「ビー  
ル」壘ヲ取ルヨリ早ク之ヲ右手ニ摺ミイキナリ續ケ様ニ二回巴田十郎ノ頭ヲ毆リマシタ此ノ  
二度目ノ時ニ壘ガ毀レ巴田十郎ハ額ニ大怪我ヲシテシマヒマシタ

二、被疑者ニ對シ

問 證人ハ斯クノ通り陳述シテ居ルガ如何

答 私ト巴田十郎トガ仕事ノ勘定ノ事デ口論ヲ始メタノハ事實デアリマスガ巴田ガ先ニ私ニ毆リ

憲兵捜査書類作成要領附錄



懸ツタノデ私モ已ムヲ得ズ直グ前ノ「チャブ」臺ノ上ニアツタ「ビール」臺デ一、二度彼ヲ  
殴リ返シタ様ニ覺エテ居リマス已田ガ先ニ懸ツテ來ナカツタラ勿論私モ彼ヲ殴ル様ナコトハ  
致シマセン

三、證人ニ對シ

問 今聞ク通り甲野ハ已田ガ先ニ殴リ懸ツテ來タノデ已ムヲ得ズ殴リ返シタト言ウテ居ルガ如何  
答 私ハ現ニアノ場所ニ於テ見テ居リマシタシ又酒ノ爲ニ何モ解ラナクナツタト云フノデハアリ  
マセヌカラ能ク知ツテ居リマス已田ハ甲野ニ頼ヲ殴ラレタ丈デ決シテ手向ハシテ居リマセン  
甲野ガ虚言ヲ言ウテ居ルノデアリマス

此ノ時尙證人ハ被疑者ノ方ニ向ヒ「御前モ何時迄モ虚言ヲ言ハズニ大低ニシテ正直ニ申上ゲタラ  
怎ウカ君モ已田モ僕ノ友人ダカラ何方ノ肩ヲ持ツ譯デハナイ自分トシテハ虚言ハ言ヘナイカラ正  
直ニ申上ゲテ居ルノデ此ノ點君モ了解シテ賞ハナクテハナラヌ」ト語レリ

四、被疑者ニ對シ

問 證人ハ今才前ノ聞ク通り正直ニ申立テテ居ルト云フテ居ルガ如何  
答 誠ニ御手数數ヲ懸ケマシタ實ヲ言フト腹立マギレニ私ガ先ニ手ヲ出シタノニ違ヒアリマセヌ已

田ニ對シテハ大變氣ノ毒ナコトヲ致シタト思ツテ居リマス

證人 丙 山 三 郎  
被疑者 甲 野 一 郎



同日於 總 町 憲 兵 分 隊

立會人 司法警察官陸軍憲兵曹長 乙 田 二 郎  
司法警察吏陸軍憲兵上等兵 丁 田 四 郎

右錄取シ讀聞カセタル處事實相違ナキ旨申立ツルニ付キ署名捺印セシム

第二十五、檢證調書、實況見分書 其ノ一 (放火事件檢證調書)

檢 證 調 書

昭和十一年三月〇〇日午前五時甲縣乙郡丙村字丁一番地丙田三郎方ヨリ放火事件アリタル旨電話届出  
ニ接シタル處本件ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際發覺シタル犯人不詳放火被疑事件ト思料セラレ急速ヲ要  
スルヲ以テ刑事訴訟法第八十條第二項同第二百二十三條第二號ニ則リ司法警察官陸軍憲兵軍曹乙田二

憲兵搜查書類作成要領附錄



郎ハ司法警察吏陸軍憲兵上等兵丁田四郎立會ノ上檢證スルコト左ノ如シ

一、現場ハ甲縣乙郡丙村字丁一番地石工職丙田三郎方居宅裏側石工職場ナリ

二、同家ハ巳市ヨリ庚町ニ通ズル十號國道ノ北側ニ沿ヒ南面シテ建築セラレタル木造瓦葺二階建ニシテ東側ハ花田香方西側ハ内海靜方各居宅ニ相隣接ス間口二間其ノ中ニ一間ノ出入口ヲ設ケ正面ニ二坪ノ土間ヲ作り直ニ座敷ニ上降シ得ル外其ノ座敷ノ東側ニ在ル三尺幅ノ庭廊下二間ヲ經テ裏側石工職場ニ通ズルコトヲ得

三、石工職場ハ結局同家居宅北側空地ニ別棟トシテ築造セラレタル東西二間南北三間ノ木造「トタン」葺平家建ニシテ内部ニ工作中ノ石材、道具類各所ニ點在ス而シテ石工職場北東隅ニ一坪ノ鍛冶鞴アリ其ノ南側一尺ノ箇所ニ「コークス」入吹二個ヲ積ミアリテ上部ノ吹ノ大半ハ燻燒シ居リ更ニ其ノ燻燒表面ニ若干殘燒物タル枯松葉アルヲ認ム

四、立會人タル被害者丙田三郎ハ本日午前四時四十分頃前記吹附近ヨリ火焰ノ揚ルヲ感知シ驚愕シテ馳付ケ履物ニテ直チニ叩キ消シ止メタル旨供述シ燻燒部分殘燒物等ノ狀況ヲ綜合考察シ火力ハ未ダ所謂「獨立燃燒」ノ程度ニ到ラスシテ消滅シタルモノト察スルヲ相當トス

五、其ノ他本件證憑ノ存否ニ付附近一帶ヲ精密ニ探查シタルモ發見セズ

以上檢證ハ午前五時十分ニ開始シ同七時十五分終了ス

尙本檢證ノ結果ヲ一層明瞭ナラシムル爲圖面二葉、寫眞五葉ヲ作成添付ス

昭和十一年三月十一日

乙山 憲兵 分隊

- 司法警察官陸軍憲兵軍曹 乙 田 二 郎 印
- 司法警察吏陸軍憲兵上等兵 丁 田 四 郎 印

其ノ二(殺人、死體遺棄事件檢證調書)

檢 證 調 書

昭和十三年一月二十三日○兵第○聯隊内井戸浚渫中菰包トナシタル女ノ變死體ヲ發見シタル旨電話通報ニ接シ本職ハ現場ニ赴キ聯隊ノ委囑ニヨリ同隊附陸軍軍醫大尉大野光雄立會ノ上檢證ヲ爲スコト左ノ如シ

一、屍體發見ノ場所ハ○兵第○聯隊構内炊事雜用浴場用給水井戸ニシテ聯隊南側外柵(からたちノ生籬)ヨリ内方約十七米ノ地點ニアリ井戸側ノ高サ○、六七米直徑二、一七米深サ一二米水深約七

憲兵搜查書類作成要領附錄



米ニシテ木製蓋アルモ施錠シアラズ附近ハ營内狹窄射撃場及障礙物場ニシテ井戸東側七、一五米離レテ揚水機關庫アリ北方約五三米距テ薪炭車木工場、西方五〇米ニシテ瓦斯庫アリ生籬ノ高さ八一、七〇米ニシテ高サ〇、七六米ノ土堤ノ上ニアリ「からたち」ノ根本ノ疎ナル部分ニハ十四番鐵線及有刺鐵線ヲ張りアルモ所々ニ出入シ得ル箇所アリ

生籬ヨリ二乃至三米ニシテ民家ニ接シ更ニ約一七米ニシテ宮城電鐵線路アリ（別紙要圖並寫眞）

二、屍體ハ一見人ノ屍體ナルガ判別シ難キ迄ニ屍蠟化シアリ兩足ハ鼠蹊部ヨリ大腿部以下ヲ腹部ニ接シテ折曲ゲ菰包ト爲シ藁繩ニテ之ヲ緊縛シアルガ頭部並兩上肢兩下肢共脱落シ右下肢菰包中ニアリタルモ其ノ他ハ井戸中ニ沈ミアルモノト認メ該井戸ノ淺濊ヲ爲シタル處鎖骨一、肋骨二個ヲ檢出シタル外發見スルヲ得ズ脂肪ノ大部ハ屍蠟化シ着衣亦腐敗シテ全ク識別スルヲ得ズ腰ヨリ下部ノ兩肢ヲ腹部ヨリ引離シ下腹部ヲ檢スルニ中ヨリ妊娠六、七ヶ月以上ト認メラル胎兒ノ頭蓋骨、四肢及肋骨等現ハレタルヲ以テ女性ナルコト判定シ得タルモ年齢等全ク判定シ得ズ死後概ネ六ヶ月以上ヲ經過セルモノト認メラル

三、投入屍體ノ殺害方法ノ創傷部位、形狀、兇器ノ種類、死因、死後ノ經過等全然不明ナルモ屍體ノ狀態ヨリシテ殺害屍體ヲ或ル地點ヨリ運搬構内ニ搬入シ該井戸ニ投入シタルモノナルガ判定困難

ナリ

四、屍體ヲ包ミアリタル菰、索繩、背負繩ハ別紙目錄ノ如ク證據物トシテ押收ス

五、屍體ヲ發見シタルハ一月二十三日午後二時頃井戸淺濊ヲ實施スヘク仙臺市〇〇番町四九番地職高村晋次郎（當四十六年）ガ井戸蓋ヲ取除キタル處該井戸中ニ菰包様ノ物アルヲ認メ人夫及兵員ノ助力ヲ得テ引上ゲタルニ腐爛シタル屍體ナルヲ以テ直ニ聯隊本部ニ届出同隊ヨリ憲兵ニ通報セルモノナリ

六、此ノ檢證ハ昭和十三年一月二十三日午後三時五十分ニ始マリ屍體脱落部分發見ノ爲井戸淺濊ヲ續行シ二月二日午後四時ニ至リ終了ス

七、本檢證ノ結果ヲ明瞭ナラシムル爲要圖三葉、寫眞八葉ヲ本調書ノ末尾ニ添付ス

昭和十三年二月二日

於仙臺〇兵第〇聯隊屍體現場

仙臺憲兵分隊

陸軍司法警察官陸軍憲兵曹長 乙 田 二郎



其三(業務上過失致死(自動車)事件實況見分書)

### 實況見分書

被告人甲野一郎ニ對スル業務上過失致死被告事件捜査上必要ニ付キ昭和十四年十月八日陸軍司法警察官陸軍憲兵曹長乙田二郎ハ被告人甲野一郎立會ノ上犯罪現場ニ臨ミ實況見分スルコト左ノ如シ

#### 一、見分ノ場所

東京府南多摩郡原町田町西北端ナル同町森野一三九九番地先犯罪現場及附近一帯

#### 二、現場並其ノ附近一般ノ狀況

現場ハ原町田町西北端横濱——八王子街道上小田原急行電車踏切ノ西北約七百米ノ地點ナリ而シテ道路ノ幅員ハ一〇米ニシテ其ノ兩側ニ二〇、四米ノ側溝ヲ有ス現場ノ兩側ハ畑地ニシテ東北側ニ於テ二軒西北側ニ於テ一軒ノ民家點在シアル外人家ナシ

現場附近ハ砂礫ヲ敷キ勾配ナク路面ハ乾燥シアリテ自動車ノ疾走毎ニ黄塵ヲ捲キ上グ試ニ佇立シテ同所ニ於ケル交通量ヲ概觀スルニ車馬ノ往來閑散ニシテ概ネ四、五分間エ一臺ノ自動車ノ通行ヲ見其ノ間少數ノ徒歩者自轉車ノ通行者ヲ見ル程度ナリ

#### 三、現場ノ模様

現場ヲ見分スルニ第二要圖(2)點電柱ヨリ五、六米道路東北縁ヨリ一米(ロ)點ノ位置ニ徑〇、一二米血液ノ滯留セルモノアリ

更ニ(五)點ヲ終點トシテ略北方ヨリ南方ニ走レル二條ノ並行セル自動車車輪ノ「スリップ」ノ痕跡印セラレアルヲ認メタルヲ以テ其ノ各地點ヲ測定セルニ「スリップ」ノ終點ハ(3)點電柱(審視四〇四)ノ北方三米ナリ而シテ其ノ長サハ左右共略等長ニシテ(五)點ヨリ五米兩「スリップ」痕ノ間隔ハ一、五米ナリ

依テ被告ノ操縦シアリタル自動車ヲ現場ニ運搬セシメ事故發生直後停止セル位置ニ當時ノ態様ヲ取ラシメタルニ後部車輪ヲ「スリップ」ノ終點ニ置キ(五)點ノ位置ヲ占メタリ茲ニ於テ該自動車ヲ檢スルニ三五年型「フォード」七人乗乗用車ニシテ後部ニ<sup>標本</sup>3ノ標式ヲ前部ニ星章ヲ附シ搭乘者ナク運轉手席ハ右側ニアリ被告ヲ運轉手席ニ座セシメ路面ヨリ目ノ高サヲ測定セルニ一、四〇米アリ車體、聲音機等異狀ヲ認メズ制動機ノ機能亦良好ナリ車體ノ幅員ハ最長部ニ於テ一、八〇米長サ四、五〇米「バンバー」正面左側ニ少量ノ血液附着セルヲ認ム

#### 四、事故發生當時ノ模様

憲兵捜査書類作成要領附錄



本見分ノ結果ヲ明確ナラシムル爲被告甲野一郎ヲシテ現場ニ於テ當時ノ狀況ニ就キ指示説明セシメタルニ同人ハ依命本日午前八時二十分頃三五年型「フォード」七人乗技本第三號ヲ運轉淵野邊陸軍兵器製造所ヨリ陸軍省ニ至ルベク八王子——横濱道ノ左側ヲ三十五籽位ノ速度ヲ以テ進行中原町田町西北端ニ入りタルヲ以テ第二要圖(一)點ニ於テ時速三十五籽位ニ減速シタル時進路ノ前方(イ)點ヨリ七八歳位ノ小兒三、四人ガ南方三樹<sup>ヤカサ</sup>式男方ニ道路ヲ横切り更ニ(二)點ニ於テ(イ)點ニ年齢四、五歳ノ小兒佇立シ北方大澤保生方方向ヲ眺メ居ルヲ認メタルガ以前道路ヲ横斷セル小兒等ニ續行スル模様ナキヲ以テ其ノ儘自己ノ自動車ノ通過スル迄歩行スルコトナカラント輕信シ速力ヲ減殺セズ且警笛ヲ吹鳴スルコトナク疾走シ概ネ(三)點即チ被害者ノ西北方四、五米ノ地點ニ至リタル際該佇立シ居タル小兒ガ遽カニ自動車ノ進路内ニ走り出シタルヲ認メタルヲ以テ吃驚シテ直ニ轉把ヲ右ニ切り「フートブレーキ」ヲ踏ミタルモ及バズ遂ニ(四)點ニ於テ前方「バンパー」左方ニテ小兒ノ頸部邊へ激突シ之ヲ(ロ)點ニ投出シ(五)點ニ於テ停車セリ此ノ時被害者ハ既ニ意識ヲ失ヒ道路上頭部ヲ南方ニ足部ヲ北方ニ置キ其ノ先ハ溝ノ中ニ出デ且頭部、頸部ヨリ出血シタルヲ見タリ依テ直ニ之ヲ抱へ起シ自己ノ車ニテ原町田醫院ニ運ビ込ミ應急手當ヲ受ケタルモ遂ニ死亡セリト云フ

依テ右被告ノ指示説明セル處ニ基キ各地點ヲ確定シ不動目標(1)電柱(2)電柱(3)電柱(警視四〇四號)ヲ基準トシテ各其ノ相互間ノ距離ヲ測定セルニ各位置ニ於ケル自動車ノ距離

- (一)——(二)間ハ一五、〇米
- (二)——(三)間ハ二二、〇米
- (三)——(四)間ハ七、〇米
- (四)——(五)間ハ一七、〇米

ナリ而シテ(1)電柱ヨリ自動車ノ各位置等ニ至ル距離ハ

- (1)——(一)間ハ一一、〇米
- (1)——(二)間ハ五、〇米
- (1)——(三)間ハ二二、五米
- (1)——(イ)間ハ二六、〇米

ナリ又被害者ノ佇立シ居リシ(イ)點ヨリ(三)——(四)間ノ距離ハ

- (イ)——(三)間ハ四—五米
- (イ)——(四)間ハ五、〇米

憲兵捜査書類作成要領附錄



(ロ)——(四)間八五、一〇米  
ナリ又(2)電柱ヨリ各地點トノ距離ハ

(2)——(三)間八一七、八〇米

(2)——(四)間八一〇、六五米

(2)——(五)間ハ 八、六〇米

ナリ更ニ(3)電柱(警視四〇四號)ヨリ各地點トノ距離ハ

(3)——(三)間八二三、三〇米

(3)——(四)間八一七、〇〇米

(3)——(ロ)間八一三、八〇米

(3)——(五)間ハ 三、〇〇米

ナリ

茲ニ於テ被告ヲシテ該自動車ヲ運轉セシメ本職之ニ乗車シ三十五軒ノ速力ヲ以テ八王子——横濱道ヲ西北方ヨリ原町田町ニ向ヒ進行シ先ツ(1)點ニ於テ三十軒ニ減速シ續テ(三)點ニ於テ急停車ヲ命ジタルニ(五)點ニ於テ停止セリ

五、被害ノ狀況

本件被害者ハ原町田醫院ニ於テ加療手當中死亡セルモ現場ニ居ラサルヲ以テ其ノ狀況ヲ明ニスルヲ得ズ

六、證據物件

血液ノ附着セル三五年型「フォード」七人乗技本第三號自動車一臺ヲ假領置セリ  
七、天候關係

本見分當時ハ雨雲低ク垂レ曇天ナリ

八、見透狀況

現場ハ平坦直線而シテ曇天ナルモ見透良好ナリ

九、過失ノ認定

本件事故ハ時速三十軒ヲ以テ道路左側ヲ疾走中其ノ前方四〇米ノ地點ニ二、三人ノ小兒進路ヲ横斷スルヲ認め更ニ一五米疾走セル地點ニ於テ四、五歳ノ小兒一名佇立セルヲ認メタルモノナルガ斯ル場合自動車運轉ノ業務ニ從フ者ハ佇立シ居リタル兒童ガ先ニ進路ヲ横斷セル小兒ノ一群中ノ者ナルトキハ先行者ニ倣ヒ道路ヲ横斷スルコトアルヘキヲ考慮シ又一群中ノ者ニアラズトスルモ小兒ハ何時自動車ノ前進路ヲ横斷セントスルヤモ圖ラレザルヲ以テ能ク佇立中ノ小兒ノ態度、姿勢等ヲ注視シ何時ニテモ即時之ガ停車ヲ爲シ又ハ避讓シ得ル如ク速力ヲ減ジ且警笛ヲ吹鳴スル等

憲兵捜査書類作成要領附錄

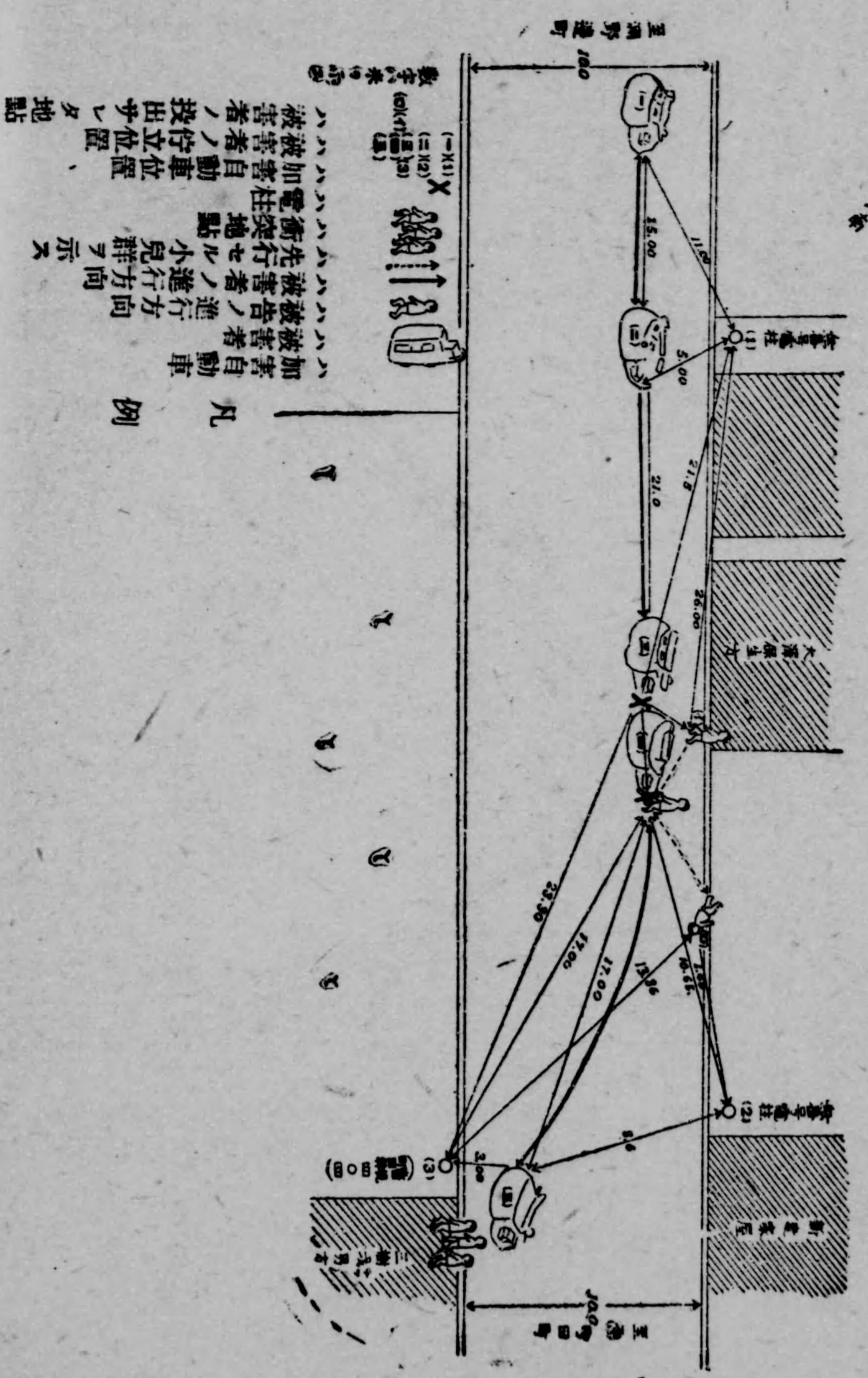






第二圖

況狀生發(郎一野甲者害加)故事通交



第一寫真 現場大觀寫真(西北方ヨリ東南方ヲ望ム)



自動車ノ位置ハ最後ニ停車セル地點

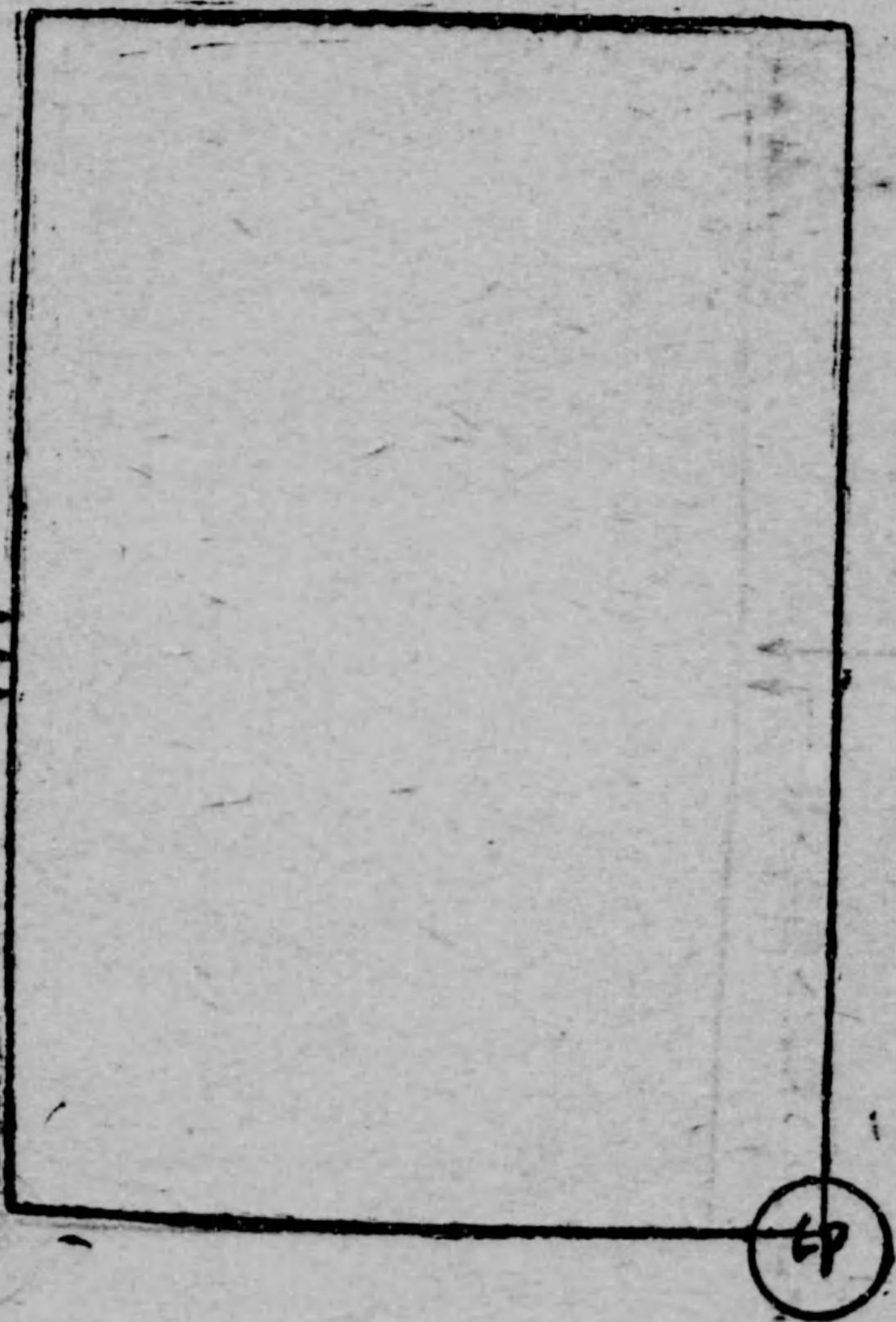
此ノ白線ノ位置ハ三、四人ノ小兒ヲ認メタル地點

被告ヲ小兒ノ佇立シ居タル位置ニ立タシメタルモノナリ  
 其ノ右方ノ白線ハ減速避讓ノ措置ヲ講ジタル地點ナリ  
 被告ノ前側ニアル白圓ハ被害者ノ投出サレタル地點ナリ

憲兵捜査書類作成要領附録

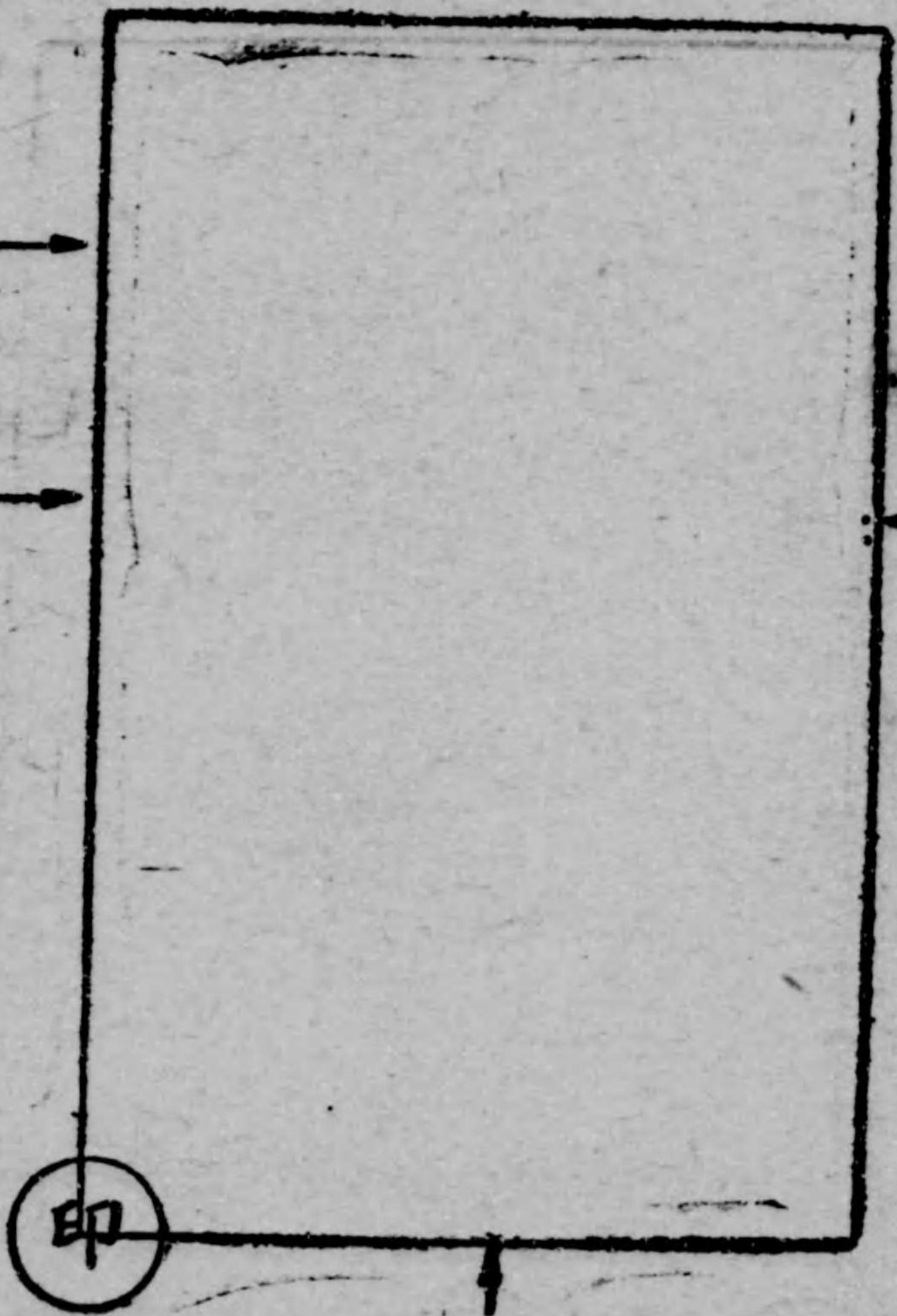


第二寫眞 現場大觀寫眞 (第一寫眞ト反對方向即東南方ヨリ西北ヲ望ム)



自動車ノ位置ハ最後ノ停車地點ナリ  
 此ノ家屋ハ三樹式男方ナリ  
 此ノ電柱ハ第二要圖 (3) (警視四〇四號) ナリ

第三寫眞 現場局部寫眞 (減速避讓ノ措置ヲ講ゼル第二要圖 (三) 點ヨリ東南方ヲ望ム)



自動車ノ後部ニ示セル二ノ白線ハ「スリップ」ノ痕ナリ

此ノX白線ハ衝突地點ナリ

此ノ白線ハハ被害者ノ投出サレタル地點ナリ

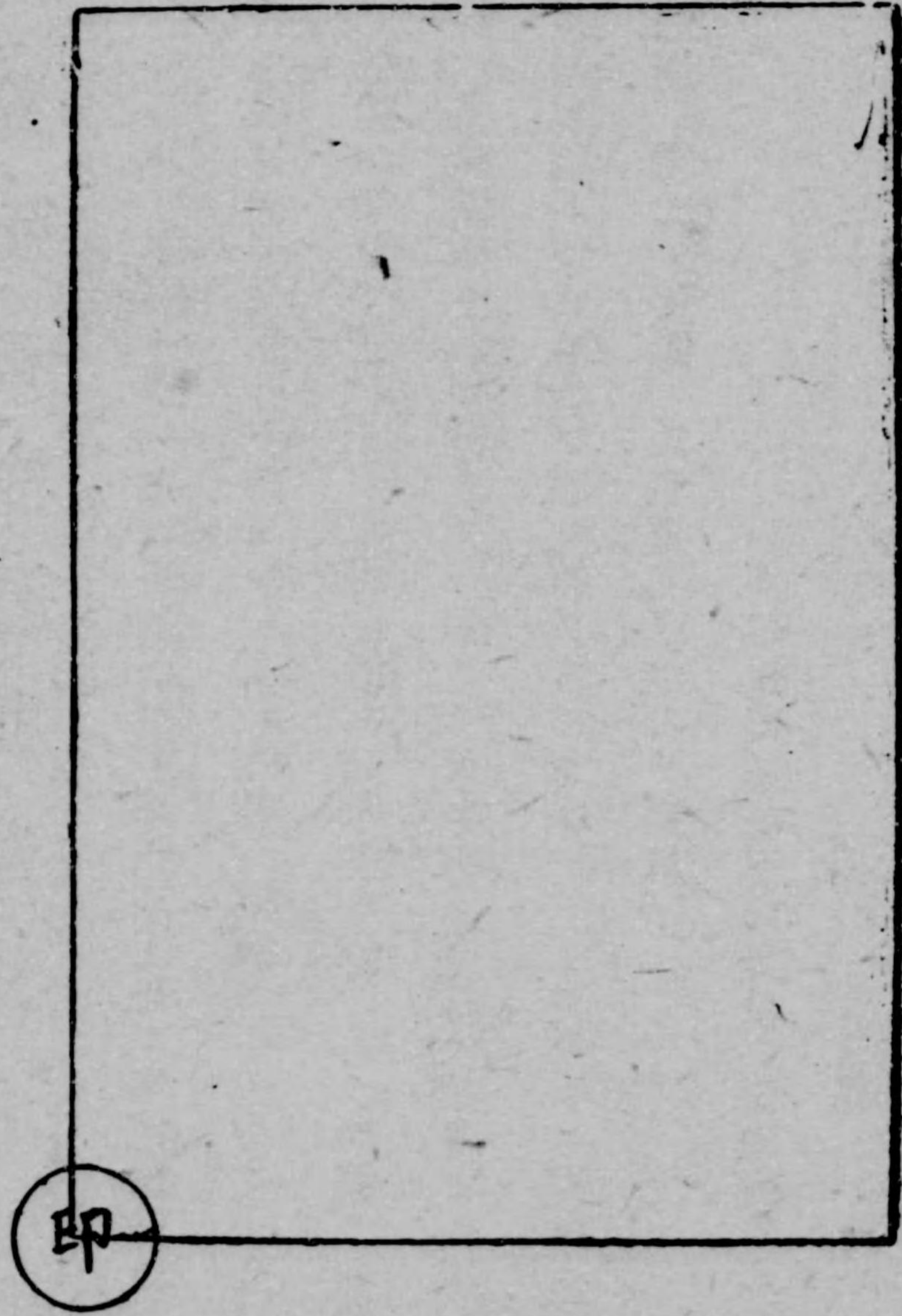
此ノ電柱ハ第二要圖 (2) ナリ

憲兵捜査書類作成要領附錄



印

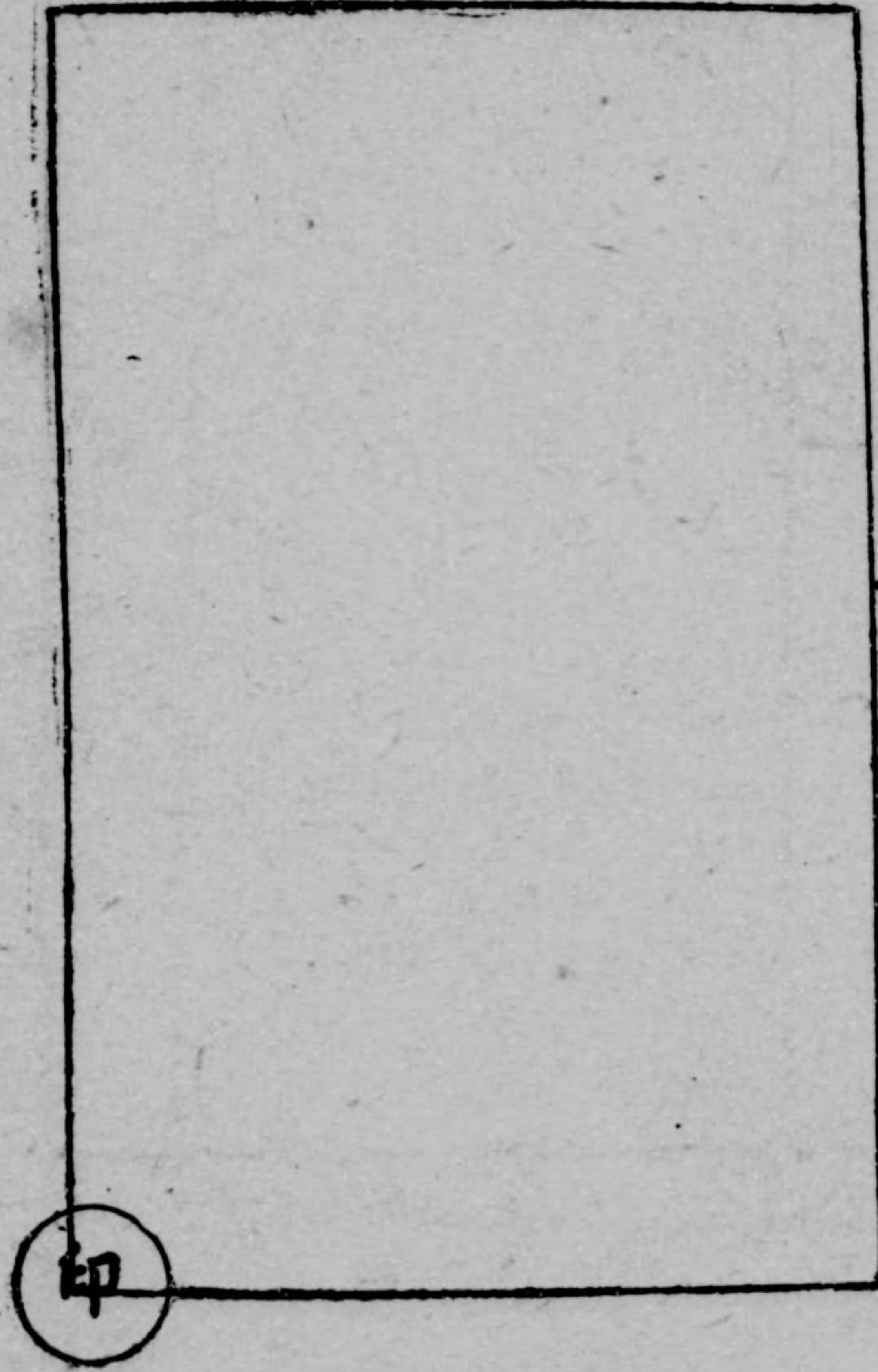
第五寫眞 加害自動車前部ヲ示ス (東南方ヨリ西北方ヲ望ム)



憲兵捜査書類作成要領附録

印

四寫眞 加害自動車後部ヲ示ス (西北方ヨリ東南方ヲ望ム)



此ノ家屋ハ三樹式男方ナリ



第二十六、檢視調書 其一 變死者檢視調書 (行政檢視)

變死者檢視調書

昭和六年五月一日福井日報第三面「物理學校學生?制服制帽姿ノ遺死體發見、身元一切判明セズ死體ハ假葬、松原公園松林中デ發見」ト題セル記事ノ内容ハ昭和六年四月二十九日、鯖江憲兵分隊長ヨリ離隊兵トシテ所在搜索方電話手配アリシ甲野一郎ニ該當スル點アリシヲ以テ檢視官署タル敦賀警察署ニ照會セル處人相、特徴匹敵シ且甲野ナル印鑑ヲ所持セル旨回答ニ接シタルヲ以テ假埋葬地タル福井縣敦賀郡松原村共同墓地ニ臨ミ檢視ヲ爲スコト左ノ如シ

一、發見者ノ住居、職業、年齢、氏名及其ノ申告ノ要旨

福井縣敦賀郡松原村松島百拾番號五十七番地 農漁業 熊谷千代松

當三十五年

昭和六年四月三十日午前五時三十分頃松原海岸花城ニ於ケル漁區ヨリ歸宅途中松原公園ニ差シ掛リタル際海岸松ノ木ニ學生服ヲ着用セル年齢二十二、三歳ノ青年遺死體懸垂シアルヲ發見セルヲ以テ直ニ

松原巡查駐在所ニ届出デタルモノナリ

一、變死人ノ所屬、官等級、氏名、年齢

鯖江陸軍衛戍病院

陸軍二等看護卒 甲野一郎

當二十二年

一、變死ノ場所及其ノ模様

前記申告ニ基キ熊谷千代松ヲシテ變死ノ場所ヲ指示セシメタルニ現場ハ福井縣敦賀町ノ西ニ隣接セル同郡松島村松原公園百三十號番地籍松島公園内海岸波打際ヨリ約四十七米南方ノ個所ニシテ徑三十二纏高サ約七米ノ松樹ヲ示セリ依テ之ヲ檢スルニ同松樹上地上ヨリ二、九〇米ノ個所ニ於テ殆ンド水平ニ北方ニ延ビタル一枝アリ其ノ枝上幹トノ分岐點ヨリ〇、五七米ノ部ニ樹幹ヲ繞リテ樹皮ノ剝脱明瞭ニ認メラル (別添寫眞参照)

而シテ同所ハ附近一帶白砂青松ニシテ松樹ノ高サハ七、八米アリ東ハ約三百米ニシテ松原村部落ニ接シ西ハ約百米ニシテ楠川ノ高地ニ接ス南ハ約三百米ニシテ楠川ニシテ北ハ敦賀灣ヲ隔テ遙ニ常宮神社ノ山々ヲ望ム



一、死體發見ノ年月日時

昭和六年四月三十日午前五時三十分頃

一、死體發見ノ場所及其ノ模様

醫師谷澤周吉作成死體檢案書ノ通り

一、死體現在ノ場所及其ノ模様

死體ハ既ニ福井縣敦賀郡松原村來迎寺共同墓地南端ニ假埋葬シアリテ東ハ約二百米ニシテ松原村部落ニ接ス西ハ水田ニシテ約六百米ニシテ櫛川部落ノ高地ニ接ス南ハ一面ノ水田ナリ北ハ約二百米ニシテ松原公園ニ至ル

一、死體ノ狀態及死亡ノ原因

死體ハ前記共同墓地ニ假埋葬ニ附セラレアリシヲ以テ之ヲ發掘、死體ヲ收容セル丸型棺桶ヲ引上ガ蓋ヲ脱シテ檢スルニ死體ハ露踞位ヲ呈シ頭部ヲ下ニ打向ケ上肢ヲ曲ゲテ腹部前ニ置キ下肢ハ曲ゲテ棺桶中ニ在リテ前頸部甲状軟骨ノ上部ニ於テ頸圍ヲ周匝セル明瞭ナル索溝アリ該索溝ハ左右顎隅角ヲ過ギ乳嘴突起ノ後方ヲ後頭結節上方ニ向ヒ斜ニ上走シ左右共毛際部ニ於テ殆ンド消滅ス索溝ノ皮膚ハ稍々暗褐色ヲ呈シ幅約三繩牽紐ニシテ甲状軟骨上部ニ於テ表皮剝奪シ僅カニ淡紅色

ヲ示ス更ニ死體ヲ取出シ地上ニ仰臥セシメ檢スルニ鼻腔中ニ鼻汁液ヲ附シ肛門打開少量ノ糞便ヲ認ム全身ニハ外傷ト認ムルモノナク盜死シタルモノト認ム

一、着衣及所持ノ金品

第三裝多襦袢袴下各壹着「メリヤス」猿又壹枚

一、檢案醫師ノ氏名及檢案ノ要領

敦賀陸軍衛戍病院院長陸軍一等軍醫正神戸隆一別紙檢案書ノ如ク檢案ス

一、檢視官ノ認定意見

死體ニ於ケル盜死特有ノ索溝、發見現場視察ノ結果ヲ綜合シ遺書ノ示スガ如キ意味ニ於テ自殺ヲ遂ゲタルモノト認ム

一、死體並所持金品ノ始末

別紙領收書ノ如ク鯖江陸軍戍病院陸軍一等看護長村田與一郎ニ引渡セリ

一、立會人ノ住居、職業、氏名、年齢

鯖江陸軍衛戍病院

陸軍一等看護長 村田與一郎

當二十九年



福井縣今立郡中河村字中野六十號七番地

農業 山田 彌太郎

當五十二年

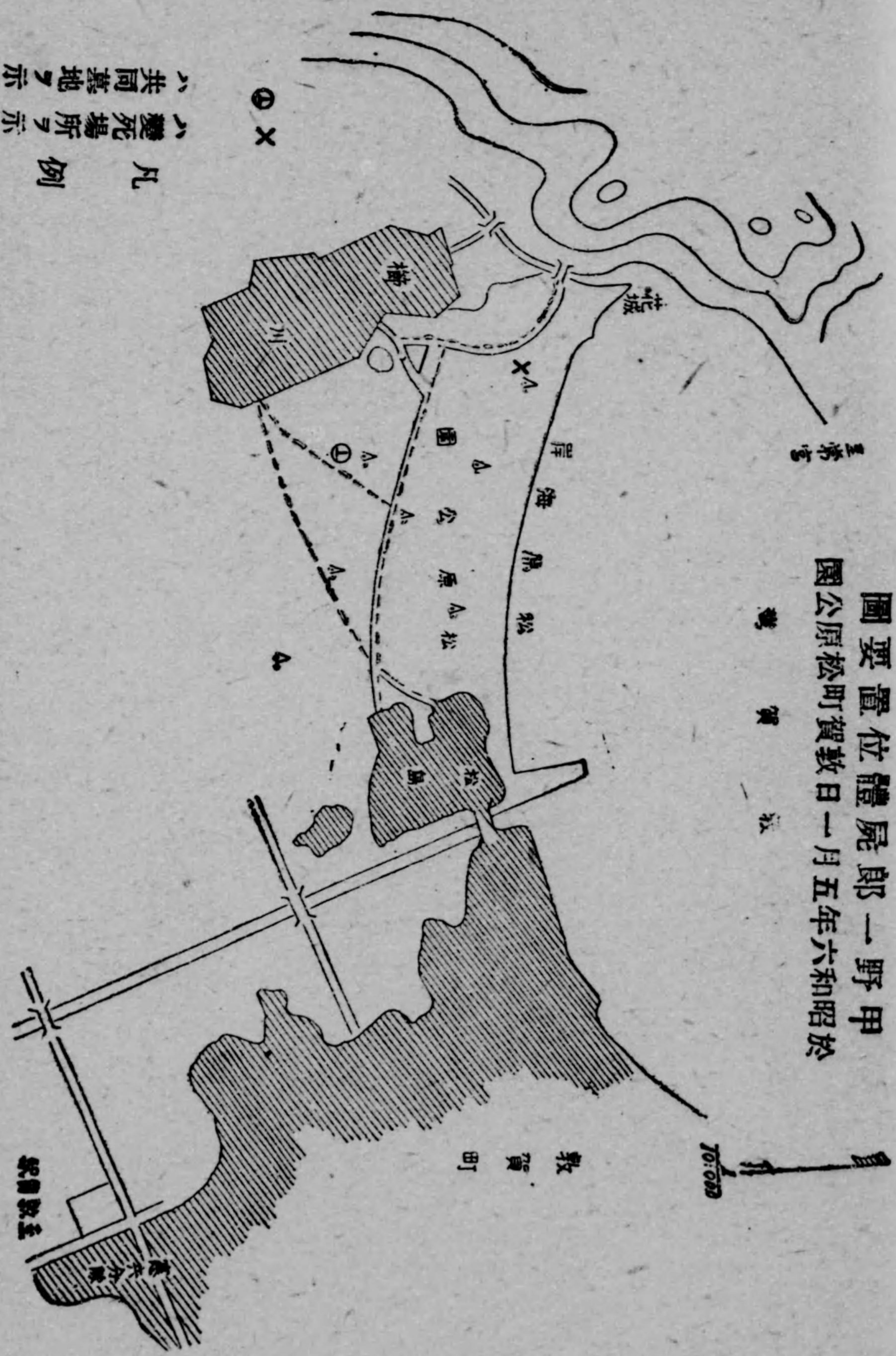
此ノ檢視ハ昭和六年五月一日午後三時ニ開始シ同午後三時五十分終了ス

昭和六年五月一日

救 護 憲 兵 分 隊

陸軍司法警察官陸軍憲兵大尉 大阪 正

圖 要 置 位 體 屍 郎 一 野 甲  
園 公 原 松 町 賀 敷 日 一 月 五 年 六 和 昭 於



凡 例

◎ 變死場所ヲ示ス  
X 共同基地ヲ示ス

憲兵捜査書類作成要領附録



其ノ二、殺人事件檢視檢證調書（司法檢視）

### 檢視檢證調書

三〇六

昭和十四年七月十二日軍用地甲縣乙郡丙町一番地先蛇ノ池ニ氏名不詳男子ノ變死體アル旨ノ届出ニ據リ現場ニ至リ醫師何某ト共ニ檢視スルコト左ノ如シ

一、發見人ノ住居、職業、氏名、年齢

甲縣乙郡丙町百番地

農業丁 田 四 郎

三十五歳

二、變死屍體ノ存スル場所及其ノ模様

場所ハ前記丙町一番地先ノ縣道東西街道ヨリ北約百米ノ軍用地原野中ニアル蛇ノ池中ニシテ同所ハ別紙第一要圖ニ示スガ如ク其ノ附近ニハ人家ナク最モ近接セル甲田一郎方ヘモ約二百米ノ距離アリ池ノ周圍及其ノ附近ニハ高サ五、六十種ノ雜草繁茂シ右東西街道ヨリ此ノ池ニハ殆ンド到ル所通行スルコトヲ得池ハ東西約十米南北約六米位楕圓形ヲ爲シ其ノ中心部ニテ水深一米二十種内

外摺鉢ノ底ノ如ク漸次深クナリ周邊ニ於テハ漸ク十種ニ過ギズ故ニ水面ト周圍ノ地面トハ甚シキ高低ナク僅ニ東北側ニ二米餘ノ間十五種乃至三十種餘ノ差アル部分アルノミナリ

三、死體ノ狀況

死體ハ右蛇ノ池ノ西南側ノ水際ヨリ約一米ヲ距テタル水深六十種位ノ位置ニ仰向トナリ別紙第二要圖記載ノ如キ姿態ニテ浮ビ居レリ之ヲ第一要圖ノ（イ）點ニ引揚ゲ檢スルニ「メリヤス」製ノ猿股ヲ穿テタル外何等著衣ナキ裸體ニシテ頭髮ヲ五分刈トセル一見二十二、三歳ノ男性ナリ頸部ヲ古キ手拭様ノ布ヲ以テ巻キ其ノ兩端ヲ堅ク結びアリ其ノ狀況及水深ノ關係ヨリ觀察スルニ絞殺後池中ニ投込マレタルモノナルコトヲ推知セラレタルヲ以テ檢視ヲ止メ

甲地方裁判所檢事正ニ報告シ其ノ指揮ヲ受ケ且急速ヲ要スルモノト認メ司法警察吏陸軍憲兵上等兵丁田四郎立會ノ上引續キ檢證ヲ爲スコト左ノ如シ

二、死體ハ恰モ兩手ヲ垂直ニ下ゲ直立シタルトキノ如キ姿勢ヲ爲シ死後ノ強直既ニ解消シ皮膚紫暗色ヲ帯ビ惡臭ヲ發シ全身膨滿シ容貌等詳ナラザルモ頭髮齒列等ヨリ壯年ノ男子タルコトハ推測セラレ其ノ特徴トシテハ下前齒ト其ノ右ノ第三齒トノ間ニ銀色ノ金屬製義齒ヲ嵌メ右腕ノ外側ニ拾鏡白銅貨大ノ腫物様ノモノアリ眼球ハ稍凸出シ口ヲ微ニ開キ且舌端ヲ齒列ノ外ニ出シ左右ノ拳ハ輕

憲兵搜查書類作成要領附錄

三〇七



ク握レルガ如キ形ヲ爲セリ頭頂部ニ於テモ髮ノ鶏卵大脱毛セル部分アリ想フニ腐敗ノ結果自然脱落シタルモノノ如シ

二、頸部ニ手拭様ノ布ヲ一重卷キ其ノ結節ハ前頸部ノ中央ヨリ約三纏右側ニアリコマ結ビト爲シアリ其ノ状態ハ憲兵伍長巳田六郎ヲシテ之ヲ寫眞ニ撮影セシメタリ

三、右頸部ニ卷付ケタル布ヲ解キ之ヲ檢スルニ布ハ古キ手拭ニシテ其ノ一端ニ水色ノ二線ヲ引キ二線ノ間ニ茶褐色ニテ「何々商某商店」ト染出シアリ本件證據品トシテ別紙押收目錄ノ通之ヲ押收シタリ

四、右手拭ヲ以テ纏結シアリシ部分ノ頸部ニハ顯著ナル索溝ヲ存セリ其ノ他身體ノ各部ニハ皮膚剝奪セル部分背部臀部ニ數ヶ所アルモ右ハ孰レモ腐敗ニ因ル損傷ト認メラレ他ニ外傷ノ認ムヘキモノナシ

五、於茲同行セル前記醫師乙田二郎ニ對シ本死體ニ就キ

- 1、性別並推定年齢
- 2、創傷ノ有無有リトセハ其ノ部位、形狀及程度
- 3、死因

4、自他殺ノ別、他殺ナリトセバ其ノ方法

5、死後ノ經過時間

ノ鑑定ヲ囑託シ且鑑定上必要ノ場合ニハ死體ノ解剖ヲ爲スコトヲ許シタリ

六、右池ヲ中心トシ其ノ附近ニ亘リ犯罪ノ痕跡證據物件ノ有無ニ付搜索シタルモ何等其ノ資料トナルヘキ事物ヲ發見セズ

以上ノ檢視檢證ハ本日午前十時ニ始メ午後三時三十分終了シ即時現場ニ於テ此ノ調書ヲ作成シ立會人ト共ニ署名捺印セリ

昭和十四年七月十二日

甲 憲兵分隊

司法警察官陸軍憲兵曹長 大 阪 正 印

立會人 司法警察吏陸軍憲兵上等兵 丁 田 四 郎 印



第二十七、死體検査書

死體検査書

一、氏名

甲野一郎

二、男女ノ別

男性

三、出生ノ年月日

明治四十三年二月二十五日生

四、職業

鯖江衛戍病院陸軍二等看護卒

五、病死、自殺其他ノ變死、中毒ノ別 自殺

六、病名 盜死

七、死亡ノ年月日時 推定 昭和六年四月二十九日午後十一時頃

八、死亡ノ場所 福井縣敦賀郡松原村松原公園第三百三十號一番地地籍

右検査候也

昭和六年五月一日

敦賀衛戍病院院長陸軍二等軍醫正 村山次郎

第二十八、死體検査報告書

死體検査報告書

鯖江衛戍病院

陸軍二等看護卒 甲野一郎

右變死事件ニ就キ敦賀憲兵分隊長陸軍憲兵大尉大阪正立會ノ上昭和六年五月一日福井縣敦賀郡松原村來迎寺墓地ニ於テ死體ヲ検査セル所見左記ノ如シ

左記

一、検査年月日時

昭和六年五月一日午後三時着手同三時三十分終了

一、死體ノ所在

死體ハ前記墓地ニ假埋葬ニ附セラレアリテ之ヲ發掘丸型棺桶ヲ引出シ蓋ヲ脱スルニ躊躇位ヲ取り上下肢ヲ曲ゲ棺中ニ在リ即チ之ヲ取出シ検査ス

一、死體ノ状況

憲兵捜査書類作成要領附錄



地上ニ仰臥セシムルニ體格營養共ニ良好ナル男性死體ニシテ死後強直ハ既ニ大部分解ケ各關節ハ自由ニ屈伸シ各部ニ點々紫藍色斑ヲ呈シ死後凡ソ四十時間以上ヲ經過セルモノト認ム

一、頭部及顔面

頭部異狀ナク兩眼瞼裂ハ僅ニ開キ眼球ヲ望見ス右上眼瞼ニ瘰癧ヲ認メ鼻腔口ニハ少量ノ鼻汁ヲ附ス口ハ僅ニ哆開ス

一、頸部

前頸部甲狀軟骨ノ上部ニ於テ頸圍ヲ周匝スル索溝ハ左右下頸隅角ヲ過キ乳嚢突起ノ後方ヲ後頭結節上方ニ向ヒ斜ニ上走シ左右共毛際部ニ於テ殆ンド消失ス索溝ノ皮膚ハ稍褐色ヲ呈シ巾約三纏溝緣ニ於テモ線狀ニ淡紅色ヲ呈シ尙前頸部ヨリ右側頸部ニ互リ甲狀軟骨ノ高サニ於テ水平ニ斷續セル帶狀紅斑ヲ認ム

一、胸背部竝ニ腹部

棺中ニ於テ壓迫ヲ被レル部ハ點々紫藍色ヲ呈シ肛門哆開シ少量ノ軟便ヲ附着ス陰莖異常ナク精液漏出ノ徵ハ明瞭ナラス

一、四肢

上下肢ニ紫藍色斑ヲ認ムル外異常ナシ

一、死體發見現場ノ視察

昭和六年五月一日午前十時四十分敦賀憲兵分隊長陸軍憲兵大尉大阪正死體發見者敦賀郡松原村熊谷千代松立會ノ上敦賀郡松原村松原公園百三十號壹番地地籍死體發見現場ヲ視ルニ同地籍海岸ヲ距ル約四七・五米ニ一松樹アリ地上ヨリ二・九〇米ノ高サニテ北方ニ殆ンド水平ニ延ビタル樹枝ハ分歧點ヨリ〇・五七米ノ部ニ於テ樹枝ヲ周リテ樹皮ノ剝離ヲ明瞭ニ認メ得尙松原村役場ニ保管ノ帶革ハ相當使用セル古品ニシテ巾ニ纏長サ一・一〇米ヲ有シ一部ハ環狀ニ捻轉ス

斷案

以上死體ノ頸部ニ視ル特有ノ索溝外表所見竝ニ發見現場視察ノ結果ヲ綜合シ死者ハ自企縊死セルモノト認ム

昭和六年五月一日

敦賀衛戍病院長

田川

清

一

第二十九、鑑定人訊問調書

鑑定人訊問調書

憲兵捜査書類作成要領附錄



鑑定人 陸軍軍醫少佐 大野 光雄

陸軍歩兵一等兵甲野一郎ニ對スル殺人被告事件ニ付昭和十四年十二月十日歩兵第何聯隊酒保ニ於テ本職ハ右鑑定人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一、問 氏名、年齢、所屬、官等如何

答 氏名ハ大野光雄

年齢ハ當四十年

所屬ハ何陸軍病院

官等ハ陸軍軍醫少佐

本職ハ陸軍軍法會議法第二百三十六條第一項ノ規定ニ該當スルモノナルヤ否ヲ訊ネ之ニ該當セサルコトヲ認メ殺人被告事件ニ關シ

一、死體ノ創傷ノ部位、形狀、大小深淺

二、兇器ノ種類

三、死亡ノ原因

四、死後ノ經過時間

ニ付鑑定ヲ爲シ其ノ結果ハ鑑定書ヲ作成シ提出スヘキ旨命シタルニ

答 承知シマシタ

大野 光雄 印

右讀聞カセタル處相違ナキ旨申立テ署名捺印セリ

昭和十四年十二月十日

何憲兵分隊  
陸軍司法警察官陸軍憲兵少佐 大 阪 正 印

第三十、引 取 證 (領收證)

引 取 證

所屬 鯖江衛戍病院

陸軍二等看護卒 甲 野 一 郎

當二十二年

右ノ者ニ關スル福井縣敦賀郡松原村來迎寺共同墓地ニ假埋葬中ノ屍體檢視終了ノ上同屍體及左記携帶

憲兵捜査書類作成要領附錄



品共御引渡相成リ正ニ受取候也

昭和六年五月一日

鯖江衛戍病院

陸軍一等看護長 村田與一郎 印

左記

- 一、「レインコート」 壹 着
- 一、學生帽（物理學校制帽） 壹 着
- 一、編上靴（黒） 壹 足
- 一、風呂敷（友禪） 壹 枚
- 一、學生服（衣袴）物理學校制服） 壹 着
- 一、猿 又（メリヤス） 壹 枚
- 一、第三裝冬襦袢袴下 壹 着
- 一、半 巾 壹 枚
- 一、靴 下（白） 壹 足

第三十一、領置書

領置書

- 一、革 紐 壹 個
- 一、鉛 筆 貳 本
- 一、編財布（紐付） 壹 個
- 一、「クローム」側拾型腕巻時計（革紐共）（番號六一四七四） 壹 個
- 一、木 印（刻印ハ字野） 壹 個
- 一、革財布 壹 個
- 一、五十錢銀貨 貳 枚

被疑者 井口一郎

右窃盜被疑事件ニ付昭和十三年一月十日京都憲兵分隊ニ於テ司法警察官陸軍憲兵曹長乙田二郎ハ所持者松田トクエノ任意ニ提出シタル別紙目錄ノ物件ヲ領置シタリ

昭和十三年一月十日



京都憲兵分隊司法警察官陸軍憲兵曹長 乙田二郎 印

憲兵捜査書類作成要領附録



領置目録		被領置者住所氏名	所有者住所氏名	備考
番號	品目	員數		
一號	現金四百圓	百圓札 四枚	七條新地平岡町 松田トクエ	官幣大社 稻荷神社
				送致

### 第三十二、押收調書

## 押收調書

昭和十四年十二月一日午後四時十分司法警察官陸軍憲兵曹長乙田二郎ハ甲野一郎ニ對スル殺人未遂被疑事件ニ付現行犯人ヲ受取り急速ヲ要スルヲ以テ何憲兵分隊ニ於テ司法警察吏陸軍憲兵上等兵丙川三郎立會ノ上押收ヲ爲スコト左ノ如シ

一、押收ノ品目並其ノ發見ノ場所

品目 高下駄 壹足  
雨傘 壹本

發見ノ場所 某所ニ於テ司法警察吏陸軍憲兵上等兵丙川三郎逮捕ノ際被疑者ノ着用携帯セシモノヲ發見

一、押收ノ時

午後四時十分

前同



何憲兵分隊

司法警察官陸軍憲兵曹長 乙田二郎

押收目録		差出人住居氏名	所有者住居氏名	備考
番號	品目	員數		
一	高下駄	壹足	住居不定 甲野一郎	何市何町何番地 丁山四郎
二	雨傘	壹本	同	右

憲兵搜查書類作成要領附録



第三十三、搜索調書

搜索調書

昭和十四年十二月二日甲野一郎強盜被告事件ニ付本職ハ被告人ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル出刃庖丁ヲ隠匿セリト申立ツル被害者東京市杉並區馬橋一〇五五番地丙山三郎方近隣ノ大ナル松ノ木ノアル邸宅ニ於テ住居主丁山四郎立會ノ上搜索ヲ爲スコト左ノ如シ

搜索ノ場所	東京市杉並區馬橋町一一二五番地 丁山四郎方
搜索ノ箇所又ハ物件	丁山四郎方邸宅内其附近一帶
搜索箇所	押收スベキモノヲ發見セズ
搜索處分ノ時間	着手 午後一時三十五分 終了 午後二時四十分

昭和十四年十二月二日

牛込憲兵分隊

陸軍司法警察官陸軍憲兵伍長

乙田 二郎

三三〇

第三十四、搜索押收調書

搜索押收調書

昭和十三年二月十四日〇兵第〇聯隊殺人屍體遺棄被告事件ニ付捜査ノ結果本職ハ仙臺陸軍病院内井戸内ニ頭部其ノ他ヲ隠匿シアラザルヤト思料シタルヲ以テ同病院長何某ノ承諾ヲ得陸軍一等軍醫正何某ヲ立會人トシテ構内井戸ヲ搜索シ押收ヲ爲スコト左ノ如シ

搜索ノ箇所又ハ物件	仙臺陸軍病院構内將校病室前井戸ニシテ數年前入院患者飛込自殺ヲ爲シ爾來使用セズ又浚渫シタルコトナク井戸ニハ十六番線針金ヲ以テ金網ヲ張りアルモ網目ハ二十二纏乃至三十五纏十字荒目ニシテ金網ノ連結ヲ解キタリト認メラルル部分アリ該井戸ハ直徑一、一六米深サ八、七米水深二、五五米井桁六、六三纏ニシテ井戸ノ位置別紙要圖ノ如シ
前記井戸ヲ浚渫シタル處	

憲兵捜査書類作成要領附錄

三三一



搜索處分ノ時間	搜索ノ結果
着手 昭和十三年二月十四日午前九時 終了 同 年同月同 日午後二時	1、頭蓋骨 壹 個 2、結髪ノ儘脱落セル頭髮(全部) 壹 個 3、兩上肢 貳 本 4、右肩胛骨 壹 個 5、頸椎 十 個 6、白木綿切レ 壹 片 7、ハトロン紙 壹 枚 等ヲ發見シ別紙目錄ノ通押收セリ其ノ模様添付寫眞ノ如シ

三三二

備考
張り出齒ニシテ齒ハ相當蝕アリテ被害者ハ爾來搜查中ナリシ 仙臺市外記丁一八官舎 宮城縣衛生課長北川光方 女中 平塚つね 當時二十三年 ト認定セラル而シテ加害者ハ頭部ヲ切斷兩上肢ヲ解體ノ上犯行ヲ晦マサンガ爲平素使用セザル該井戸ヲ選定投入シタルモノト思料セラ ル

昭和十三年二月十三日

仙臺憲兵分隊  
 陸軍司法警察官陸軍憲兵准尉 乙田二郎 印

憲兵搜查書類作成要領附録

三三三



第三十五、假還付請書

假還付請書

一、黑色羅紗製「オーバーコート」

壹枚

右物件ハ甲野一郎窃盜被疑事件ノ證據品ニ有之候處今般假ニ御還付相成正ニ領收仕候就テハ御用ノ節ハ何時ニテモ提出可致此段請書及提出候

昭和十四年十二月一日

東京市中野區團町二番地

丙山三郎

牛込憲兵分隊長司法警察官陸軍憲兵少佐大 阪

正殿

第三十六、徵收書

徵收書

東京市中野區團町二番地

質商 上總屋コト

乙田二郎

一、青銅製獅子置物

壹個

右ハ甲野一郎ノ質置品タル處質屋取締法第十六條ニ依リ徵收候也

昭和十四年十二月一日

牛込憲兵分隊長

司法警察官陸軍憲兵少佐 大 阪 正

第三十七、徵收物件請書

徵收物件請書

一、青銅製獅子置物

壹個

右ハ私所有品ニ相違無之候處今般甲野一郎ニ於テ乙田二郎方ニ入質シタル事實判明シ貴隊ヨリ御徵收ノ上御下渡シニ相成正ニ領收仕候ニ付請書及提出候

昭和十四年十二月一日

東京市中野區團町二番地

憲兵検査書製作成要領附録



被害者 丙 山 三 郎

牛込憲兵分隊長陸軍憲兵少佐大 阪 正殿

第三十八、公賣調書

公 賣 調 書

一、鯛 二百尾

右ハ甲野一郎要塞地帯法違反事件ノ證據品ナル處腐敗ノ虞アリ保有シ難キニ因リ本職ニ於テ本日公賣ニ附シタルコト別紙證據ノ通り

昭和十四年 七月五日



何 憲 兵 分 隊

司法警察官陸軍憲兵大尉 京 都 直

第三十九、廢棄調書

廢 棄 調 書

一、鯛 二百尾

右ハ甲野一郎要塞地帯法違反被疑事件ノ證據品ナル處腐敗ノ虞アリ保存難キニ因リ本日本職ニ於テ廢棄處分ニ附シタリ

昭和十四年 七月五日



何 憲 兵 分 隊

司法警察官陸軍憲兵大尉 大 垣 正

第四十、保管請書

保 管 請 書

一、三五年型「フォード」七人乗用車第一四五〇八號 壹 臺

右物件ハ甲野一郎ノ業務上過失致死被疑事件ノ證據品トシテ保管方御指示相成正ニ了承仕候就テハ何

憲兵捜査書類作成要領附録



分ノ御沙汰アル迄私ニ於テ保管致シ御用ノ節ハ何時ニテモ提出可致致ニ及請書候也

昭和十四年十二月一日 小人乘乘 東京市中野區團町二番地自動車業

保管者 丙 山 三 郎

牛込憲兵分隊長大 阪 正 殿

第四十一、提出命令書(其ノ一、提出命令書)

提出命令書

東京市中野區團町二番地

甲 野 一 郎

右ノ者ニ對スル軍機漏泄被疑事件ニ付事實發見ノ爲必要有之候條貴局保管ニ係ル右甲野一郎ヨリ發シ又ハ同人ニ對シテ發シタル一切ノ郵便物電報ハ刑事訴訟法第四百一條並同第四百七十四條ニ依リ即時當隊へ廻送提出方相煩度

昭和十四年

十二月一日

牛込憲兵分隊長



司法警察官陸軍憲兵少佐 大 阪

正 團

中野郵便局長東

田

團 殿

其ノ二、證據物件提出命令書

證據物件提出命令書

東京市中野區團町二番地

所 屬

陸軍何兵大尉 甲 野 一 郎

右ノ者ニ對スル軍機保護法違反被告事件ニ付證據物トシテ差押ノ必要ヲ認メ陸軍軍法會議法第九十條同第二百二十三條ニ依リ貴殿所持ノ左記物件ノ提出ヲ命ス

昭和十四年

十二月一日

牛込憲兵分隊長



司法警察官陸軍憲兵少佐 何

某 團

左 記

一、何

東京市何區何町何番地

何

某 殿

憲兵搜查書類作成要領附錄



第四十二、押收物件保管報告書

押收物件保管報告書

被告人 甲 野 一 郎

右横領被告事件ニ付別紙ノ通押收處分候處左記物件ハ危險ヲ生スル虞アルモノナルニ依リ左記ノ通り處分致候條及報告候也

昭和十四年



七月五日 憲兵 分隊

陸軍司法警察官陸軍憲兵大尉 成 田 五 郎

第何師團軍法會議

檢察官丙 田 三 郎 殿

左 記

一、「ガソリン」(赤貝印ニガロン入三十罐)ハ保管者丁田四郎ヲシテ保管セシム

番 號	押 收 目 録	被告人氏名	乙 田 一 郎
品 目	被押收者住所氏名	所有者住所氏名	備 考
ガソリン	何市何町何番地	何 某	丁田四郎方油庫ヨリ押收
ニガロン入	何市何町何番地		
參拾罐	乙 田 二 郎		

第四十三、素行調書

素行調書

東京市中野區園町二番地

米穀商 甲 野 一 郎

當二十三年

住居、職業	氏名	年 齡	經 歴	通 稱	前科其ノ他	性 質	教育程度
東京市中野區園町二番地	米穀商	甲	尋常小學校修了後東京市京橋區越前堀町一丁目二番地米穀商丙田二郎方ニ商業見習ノ爲奉公シ一年ニシテ朋輩トノ折合惡シク解僱トナリ爾來自宅ニアリテ時々父業タル米穀商ノ手助ヲ爲シアリタリ	一チヤン	ナシ	性狡猾ニシテ常ニ新宿驛附近ノカフェー、飲食店ニ出入シ時ニ店ノ賣上代金等ヲ無斷持チ出シ且喧嘩ヲ事トシ近隣ノ指彈ヲ受ケアリ	尋常小學校六年修了

憲兵搜查書類作成要領附錄



家庭ノ状況	實母ハ本人十二歳ノ時死亡シ實父勸助五十一歳妹ハル子十六歳ノ三人暮ニシテ妹ハ所謂母代リトシテ家計ヲ仕切り生計普通ナリ
資産ノ状況	自家瓦葺平家壹棟拾八坪畑地五畝歩ヲ有スル外毎月ノ賣上約百圓アリ生計普通ナリ
交際及信用	交際廣カラズ、交友ハ所謂不良少年ノ類ニシテ信用少シ
系統及健康状態	系統ナシ 身體健康ナリ
宗教	宗教 禪宗
兵役	兵役 第二乙種
犯罪ノ常習	拘摸
及特異技能	
處罰ノ要否及科刑ノ量定ニ必要ナル事項	小刀ヲ用ヒ他人ノ袂ヲ切り金品ヲ摘リ取ルガ如キハ相當糺彈然ルヘキモノト思料ス

右ノ通り調査候也

昭和十四年十二月一日

司法警察吏陸軍憲兵上等兵 丁 田 四 郎 ㊦

中野憲兵分駐所長

司法警察官陸軍憲兵曹長 牛 込 掌 ㊦

第四十四、始末書(其ノ一)

始末書

大阪市西區靱北通三丁目二十五番地

製本業 荻 田 寛 恭

當三十一年

右私儀ハ肩書地ニテ製本業ヲ致シテ居リマスガ

一、私方ハ五年程以前カラ京都市伏見稻荷神社境内田中社(一名權太夫サン)ヲ信仰シテ日詣リ等ヲ致シテ居リマスガ私ノ長男幸男當四年ガ昭和十二年六月初旬頃カラ病氣(胃腸病)ニ罹リ其ノ全癒ノ祈願ヲ掛ケテ田中社へ御詣リヲ致シテ置キマシタガ六月末頃ニ其ノ祈願ノ甲斐アツテ幸男ノ病氣ガ全快致シマシタノデ御禮詣リヲスルベク昭和十二年七月二十一日頃私ガ田中社ニ參リマシテ神前ノ御賽錢箱ノ中ニ横封筒ノ中ニ十圓紙幣二枚ヲ入レテ表ニ「熨斗」ヲ書イテ「御禮」ト書キ其ノ下ニ「大阪荻田」ト書名シ裏ニ「二〇、〇〇」ト書イタモノヲ投入致シテ歸リマシタ次第ニ二十圓ヲ幸男ガ全快シタ御禮ノ意味ニ賽錢箱ニ入レテ歸リマシタコトニ相違アリマセン故ニ

憲兵捜査書類作成要領附錄



本始末書ヲ以テ上申致シマス

昭和十三年二月二十四日

荻田 寛 恭

京都憲兵分隊長陸軍憲兵少佐乙 田 二郎殿

始末書(其ノ二)

始末書

住居 京都市伏見區深草藪ノ内町十七番地

官幣大社稻荷神社主典 原 田 國 三 郎

明治二十年五月五日生

- 一、當稻荷山ノ總面積ハ九十五町步程アリマシテ其ノ内五十四町步程ハ國有林ニナリ残り四十一町步程ハ官有地ニ相成ツテ居リマシテ此ノ官有地内ニ賽錢箱ノ設ケテアル箇所ハ九ヶ所(田中社、御膳谷、中ノ社、下ノ社、上ノ社、長齊社、間ノ峯、藥力社、能鷹社)デアリマス
- 二、今度ノ御除ヨリ當社ノ田中社ニ設ケテアル賽錢箱カラ

昨年七月頃

貳拾圓(十圓紙幣二枚)

本年一月一日頃

壹阡圓(百圓紙幣十枚)

- ノ賽錢ヲ盜マレタ事ハナイカトノ御訊ネデアリマスガ左様ナ事實ハ全然存ジテ居リマセヌ
- 三、田中社ト申シマスノハ田中神蹟トモ申シテ居リマシテ稻荷山參道ノ中腹ニ在リマス神祀デ御座イマシテ場所ハ參道ノ北側石段ヲ四十段程登リツメタ地點ニ南向ニ成ツテアリ其ノ前面ニ丹塗ノ木ノ鳥居ヲ建テ夫ヨリ一間程奥ニ供物臺ヲ拵ヘテ其ノ前ニ樺製ノ賽錢箱(高サ約二尺幅約一尺一寸深サ約二尺)ガ地面ニ設置シテ在リマス此ノ賽錢箱ノ前面ニハ錠前ヲ掛ケテアリ幅ナリニ前後ヘ樺筒ガ通シテ賽錢箱ノ後方ノ杭ニ取付ケテ嚴重ナ處置ガ致シテ有リマスシ尙又賽錢箱ノ内側ハ二重ニ段ガ造ツテ在ツテ投入口ヨリ細クシテ中ノ賽錢ヲ盜マレヌ様ナ仕掛ケニシテ有ルノデ一旦底迄入ツタ賽錢ハ盜マレル様ナ事ハナイノデアリマス
- 四、田中社ノ周圍ニ獻燈ガ澤山建テ在リ獻燈シタ者ノ住所氏名ハ大體書イテ御座イマス實ハズツト以前ハコノ賽錢箱ノ盜難ガ有ツタケレ共最近ハ毎日午後三時カラ午後四時迄ノ間ニ賽錢ヲ纏メル習慣ニ致シテ居リマス關係ト守衛ガ一日三回巡察致シマスノデ盜難ハ餘リ聞キマセヌ
- 五、其所デ御訊ネノ貳拾圓ト壹阡圓ト二回ノ札盜難ノ件デアリマス當社ニハ毎日ノ賽錢高ハ帳簿ニ記

憲兵搜查書類作成要領附録



載シテアリマスレド札ノ御賽錢ハ一、二年程前ニ五圓札一枚ガ全社ヲ通ジテ一回御座イマシタノ  
トズツト以前ニ本社ノ賽錢ニ札許リ五十圓アツタコトガアリコレハ間違ヒダツタノデ御本人ニ返  
還シタ事ガ有ツタ切リデ其ノ他ニ在リマセヌ夫レデ斯ウ云フ過去ノ事實カラ考ヘマスト奇蹟デモ  
ナイ限リ十圓札貳枚ダトカ百圓札拾枚ダトカ云フ御賽錢ハ有リ得ナイコトカト存ジテ居リマス承  
リマスト昨年七月頃ノ拾圓札貳枚、貳拾圓ノ賽錢ハ奉納シタ者ガ御判リニナツタ趣デソウ致シマ  
スト満更左様ナ事實ハナイト云フ事ハ出来ナイ譯デ奉納シタ方ガアリマスレバ當社ノ賽錢ガ盗マ  
レタ事ニ相成ル譯デアリマス

六、今度御隊ニ檢舉セラレテ當社ノ賽錢ヲ盗ンダト云フ男ハ井口一郎當三十八年ダサウデアリマスガ  
守衛ヤ其ノ他ニ聞イテ見マスト其ノ男ノ人相ニ依リマス以前カラ當社ノ境内ヲウロ附イテ居ツ  
タ男デアリ毎朝夜明け前ニ山科ノ方カラ出テ來ル男ダト云フ話デアリマス夫レニ守衛長松山環ノ  
言葉デハ三年程前ニ一度境内ニ出火ガアリ早朝發見者ガ參拜者ノ一人デ特ニ功勞者トシテ社ヨリ  
賞與シタ事ガアリ此男ガ今回ノ泥棒ダト云フ様ナ事ヲ話シテ居リマシタ何レニシロ當社ヘハ始終  
來テ居ル男ニ相違アリマセヌ  
右事實ノ儘始末書ヲ以テ申上ゲマス

昭和十三年三月七日

原田 國太郎

京都憲兵分隊長陸軍憲兵少佐 乙 田 二郎 殿

始末書(其ノ三)

始末書

東山區泉涌寺門前町今能市場 雜貨店

北川 才一

當四十一年

私儀本年ノ才正月早々月日ハ確カナル事ハ覺エマセヌガ一見三十五、六歳位ニ見エル洋服男ガ百圓札  
デ「バツチ」ト靴下(此代金四圓五十錢位)ヲ買求メニ來マシタカラ同市場ノ事務所デ兩替ナシ右男  
ヘ釣錢九十五圓五十錢位(内譯十圓札九枚外小錢取混ゼ)ヲ引渡シマシタ事實ハ相違御座イマセヌ尙  
本日御著デ面接サセテ頂イタ男ハ確ニ百圓札デ買物ニ來ラレタ男ニ全然相違御座イマセヌ  
右始末書ヲ以テ申上候

憲兵搜查書類作成要領附錄



昭和十三年三月十日

京都憲兵分隊長陸軍憲兵少佐乙 田 二郎殿

北川 才一

三三八

第四十五、顛末書

顛末書

本籍 仙臺市北二番丁一二九番地  
住居 仙臺市木町通一九三番地

齒科醫師 丙 山 三郎

一、私ハ大正八年八月日本齒科醫學專門學校ヲ卒業シ大正十三年五月肩書地ニ開業シタルモノデアリ  
マス

二、昭和九年四月十三日仙臺市外記丁廳官舎内北上秋雄衛生課長家族ノ治療料金ヲ女中ナル平塚つね子ガ持参シ支拂ツタ序ニ平塚つね子ノ齒ノ治療ノ申込ヲ受ケタノデ治療致シマシタ十三、十四、十五、十七、十八日ノ五回治療シテ上顎左右中切齒ニ「セメント」充填ヲナシ上顎右側切齒ニ「トリオライトインレー」(白色合金ノ鑲嵌)ヲナシテ治療料金五圓ヲ受領致シマシタ

三、昭和十三年二月十八日東北帝大法醫學教室ニテ頭蓋左右中切齒ニ「セメント」充填アリ左側切齒ニ窩洞アリ即チ「トリオライトインレー」ヲナシタルガ如キ形跡アリ右側切齒ハ脱落シテ見ルコトガ出来マセンデシタガ大體ニ於テ私ノ治療シタ平塚つね子ノ診療簿ト合致シタル様ニ思ハレマス  
昭和十三年二月十九日

仙臺憲兵分隊御中

第四十六、盜難被害始末書

盜難被害始末書

被害者	住居	被害ノ日時	被害場所ノ様	
			被盜品	在ノ箇所
陸軍歩兵大尉 甲 野 一 郎	東京市中野區圓町二番地	昭和十四年十二月一日午後二時ヨリ同午後五時半迄ノ間	私宅奥八疊ノ間ニシテ妻ノ外出時ハ室ノ障子ハ閉メ切り玄關ノ格子ニハ施錠シアリシガ施錠ハ破壊サレ八疊ノ間ノ障子ハ開放タレ室内ニハ箆筒内ノ安物衣類散亂シアリ東	右八疊ノ間東南隅ニアリシ箆筒内

憲兵捜査書類作成要領附録

三三九











盜難屆	百二十一	重永光次
同	百二十五	益子平次郎
事實調査方ノ件回答	百二十九	大阪府天王寺警察署
同	百四十九	青森縣弘前警察署
同	百八十	兵庫縣姫路警察署
同	百九十二	宮城縣石卷警察署
買取並提出始末書	二百二十三	小谷邦夫
請書	二百二十五	重永光次
同	二百二十六	綠志保
同	二百二十七	同
答申書	二百二十八	豐島留吉
本籍照會	二百三十	小野種雄
同	二百三十一	同

本籍照會	二百三十二	綠志保
同	二百三十三	同

其ノ二、(軍司法警察官トシテ作成スルモノ)

### 書類目録

文書ノ目標	丁數	備考
犯行調書	一	
訊問調書	五	被告人甲野一郎
第二回訊問調書	十	右同
第三回訊問調書	十三	右同
第四回訊問調書	十六	右同
第五回訊問調書	十九	右同
第六回訊問調書	二十四	右同
聽取書	二十八	證人平塚貞次郎

憲兵捜査書類作成要領附録



聽取書	三十一	證人大沼トリ
同	三十五	證人大門貞子
同	三十九	證人相澤もと
同	四十二	證人陸軍衛生伍長原一夫
同	四十五	證人小山正弘
同	四十八	證人板倉忠助
同	五十一	證人佐藤正一
同	五十四	證人甲野正太郎
同	五十九	證人佐藤うめ
同	六十二	證人佐藤クニ
檢證調書	六十五	步兵第〇聯隊井戸
搜索押收調書	六十八	陸軍病院井戸
同	七十	病理試驗室床下
檢證調書	七十一	犯行現場

第五十、送致書 (司法警察官トシテ作成スルモノ)

事實調査ノ件報告	七十五	憲兵軍曹 島山 榮一
捜査ノ件報告	七十七	憲兵軍曹 大槻 七郎
被害者身元調査報告	七十九	憲兵上等兵 阿部 新七郎
顛末書	八十二	齒科醫師 丙山 三郎
勤務箇所調査ノ件	八十四	仙臺陸軍病院長 熊谷 周藏

發翰番號	非現行犯罪事件送付書
件名	窃盜
發覺原因	貸座敷臨檢
逮捕日時	
身上調	添付
居住籍本者疑被	京都府久世郡宇治町大字宇治郷小字東内五番地 住居不定 無職 井口 一郎 當三十八年

憲兵搜查書類作成要領附録



前科調	無
證據品	添付
其ノ他取調	無
中ノ事照會等	無
考備	

職業氏名年齢

右被疑事件別紙記錄目錄之通送致候也

昭和十三年



三月十日

京都憲兵分隊長

司法警察官陸軍憲兵少佐

大阪

正印

京都區裁判所檢事局

檢事 大野讓二殿

第五十一、意見書

意見書

井口一郎

當三十八年

一、犯罪發覺原因

貸座敷臨檢不審訊問ニ因ル窃盜被疑事件ノ非現行犯

二、前科ノ有無

窃盜前科二犯及窃盜起訴猶豫一回アリ

(イ) 前科ハ

- 第一犯 昭和五年四月十五日京都區裁判所ニ於テ住居侵入窃盜(空巢)罪ニ依リ懲役六月
- 第二犯 昭和十年二月二十六日京都區裁判所ニ於テ窃盜(賽錢盜)ニ依リ懲役十月昭和十年十二月二十七日京都刑務所出所

(ロ) 起訴猶豫ハ

憲兵搜查書類作成要領附録



昭和十一年十一月二十五日京都區裁判所檢事局ニ於テ窃盜罪(賽錢盜)ニ依リ起訴猶豫處分  
三、爵位、勳功、記章、褒章、恩給、年金、扶助料等有無  
ナシ

四、犯罪事實

被疑者ハ犯意續續シ

- (1) 昭和十二年七月上旬頃京都市伏見區稻荷神社境内田中社設置ノ賽錢箱内ヨリ信者ノ奉納ニ係ル稻荷神社所有賽錢金二十圓ヲ
  - (2) 更ニ昭和十三年一月一日頃ノ午前六時前同様賽錢箱内ヨリ稻荷神社所有ノ賽錢金壹千圓(内譯百圓札十枚)ヲ
- 各窃取シタルモノナリ

五、證據

右事實ハ

- 第一、被疑者ノ自白
- 第二、之ニ符合スル

(イ) 司法警察吏陸軍憲兵上等兵丁田四郎搜查報告書

(ロ) 賽錢奉納者萩田寛恭始末書

(ハ) 被害者稻荷神社代理原田國三郎始末書

(ニ) 娼妓北川カリエ始末書及聽取書

(ホ) 宮野きぬ及北川才一始末書

第三、領置ノ百圓札十圓札等現金五百十六圓  
等ニ依リ證明十分ナリ

六、犯罪ノ動機並情狀

被疑者ハ身體強健智能十分ナルニ不拘安逸ヲ追ヒテ遂ニ生活ニ窮シ窃盜前科ニ犯ラ重ネ益々自棄  
ニナリテ昭和十年十二月刑務所出所以來東山山中ニ巢喰ヒテ山窩ノ如キ身分ニ陥リ食ニ窮スレバ  
墓地ニ出テテ供物ヲ窃取シ金錢ニ窮スレバ賽錢盜ヲ敢行スル等人トシテノ情味乏シク性特ニ獐狂  
ニシテ毫末モ改悛ノ情ナク酌量ノ餘地ナシ

七、法律ノ適用並處罰意見

本件ハ刑法第二百三十五條ニ該當累犯ニ係ルヲ以テ嚴重御處罰相成可

憲兵搜查書類作成要領附録



昭和十三年

三月十日



京都憲兵分隊

司法警察官陸軍憲兵曹長 乙田二郎

某殿

京都區裁判所檢事局檢事何

第五十二、刑事統計表記載規定ニヨル刑法犯罪名

刑法條項

罪名

第一章 皇室ニ關スル罪

- 七三 皇室危害
- 七四ノ一 皇室不敬
- 七四ノ二 皇陵不敬
- 七五 皇族危害
- 七六 皇族不敬

第二章 内亂ニ關スル罪

- 七七ノ一ノ一號 内亂首魁
- 七七ノ一ノ二號上半 内亂謀議參與
- 七七ノ一ノ二號下半 内亂職務從事
- 七七ノ一ノ三號 内亂附和隨行
- 七八 内亂豫備陰謀
- 七九 内亂幫助

第三章 外患ニ關スル罪

- 八一 戰端開始抗敵
- 八二ノ一 軍用地交付
- 八二ノ二 軍用物件交付
- 八三 軍用地物損壞
- 八四 戰用物件交付
- 八五ノ一 間諜罪

憲兵搜查書類作成要領附錄



八五ノ二

八六

八八

第四章 國交ニ關スル罪

九〇ノ一

九〇ノ二

九一ノ一

九一ノ二

九二

九三

九四

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

九五ノ一

九五ノ二

軍機漏泄

軍利妨害

外患豫備陰謀

外國主權者暴行脅迫

外國主權者侮辱

外國使節暴行脅迫

外國使節侮辱

外國旗等損壞

私戰豫備陰謀

局外中立違背

公務妨害

公務員強制

九六

第六章 逃走ノ罪

九七

九八

九九

百ノ一

百ノ二

百一

第七章 犯人藏匿及證憑湮滅ノ罪

百三

百四

第八章 騷擾ノ罪

百六ノ一ノ一號

百六ノ一ノ二號

封印破毀

單純逃走

加重逃走

被拘禁者奪取

逃走幫助

逃走幫助暴行

看守者逃走幫助

犯人藏匿

證憑湮滅

騷擾首魁

騷擾指揮助勢

憲兵搜查書類作成要領附錄



百六ノ一ノ三號

百七ノ上半

百七ノ下半

騷擾附和隨行

多衆不解散首魁

多衆不解散

三五六

第九章 放火及失火ノ罪

百八

百九ノ一

百九ノ二

百一〇ノ一

百一〇ノ二

百一一ノ一

百一一ノ二

百一一ノ三

百一三

百一四

現住建造物船車鑛坑放火

非同右

自己所有同右

建造物等以外放火

自己所有同右

自己所有非現住建造物等以外放火

自己所有建造物等以外放火

建造物等以外延燒

放火豫備

鎮火妨害

百一六ノ一

百一六ノ二

百一七ノ一

百一七ノ二

百一八ノ一

百一八ノ二

建造物其他失火

自己所有非現住建造物其他失火

準放火

準失火

瓦斯、電氣、蒸汽放遮

同右致死(傷)

第十章 溢水及水利ニ關スル罪

百一九

百二〇ノ一ノ二項

百二一

百二二ノ上半

百二二ノ下半

百二三

現住建造物、汽車、電車、鑛坑浸害

建造物等以外浸害

水利妨害

過失建造物、汽車、鑛坑浸害

過失建造物等以外浸害

水利妨害

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

憲兵搜查書類作成要領附錄

三五七



往來妨害

往來妨害致死(傷)

電車、汽車往來危險

船舶往來危險

電車、船舶顛覆

艦船覆沒

船舶覆沒致死(傷)

過失往來妨害

從業者過失往來妨害

第十二章 住居ヲ侵ス罪

百三〇

住居侵入

百三一ノ一

皇居侵入

百三一ノ二

神宮侵入

第十三章 秘密ヲ侵ス罪

百三三

信書開披

百三四

秘密漏泄

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

百三六

阿片煙輸入製造販賣所持

百三七

阿片煙吸食器具輸入製造販賣所持

百三八

稅關官吏阿片煙輸入

百三九ノ一

阿片煙吸食

百三九ノ二

阿片煙吸食房室給與

百四〇

阿片煙及同吸食器具所持

第十五章 飲料水ニ關スル罪

百四二

飲料淨水汚穢

百四二 百四五

飲料淨水汚穢致死(傷)

百四三

水道汚穢

百四三

水道汚穢致死(傷)

憲兵搜查書類作成要領附錄



百四四

百四四 百四五

百四六ノ上半

百四六ノ下半

百四七

第十六章 通貨偽造ノ罪

百四八ノ一

百四八ノ二

百四九ノ一

百四九ノ二

百五〇

百五二

百五三

飲料淨水毒物混入

飲料淨水毒物混入致死(傷)

水道毒物混入

水道毒物混入致死(傷)

水道損壞壅塞

通貨偽造

偽造貨幣行使

外國通貨偽造

偽造外國通貨行使

偽造貨幣收得

收得後偽造知情行使

貨幣偽造準備

第十七章 文書偽造ノ罪

百五四ノ一 同二

百五四 百五八

百五五ノ一 同二

百五五ノ一、二 百五八

百五五ノ三

百五五ノ三 百五八

百五六 百五五ノ一、二

百五六 百五五ノ一、二 百五八

百五六 百五五ノ三

百五六、百五五ノ三 百五八

百五七ノ一

百五七ノ一 百五八

百五七ノ二

百五七ノ二 百五八

大權文書偽造

偽造大權文書行使

有印公文書偽造

偽造有印公文書行使

無印公文書偽造

偽造無印公文書行使

偽造有印公文書作成

偽造有印公文書行使

虛偽無印公文書作成

虛偽無印公文書行使

公正證書原本不實記載

不實記載公正證書原本行使

免狀鑑札旅券不實記載

不實記載免狀鑑札旅券行使



百五九ノ一、二

有印私文書偽造

百五九ノ三

無印私文書偽造

百五九ノ三 百六一

偽造無印私文書行使

百六〇

虛偽診斷書作成

百六〇

虛偽診斷書行使

第十八章 有價證券偽造ノ罪

百六二ノ一、二

有價證券偽造

百六二ノ三

偽造有價證券行使

第十九章 印章偽造ノ罪

百六四ノ一

御璽、國璽、御名偽造

百六四ノ二

偽造御璽、國璽、御名不正使用

百六五ノ一

公印偽造

百六五ノ二

公印不正使用

百六六ノ一

公記號偽造

百六六ノ二

公記號不正使用

百六七ノ一

私印偽造

百六七ノ二

私印不正使用

第二十章 偽證ノ罪

百六九

偽證

百七一

虛偽鑑定

第二十一章 誣告ノ罪

百七二

誣告

第二十二章 猥褻姦淫及重婚ノ罪

百七四

公然猥褻

百七五

猥褻文書頒布

百七六 百七八

猥褻

百七六 百七八 百八一

猥褻致死(傷)

百七七 百七八

強姦

憲兵捜査書類作成要領附録



百七七 百七八 百八一  
百八二  
百八三  
百八四

第二十三章 賭博及富籤ニ關スル罪

百八五  
百八六ノ一  
百八六ノ二  
百八七ノ一  
百八七ノ二  
百八七ノ三

第二十四章 禮拜所及墳墓ニ關スル罪

百八八ノ一  
百八八ノ二

強姦致死(傷)

淫行勸誘

姦通

重婚

賭博

常習賭博

賭博開帳

富籤發賣

富籤取次

富籤授受

禮拜所不敬

說教妨害

百八九

百九〇

百九一

百九二

第二十五章 瀆職ノ罪

百九三

百九四

百九五ノ一

百九五ノ一 百九六

百九五ノ二

百九五ノ二 百九六

百九七ノ一ノ上半

百九七ノ一ノ下半

百九八

墳墓發掘

死體遺棄

墳墓發掘死體遺棄

變死者密葬

公務員職權濫用

特別公務員職權濫用

特別公務員暴行陵虐

特別公務員暴行陵虐致死(傷)

看守者暴行陵虐

看守者暴行陵虐致死(傷)

單純收賄

加重收賄

贈賄



第二十六章 殺人ノ罪

百九十九

百九十九

百九十九 二百一

二百

二百 二百一

二百一

三六六

殺人

嬰兒殺

殺人豫備

尊屬殺人

尊屬殺人豫備

自殺教唆

第二十七章 傷害ノ罪

二百四

二百五ノ一

二百五ノ二

二百六

二百八

傷害

傷害致死

尊屬傷害致死

傷害助勢

暴行

第二十八章 過失傷害ノ罪

二百九

二百一〇

二百一一

過失傷害

過失傷害致死

業務上過失致死(傷)

第二十九章 墮胎ノ罪

二百一二

二百一三ノ上半

二百一三ノ下半

二百一四ノ上半

二百一四ノ下半

二百一五

二百一六

墮胎

受諾墮胎

受諾墮胎致死(傷)

醫師墮胎

醫師墮胎致死(傷)

無諾墮胎

無諾墮胎致死(傷)

第三十章 遺棄ノ罪

二百一七

二百一七 二百一九

幼老者遺棄

幼老者遺棄致死(傷)

憲兵搜查書類作成要領附錄

三六七



二百一八ノ一

保護者幼老者遺棄

二百一八ノ一 二百一九

保護者幼老者遺棄致死(傷)

二百一八ノ二

尊屬遺棄

二百一八ノ二 二百一九

尊屬遺棄致死(傷)

第三十一章 逮捕及監禁ノ罪

二百二〇ノ一

逮捕監禁

二百二〇ノ一 二百二一

逮捕監禁致死(傷)

二百二〇ノ二

尊族逮捕監禁

二百二〇ノ二 二百二一

尊族逮捕監禁致死(傷)

第三十二章 脅迫ノ罪

二百二二

脅迫

二百二三

強要

第三十三章 略取及誘拐ノ罪

二百二四

略取誘拐

二百二五

營利誘拐

二百二六ノ一

國外移送拐取

二百二六ノ二

人身賣買

二百二七ノ一

拐取幫助

二百二七ノ二

營利拐取幫助

第三十四章 名譽ニ對スル罪

二百三〇ノ一

名譽毀損

二百三〇ノ二

死者名譽毀損

二百三一

侮辱

第三十五章 信用及業務ニ對スル罪

二百三三

信用毀損

二百三四

業務妨害

第三十六章 窃盜及強盜ノ罪

二百三五

窃盜

憲兵搜查書類作成要領附錄